

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
<b>600 病害虫</b>			
<b>601 全般</b>			
後藤和夫	1950	“甘藷病害蟲の防除.”, 「甘藷馬鈴薯増産技術の基礎」(日本園芸中央会編).	日本園芸中央会, 社村(長野県北安曇郡), pp.197-
堀切正俊	1970	サツマイモの害虫防除.	農薬研究 17(1): 54-60.
飯島 鼎	1951	甘藷と大豆の病害.	農業世界 46(8): 82-84.
Mason, Linda J. (守屋成一 訳)	1996	サツマイモ -総合的有害生物管理の可能性を探る-	沖縄農業 31(1): 97-105.
小川 奎	1982	最近問題になっているサツマイモ病害と防除.	植物防疫 36(5): 221-224.
小川 奎	1984	サツマイモの土壌病害と塊根異常症.	農及園 59(1): 67-72.
小川 奎	1987	“サツマイモ [病気]”, 原色野菜病害虫百科 5(農文協編)	農文教, 東京, pp.363-387.
瀬戸口 脩	2005	サツマイモ病害虫発生の概況.	いも類振興情報 83: 11-17.
島袋俊一・高良鉄夫	1962	甘藷の病害虫.	琉大農家便り 74: 8-10.
田上義也	1951	甘藷の病害とその対策.	醜醜協会誌 9(9): 261-265.
宇都敏夫	1955	琉球における甘藷病害の現状.	植物防疫 9(2): 60-64.
渡邊 健	2010	“節の概説. (1) 病害とその防除. ([1] ウイルス病を除く). ”, 3.病害虫・生理障害, III サツマイモの生産と普及, 「サツマイモ事典」(いも類振興会編).	いも類振興会, 東京, pp.186. 188-191.
渡邊 健	2012	土壌病害の見分け方 (2) サツマイモ編. (植物防疫基礎講座)	植物防疫 66(6): 352-355.
渡邊 健	2014	“1 主な病害と防除.”, 3節 病害虫・生理障害, VI章 焼きいも用サツマイモの栽培・管理と産地, 「焼きいも事典」(いも類振興会編).	いも類振興会, 東京, pp.119-121.

<b>610 ウイルス病・ファイトプラズマ病</b>			
秋田重男・山本史夫・小野光幸	1954	甘藷育種試験に於ける斑紋ウイルス病(Featherymottle)の防除事例.	中国農試報 A3: 61-63.
明日山秀文	1950	サツマイモのインターナル・コルクとその斑紋ウイルス病との類似点.	植物防疫 6(12): 452-
道家剛三郎	1950	甘藷モザイク病葉の剛さについて.	日植病報 14(3-4): 71-74..
遠藤武雄	1950	甘藷斑紋ウイルス病の防除対策について.	植物防疫 6(12): 443-
遠藤武雄	1951	甘藷黒斑病の予病法.	農薬と病虫 5(2): 67.
伏水邦彦・林田英一・小代寛正	1996	かんしょ遠隔栽培地帯における低コスト隔離栽培法の確立.	熊本農研セ研報 5: 1-8.
権藤道夫・城戸典弘	1948	ウイルス罹病甘藷の塩素酸加里に對する抗毒性に就て(豫報).	九州農業研究 3: 20.
権藤道夫	1951	ウイルス罹病甘藷の塩素酸加里溶液に對する抗毒性.	九大農學藝誌 13 (1-4): 32-35.
浜屋悦次	1987	組織培養法によるウイルス罹病植物の無毒化に関する先駆的研究. (学会賞受賞者講演)	日植病報 53(3): 279-281.(講要)
花田 薫・後藤英世・大貫正俊	1996	大分県のサツマイモから検出されたサツマイモ斑紋モザイクウイルス.	九州病虫研報 42: 9-12.
花田 薫・酒井淳一・大貫正俊	1997	サツマイモ斑紋モザイクウイルスの系統共通プライマーを用いたRT-PCRによる検出.	日植病報 63(3): 259.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
花田 薫・大貫正俊	1998	サツマイモ斑紋モザイクウイルスF系統の諸性質とその分類学的所属の再検討.	九州病虫研報 44: 116-117. (講要)
花田 薫	2010	“1) ウイルス病.”, (1) 病害とその防除, 3.病害虫・生理障害, III サツマイモの生産と普及, 「サツマイモ事典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, pp.186-188.
Haque, N.A.K.M., Tanaka, Y. and Nishiguchi, M.	2004	Graft transmission of target specificity of RNA silencing; Transgenic plants with 5' portion of coat protein gene of <i>sweet potato feathery mottle virus</i> .	Ann. Phytopathol. Soc. Jpn. 70(3): 268. (abs.)
林 隆治	1992	サツマイモ帯状粗皮病の病原ウイルス.	九州農試年報 1990: 19-20.
市 和人・軽部 稔・新屋 明・熊谷 亨・梅村 芳樹	1986	青果用サツマイモの帯状粗皮症個体の接木検定法.	九州農業研究 48: 255.
市 和人・和泉勝一・軽部 稔・新屋 明	1990	青果用サツマイモの無病苗のウイルス再汚染と防止技術.	九州農業研究 52: 197.
井手義人・坂本 敏	1979	かんしょの葉巻症状に関する研究 第1報 葉巻症状の世代感染と温湯および温度処理の影響について.	九州農業研究 41: 49.
井手義人・坂本 敏	1980	かんしょの葉巻症状に関する研究 第2報 葉巻症状の接木と汁液接種ならびに種子伝染について.	九州農業研究 42: 43.
井手義人・坂本 敏	1981	カンショの葉巻症状に関する研究 第3報 葉巻症状の品種間差異と年次変動並びに減収率について.	九州農業研究 43: 47.
井手義人・坂本 敏	1982	カンショの葉巻症状に関する研究 第4報 成長点組織培養による無症状株の作出.	九州農業研究 44: 42.
Iwanami, T.	2004	Recent progress in characterization and control of virus disease.	Sweetpotato Res. Front 18: 3.
和泉勝一・深町三朗	1990	サツマイモ帯状粗皮病の感染時期と症状発現の関係.	九州病虫研報 36: 19-21.
神田勝弘・小岩弘之・加藤久晴・園田昌司・西口正通	1999	サツマイモ斑紋モザイクウイルスゲノムにコードされるHC-Proの感染植物における局在性.	日植病報 65(3): 240. (講要)
加藤仁平	1953	新病害甘藷斑紋バイラスとはどんなものか.	農村 31(10): 36-38.
加勇田 誠・坂本真一	1987	食用カンショ帯状粗皮症の発生原因と対策 第1報 帯状粗皮症の接木伝染と茎頂培養苗の効果.	九州農業研究 49: 64.
小室康雄・他	1955	甘藷斑紋バイラス病の伝染方法.	農業技術 10(8): ???
熊谷 亨 梅村 芳樹	1986	キダチアサガオ高接ぎによるサツマイモウイルス簡易検定法.	九州農業研究 48: 66.
熊谷 亨・梅村 芳樹	1987	長期高温処理によるサツマイモウイルスの除去.	九州農業研究 49: 63.
熊澤誠人・五島一徳	1990	カンショウイルスフリー苗大量増殖法の改善について.	九州農業研究 52: 40.
鋤塚喜久治・藤川 隆	1947	筑後地方に於ける甘藷モザイク病の発生気温と本病が収量に及ぼす影響.	九州農業研究 1: 16-17.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Liu, Q., Li, Y., Song, P., Zhou, F., Qiao, Y., Dong, J., Yue, J., Yang, J. and Shi, M.	2020	Diversity of viruses infecting sweet potato in Beijing based on small RNA deep sequencing and PCR or RT-PCR detection.	J.Gen.Plant Pathol. 86 (4): 283-289.
Ma, S., Zheng, Q., Ye, J., Feng, W., Zhou, G. and Zhang, T.	2019	Identification of viruses infecting sweet potato in southern China by small RNA deep sequencing and PCR detection.	J.Gen.Plant Pathol. 85 (2): 122-127.
三苦功吉・熊沢誠人・平山俊一・安倍世紀・吉野雅子・北内義弘	1991	サツマイモ帯状粗皮病の発生防止技術.	大分農技セ研報 21: 85-115.
森 寛一・足城惣一	1956	甘藷斑紋ウイルス病の種子伝染の有無について.	日植病報 20(4): 175.(講要)
森 寛一	1956	甘藷斑紋ウイルス病の寄主範囲について.	日植病報 21(1): 39.(講要)
森 寛一・竹股知久	1957	甘藷斑紋ウイルス病苗の塩素酸カリ抗毒性について.	日植病報 22(1): 40.(講要)
森 寛一・竹股知久	1957	各種抗生物質の甘藷斑紋ウイルス病苗に及ぼす影響について.	日植病報 22(1): 40.(講要)
森 寛一	1958	山梨県に発生した甘藷の新ウイルス病.	植物防疫 12(2): 67-
森 寛一・池上雍春	1959	甘藷インターナルコルクの成因に関する研究(第1報) 解剖的観察.	日植病報 24(1): 47.(講要)
森 寛一	1960	日本とアメリカの甘藷ウイルス病の比較(I) 病徴と被害.	日植病報 25(1): 44.(講要)
森 寛一	1961	甘藷縮葉モザイク病株から分離されたCMVについて.	日植病報 26(2): 68-69.(講要)
森 寛一・池上雍春	1961	サツマイモのモザイク病に関する研究 第1報 伝染性について.	日植病報 26(5): 237-238.(講要)
森 寛一・沢田 肇・池上雍春	1962	サツマイモのウイルス病に関する研究.	農事試研報 2: 45-143.
森 昌樹・宇杉富雄・林隆治・西口正通	1992	サツマイモ斑紋モザイクウイルス普通系統 (SPFMVO) の3' 末端領域の塩基配列.	日植病報 58(1): 114.(講要)
森 昌樹・宇杉富雄・林隆治・西靴正通	1992	サツマイモ斑紋モザイクウイルス普通系統 (SPFMV-O) の3'末端領域の塩基配列.	九州農業研究 54: 95.
森 昌樹・木村貴志・酒井淳一・花田 薫・西口正通	1993	サツマイモ斑紋モザイクウイルスのコードするタンパク質(VPg, NIb)の核移行性の解析.	日植病報 59(6): 714-715.(講要)
森 昌樹・木村貴志・酒井淳一・花田 薫・西口正通	1994	サツマイモ斑紋モザイクウイルスのコードするタンパク質(VPg, NIb)の核移行性の解析.	九州農業研究 56: 84.
Mori, M., Usugi, T., Hayashi, T. and Nishiguchi, M.	1994	Nucleotide sequence at the 3'-terminal region of sweet potato feathery mottle virus (ordinary strain, SPFMV-O) RNA.	Biosci. Biotechnol. Biochem. 58(5): 965-967.
森 昌樹	1994	サツマイモ帯状粗皮病の病原ウイルスの全遺伝子のクローニングと全塩基配列決定.	九州農試年報 1993: 37-39.
向 秀夫	1951	琉球に発見された甘藷の新ウイルス病.	農及園 26(8): 845-848.
向 秀夫	1951	新しい甘藷のウイルス病 - 琉球で致命的打撃日本に侵入を警戒 -.	農業日本 6(11): 32-34.
向 秀夫	1952	恐ろしいサツマイモの新ウイルス病.	農村文化 31(3): 36-39.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
村上景子・川端富雄・永島 聡	1989	(39) ロックウールを用いたサツマイモウイルス簡易検定法の検討.	日作関東支報 4: 97-98.(講要)
長田龍太郎	1984	サツマイモ帯状粗皮症とひも状粒子との関連.	日植病報 50(1): 103-104.(講要)
長田龍太郎	1984	サツマイモ帯状粗皮症とひも状粒子との関連.	九州農業研究 46: 111.
長田龍太郎	1984	サツマイモ帯状粗皮症の茎頂培養苗への接木伝染.	九州病虫研報 30: 33-35.
長田龍太郎	1986	サツマイモ帯状粗皮症苗の茎頂培養苗への接木接種後代塊根の皮色低下.	九州病虫研報 32: 34-36.
長田龍太郎	1990	食用カンショウイルスフリー苗の作出と効果.	宮崎総農試研報 25: 77-90.
長田龍太郎	1991	青果用サツマイモ帯状粗皮病対策としての茎頂培養苗の利用と再汚染防止技術.	農業技術 46(2): 71-74.
長田龍太郎・森 昌樹・宇杉富雄・酒井淳一・花田 薫・西口正通	1994	RT-PCRを用いたサツマイモ斑紋モザイクウイルスの系統特異的検出.	日植病報 60(6): 740.(講要)
長田龍太郎・森 昌樹・宇杉富雄・酒井淳一・花田 薫・西口正通	1995	RT-PCRを用いたサツマイモ斑紋モザイクウイルスの系統特異的検出.	九州農業研究 57: 97.
Nagata, R., Mori, M., Hanada, K. and Nishiguchi, M.	2001	An improved method of reverse transcription and polymerase chain reaction (RT-PCR) to efficiently detect Potyvirus, sweet potato feathery mottle virus (SPFMV) RNA in sweet potato.	J. Gen. Plant Pathol. 67(2): 164-168.
長田龍太郎・森昌樹・花田 薫・西口正通	2002	RT-PCRを利用したサツマイモ斑紋モザイクウイルスの検定.	宮崎総農試研報 37: 1-12.
中島一雄・中野正明・宇杉富雄	1990	サツマイモのウイルスの多様性 (1) 沖縄のサツマイモに見いだされたひも状ウイルス.	日植病報 56(1): 153.(講要)
中野正明・岩崎真人・新海 昭	1984	サツマイモから分離されたウイルスの汁液伝染.	日植病報 50(1): 104.(講要)
中野正明・岩崎真人・新海 昭	1984	Sweet potato feathery mottle virusの健全葉汁液吸収抗血清を用いたELISA.	九州病虫研報 30: 30-32.
中野正明・岩崎真人・新海 昭	1984	サツマイモから分離されたウイルスの汁液伝染.	九州農業研究 46: 112.
中野正明・S. FUENTES・L.F. SALAZAR	1991	CIPの遺伝資源およびペルー北部海岸地帯から見いだされたサツマイモウイルス病.	日植病報 57(3): 446.(講要)
西口正通・森 昌樹・鈴木文彦・長田龍太郎・森下敏和・酒井淳一・花田 薫・宇杉富雄	1993	RT-PCR法によるサツマイモ斑紋モザイクウイルス強毒系統(SPFMV-S)の検出.	日植病報 59(3): 328.(講要)
Nishiguchi, M., Mori, M., Suzuki, F., Nagata, R., Morishita, T., Sakai, J., Hanada, K. and Usugi, T.	1995	Specific detection of a severe strain of sweet potato feathery mottle virus (SPFMV-S) by reverse transcription and polymerase chain reaction (RT-PCR).	Ann. Phytopathol. Soc. Jpn. 61(2): 119-122.
小尾充雄・森 寛一	1959	甘藷の新ウイルス病(縮葉モザイク病)について.	日植病報 24(1): 47.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
小川哲治・大貫正俊・花田 薫	1997	長崎県のサツマイモ葉から検出されたサツマイモ斑紋モザイクウイルス.	日植病報 63(3): 265-266. (講要)
小倉李来・奈良迫洋介・山崎修一・竹下 稔	2021	サツマイモのウイルス病診断技術の改良と栽培ほ場での疫学的調査.	日植病報 87(1): 53. (講要)
小倉李来・奈良迫洋介・山崎修一・竹下 稔	2021	遺伝子診断に基づいたサツマイモの主要感染ウイルスに関するほ場調査.	日植病報 87(3): 170-171. (講要)
岡田吉弘・齋藤 彰・木村貴志	2005	野外における帯状粗皮症罹病カンショのウイルス生態.	九州農業研究 67: 29.
岡田吉弘・木村貴志・村田達郎・齋藤 彰	2005	(612) サツマイモ斑紋モザイクウイルス系統 (SPFMVs)の複合感染に対する形質転換サツマイモのウイルス抵抗性評価.	育種学会107・8回講演会プログラム
Okada, Y. and Yoshinaga, M.	2010	Advanced resistance to sweetpotato feathery mottle virus (SPFMV) in transgenic sweetpotato.	Sweetpotato Res. Front 23: 4.
岡本 弘	1941	甘藷モザイク病について.	日植病報 11(3): 147-151.
岡本 弘・齋藤康夫	1954	甘藷斑紋ウイルスの媒介昆虫について.	中国農試報 A3: 42-51.
岡本 弘・齋藤康夫	1955	甘藷斑紋ウイルスの媒介昆虫について.	日植病報 19(3-4): 162. (講要)
大貫正俊・花田 薫・酒井淳一・宇杉富雄・本田要八郎・林 隆治	1993	サツマイモ葉巻ウイルスの宿主範囲と部分純化.	九州農業研究 55: 89.
大貫正俊・花田 薫・酒井淳一・宇杉富雄・本田要八郎・林 隆治	1993	サツマイモ葉巻ウイルスの宿主範囲と部分純化.	日植病報 59(1): 54. (講要)
大貫正俊・宇杉富雄・中野正明・酒井淳一・花田 薫	1993	サツマイモから分離されたサツマイモ斑紋モザイクウイルスF系統.	日植病報 59(3): 332. (講要)
大貫正俊・酒井淳一・山川 理・長田龍太郎・宇杉富雄・花田 薫	1994	帯状粗皮病に対するサツマイモの抵抗性系統及び感受性品種の反応.	日植病報 60(3): 398. (講要)
大貫正俊・酒井淳一・森 昌樹・宇杉富雄・津田新哉・花田 薫	1994	RT-PCRを用いサツマイモからのサツマイモ斑紋モザイクウイルスの検出.	日植病報 60(6):739-740. (講要)
大貫正俊・酒井淳一・花田 薫・加藤公彦・宇杉富雄	1994	静岡県のサツマイモから分離されたサツマイモ斑紋モザイクウイルス諸性質.	九州病虫研報 40: 31-35.
大貫正俊・酒井淳一・森 昌樹・宇杉富雄・津田新哉・花田 薫	1995	RT-PCR用いたサツマイモからのサツマイモ斑紋モザイクウイルスの検出.	九州農業研究 57: 96.
大貫正俊・酒井淳一・宇杉富雄・花田 薫	1996	サツマイモシンプトムレスウイルスはカルラウイルスである.	日植病報 62(6): 637. (講要)
大貫正俊・酒井淳一・花田 薫	1996	サツマイモ斑紋モザイクウイルスの高感度検出法.	九州農試年報 1995: 25-26.
Onuki, M., Honda, Y. and Hanada, K.	2000	Geminate particle morphology of sweet potato leaf curl virus in partially purified preparation and its serological relationship to two <i>Begomoviruses</i> by western blotting.	J. Gen. Plant Pathol. 66(2): 182-184.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Osaki, T. and Inoue, T.	1991	Transmission characteristics and cytopathology of a white fly-transmitted virus isolated from sweet potato leaf curl disease.	Bull. Univ. Osaka Prefect. Ser. B (Agr. & Biol.) 43: 11-19.
酒井淳一・田中正美・森 昌樹・花田 薫・宇杉富雄・西口正通	1993	サツマイモ斑紋モザイクウイルス強毒系統 (SPFMV-S) のクローニング: 核封入体遺伝子より上流域のcDNAクローン.	日植病報 59(1): 54. (講要)
酒井淳一・田中正美・森 昌樹・花田 薫・宇杉富雄・西口正通	1993	サツマイモ斑紋モザイクウイルス強毒系統 (SPFMV-S) のゲノムRNAの構造解析: VPg及び6K2遺伝子.	日植病報 59(1): 55. (講要)
酒井淳一・田中正美・森 昌樹・花田 薫・宇杉富雄・西口正通	1993	サツマイモ斑紋モザイクウイルス強毒系統 (SPFMV-S) のゲノムRNAのクローニングと構造解析: CIおよびP3タンパク質遺伝子.	日植病報 59(3): 341. (講要)
酒井淳一・森下敏和・森 昌樹・花田 薫・宇杉富雄・西口正通	1993	サツマイモ斑紋モザイクウイルス強毒系統 (SPFMV-S) のゲノムRNAの構造解析: 5'末端領域.	日植病報 59(6): 714. (講要)
酒井淳一・田中正美・森 昌樹・花田 薫・宇杉富雄・西口正通	1993	サツマイモ斑紋モザイクウイルス強毒系統 (SPFMV-S) のクローニング.	九州農業研究 55: 90.
酒井淳一・田中正美・森 昌樹・花田 薫・宇杉富雄・西口正通	1993	サツマイモ斑紋モザイクウイルス強毒系統 (SPFMV-S) のゲノムRNAの構造解析: VPg及び6K <sub>2</sub> 遺伝子.	九州農業研究 55: 91.
酒井淳一・大貫正俊・森 昌樹・宇杉富雄・花田 薫	1994	サツマイモ斑紋モザイクウイルス徳島系統のゲノムRNA 3'末端領域の構造解析.	日植病報 60(6): 740. (講要)
酒井淳一・森下敏和・森 昌樹・花田 薫・宇杉富雄・西口正通	1994	サツマイモ斑紋モザイクウイルス強毒系統 (SPFMB-S) のゲノムRNAの構造解析: 5'末端領域.	九州農業研究 56: 83.
酒井淳一・大貫正俊・森 昌樹・宇杉富雄・花田 薫	1995	サツマイモ斑紋モザイクウイルス徳島系統のゲノムRNA 3'末端領域の構造解析.	九州農業研究 57: 98.
酒井淳一・山崎修一・小川哲治・大貫正俊・花田 薫	1997	九州地方のサツマイモからRT-PCRによって検出されたsweetpotato virus G.	日植病報 63(6): 484. (講要)
酒井淳一・内田敦士・花田 薫	1998	サツマイモ斑紋モザイクウイルス普通系統の塩基配列の解析: HC-Pro, P1遺伝子領域.	日植病報 64(6): 588-589. (講要)
酒井淳一・山崎修一・小川哲治・大貫正俊・花田 薫	1998	九州地方のサツマイモからRT-PCRによって検出されたsweetpotato virus G.	九州農業研究 60: 78.
酒井淳一・内田敦士・花田 薫	1999	サツマイモ斑紋モザイクウイルス普通系統の塩基配列の解析: HC-Pro, P1遺伝子領域.	九州農業研究 61: 72.
酒井淳一・甲斐由美・花田 薫	2000	九州農試カンショ系統保存圃場におけるSPFMVの発生調査.	日植病報 66(3): 258. (講要)
酒井淳一・甲斐由美・花田 薫	2001	九州農試カンショ系統保存圃場におけるSPFMVの発生調査.	九州農業研究 63: 78.
酒井淳一・山崎修一・花田 薫	2004	サツマイモ斑紋モザイクウイルス弱毒株10-Oの全塩基配列.	日植病報 70(3): 268-269. (講要)
繁村 親・井口武夫・西尾伸一	1954	甘藷斑紋ウイルス病の種子伝染の有無に関する研究.	中国農試報 A3: 52-60.
繁村 親	1955	甘藷斑紋ウイルス病の防除事例.	農業技術 10(8): ???

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
新海 昭・松田鋤男・岩橋哲彦	1980	サツマイモのrusset crack様症状の発生.	日植病報 46(1): 67.(講要)
園田昌司・田中功二・加藤久晴・高野純一・望月淳子・西口正通	1997	サツマイモ斑紋モザイクウイルス(SPFMV)のヘルパー成分-プロテアーゼ(HC-Pro)のアンチセンス遺伝子を導入したタバコのウイルス抵抗性.	日植病報 66(3): 240.(講要)
Sonoda, S., Tanaka, K., Kato, H., Takano, J. and Nishiguchi, M.	1998	Resistance against a heterologous Potyvirus in transgenic tobacco plants expressing antisense RNA of HC-Pro gene of sweet potato feathery mottle <i>Potyvirus</i> .	Ann. Phytopathol. Soc. Jpn. 64(3): 183-186.
Sonoda, S. and Nishiguchi, M.	1999	Virus resistance in gene-silenced transgenic plants with the coat protein gene of sweet potato feathery mottle <i>Potyvirus</i> .	Ann. Phytopathol. Soc. Jpn. 65(3): 297-300.
杉本 毅・川村清久・木村俊彦	2009	特殊害虫アリモドキゾウムシの世界的拡散と耐寒性。(特集 昆虫の生活史と耐寒性)	昆虫と自然 44(12): 12-15.
鈴木 健・大越一雄・酒井淳一・花田 薫	1999	千葉県内のサツマイモから検出されたサツマイモ潜在ウイルスについて.	日植病報 65(3): 380.(講要)
鈴木 健	2002	RT-PCRを用いたサツマイモ斑紋モザイクウイルスの検出方法.	千葉農総研研報 1: 109-116.
田上義也	1950	甘藷の新ウイルス病(仮称 斑紋ウイルス病)について.	植物防疫 6(3): 116-117.
田上義也	1951	甘藷葉のウイルス病類似新病害(豫報).	日植病報 15(3-4): 135-136.
田上義也	1952	甘藷の新ウイルス病(仮称斑紋ウイルス病)について.	植物防疫 6(3): 116-117.
田上義也	1953	甘藷の斑紋ウイルス病.	農業技術研究 7(7): 26-28.
田上義也	1953	サツマイモのインターナル・コルク病と防除対策.	農業技術 8(4): (23-25.)
田中裕子・大西克典・大貫正俊・酒井淳一・花田 薫	2000	大腸菌で発現させたSPFMV-CPに対する抗血清を用いたウイルス診断.	日植病報 66(3): 258-259.(講要)
田中裕子・大西克典・奥田 充・酒井淳一・大貫 俊・花田 薫	2001	RT-PCRと融合タンパク質抗血清を用いたサツマイモ葉からのSPFMVの検出.	九州病虫研報 47: 13-15.
内田敦士・酒井淳一・岡田吉美・花田 薫	1997	サツマイモ斑紋モザイクウイルス普通系統の塩基配列の解析 NIa, CI, P3遺伝子領域.	日植病報 63(6): 483.(講要)
上原泰樹・小巻克巳・西口正通	1990	エレクトロポレーションによるサツマイモプロトプラストへのTMV-RNAの感染.	日植病報 56(1): 108.(講要)
宇杉富雄・古谷真二・中野正明・林 隆治	1990	サツマイモウイルス病の診断法について.	九州病虫研報 36: 16-18.
宇杉富雄	1991	サツマイモ帯状粗皮症の原因解明.	今月の農業 (2): 33-36.
宇杉富雄・中野正明・新海 昭・林 隆治	1991	日本のサツマイモより分離された3種のひも状ウイルスについて.	日植病報 57(4): 512-521.
宇杉富雄・真岡哲夫	1993	サツマイモ斑紋モザイクウイルス徳島系統(SPFMV-T)の諸性質について.	日植病報 59(3): 331-332.(講要)
宇杉富雄・真岡哲夫	1994	サツマイモひも状ウイルスの検定法および南西諸島における発生状況.	日植病報 60(3): 392-393.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
宇杉富雄・中野正明・大貫正俊・真岡哲夫・林 隆治	1994	わが国のサツマイモ塊根に帯状粗皮症状を示すサツマイモ斑紋モザイクウイルスの新系統.	日植病報 60(5): 545-554.
Watanabe K.N. and Watanabe, J.A.	2001	Application of NASH (Nucleic acid spot hybridization) in diagnosis of SPFMV to facilitate indexing of sweet-potato germplasm.	Mem. Inst. Adv. Techn., Kinki Univ. 6: 13-14.
渡邊龍雄・若井田正義・手塚 友	1953	(25) 甘藷モザイク病罹病葉の病理解剖.	日植病報 17(1): 34.(講要)
山崎修一・野口敏治・大貫正俊・花田 薫	1998	接木接種によるSPFMVのカンショへの全身感染.	日植病報 64(6): 588.(講要)
山崎修一・野口敏治・酒井 一・大貫正俊・花田 薫	1999	大分県のサツマイモに重複感染しているSPFMVの系統の単離.	日植病報 65(6): 646.(講要)
山崎修一・野口敏治・大貫正俊・花田 薫	1999	接木接種によるSPFMVのサツマイモへの全身感染.	九州農業研究 61: 71.
山崎修一・野口敏治・酒井淳一・大貫正俊・花田 薫	2000	大分県のサツマイモに重複感染しているSPFMVの系統の単離.	九州農業研究 62: 76.
山崎修一・上曾山茂・吉松英明・酒井淳一・岩波 徹・花田 薫	2003	大分県のサツマイモから単離されたSweetpotato virus Gの性状.	九州農業研究 65: 94.
山崎修一・上曾山 茂・吉松英明・酒井淳一・岩波 徹・花田 薫	2003	大分県のサツマイモから単離されたSweet potato virus Gの性状.	日植病報 69(1): 24.(講要)
山崎修一・酒井淳一・上曾山 茂・花田 薫	2009	日本のサツマイモから検出されたSweet potato virus Gの同定.	日植病報 75(2): 102-108.
山崎修一・酒井淳一・上曾山 茂・花田 薫	2009	日本のサツマイモから検出されたSweet potato feathery mottle virus common系統に属する分離株の諸特性.	日植病報 75(3): 156-163.
山崎修一・廣瀬正純・米元俊一・樋田宣英・上曾山 茂・酒井淳一・花田 薫	2009	サツマイモ斑紋モザイクウイルス弱毒株によるサツマイモの加工適性の向上.	日植病報 75(4): 323-327.
山崎修一	2011	サツマイモに感染するウイルスの特性解明とその弱毒ウイルスによる防除技術の開発.	大分農水研指導セ特別研報(農業研究部編) 1: 1-49.
山崎修一	2011	弱毒ウイルスによるサツマイモ帯状粗皮病の防除技術の開発.	植物防疫 65(1): 18-22.
与良 清・土居養二・小金沢碩城・森 寛一	1968	サツマイモ斑紋モザイク病ならびに縮葉モザイク病の病原ウイルス粒子の形態について.	日植病報 34(3): 207.(講要)
Zhao, F., Wang, L., Zhang, Z., Qiao, Q., Qin, Y., Wang, Y., Wang, S., Tian, Y., Zhang, D. and Zhao, X.	2020	Seed transmission of sweet potato pakakuy virus in sweet potato ( <i>Ipomoea batatas</i> ).	J.Gen.Plant Pathol. 86 (3): 205-210.
—	1953	甘藷の新病害斑紋ウイルス病の紹介.	二豊農業 7(3): 27-29.

612 ファイトプラズマ病



著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Chinzei, T. and Oya K.	1972	Mineral composition of sweet potato plant infected with witches' broom disease in Okinawa.	Jpn. J. Trop. Agr. 16(2): 106-114.
土居養二・新海 昭・与良 清・明日山秀文	1967	サツマイモてんぐ巢病およびマメ類てんぐ巢病の罹病茎葉に見出されるMycoplasma様微生物について.	日植病報 33(5): 344.(講要)
小室康雄・長山正利	1960	沖縄におけるサツマイモてんぐ病の感染容疑植物について.	日植病報 25(5): 238.(講要)
小室康雄	1961	沖縄のサツマイモ・てんぐ巢病について—調査報告—.	植物防疫 15(2): 49-
真栄里豊一	1964	“甘藷天狗巢病の発生状況”, 「甘藷天狗巢病に関する研究報告」(琉球政府経済局農務課特別報告). (農林省農業技術研究所 編)	琉球政府経済局農務課, (全57p.)
松田鋤男・栄 政文・嶋田治一	1966	奄美群島における甘藷天狗巢病並びにクロマダラヨコバイの発生調査.	九州病虫研報 12: 121-123.
村山大記	1966	沖縄におけるサツマイモ天狗巢病とマメ類天狗巢病について.	北海道大農邦文紀要 6(1): 81-103.
仲盛憲一・真栄里豊一	1968	沖縄におけるサツマイモてんぐ巢病の防除とその効果.	植物防疫 22(1): 19-24.
岡本 弘	1947	琉球で発見されたる甘藷の新病害(仮称:甘藷の天狗巢病)について.	植物防疫 5(7): 217-220.
新海 昭	1963	甘藷天狗巢病の媒介昆虫と豆類天狗巢病.	沖縄農業 2(2): 53-57.
新海 昭	1964	“甘藷天狗巢病の虫媒伝染に関する研究”, 「甘藷天狗巢病に関する研究報告」(琉球政府経済局農務課特別報告). (農林省農業技術研究所 編)	琉球政府経済局農務課, (全57p.)
新海 昭・津止健市	1964	“クロマダラヨコバイおよびミナミマダラヨコバイの夏期における発生とその防除効果.”, 「甘藷天狗巢病に関する研究報告」(琉球政府経済局農務課特別報告). (農林省農業技術研究所 編)	琉球政府経済局農務課, (全57p.)
新海 昭	1964	甘藷天狗巢病のクロマダラヨコバイによる媒介.	植物防疫 18(7): 259-262.
新海 昭・津上健市・渡嘉敷唯助	1965	琉球における甘藷天狗巢病の伝染.	植物防疫 19(6): 235-
新海 昭	1965	琉球の甘藷天狗巢病.	農及園 40(6): 990.
新海 昭	1969	サツマイモてんぐ巢病のクロマダラヨコバイによる媒介方法.	日植病報 35(2): 124.(講要)
渡嘉敷唯助	1964	“甘藷天狗巢病に関する文献”, 「甘藷天狗巢病に関する研究報告」(琉球政府経済局農務課特別報告). (農林省農業技術研究所 編)	琉球政府経済局農務課, (全57p.)
蔡 碧・新海 昭・向 秀夫・中村重正	1971	サツマイモてんぐ巢病罹病植物におけるマイコプラズマ様微生物の分布および寄主細胞の変化.	日植病報 37(5): 362-363.(講要)
蔡 碧・新海 昭・向 秀夫・中村重正	1972	サツマイモてんぐ巢病罹病植物におけるマイコプラズマ様微生物の分布および寄主細胞の変化.	日植病報 38(1): 81-85.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
与那覇哲義	1964	サツマイモの天狗巣病について - 新海昭博士の中間報告をもとに -.	琉大農家便り 98: 3-4.

620 細菌病			
Chen, Y.J., Lin, Y.S. and Chung, W.H.	2012	Bacterial wilt of sweet potato caused by <i>Ralstonia solanacearum</i> in Taiwan.	J. Gen. Plant Pathol. 68(1): 80-84.
Goto, M.	1976	Characteristics of the outgrowth tissues of sweet potato induced by some plant pathogenic bacteria.	Ann. Phytopathol. Soc. Jpn. 42(4): 456-463.
家入奈穂子・吉田政博	2011	サツマイモ立枯病病原放線菌の分離方法の検討.	九州病虫研報 57: 91.(講要)
猪野 誠・篠原茂幸・屋敷隆士	1985	千葉県におけるカンショ立枯症状の発生実態と発生条件.	千葉農試研報 26: 25-37.
金磯泰雄	1998	各種資材のサツマイモ立枯病に対する発生抑制効果とこれら資材の併用によるクロルピクリン剤施用量の低減化.	徳島農試研報 34: 14-22.
金磯泰雄	1999	サツマイモ立枯病に対する各種薬剤の防除効果とダズメット粉粒剤の実用性.	徳島農試研報 35: 26-33.
金磯泰雄・米本謙悟	1999	冬期におけるクロルピクリンくん蒸等によるサツマイモ立枯病に対する土壌消毒効果.	四国植防研究 34: 15-24.
金磯康雄・馬淵利夫・佐原義和	2001	砂地畑における上記消毒によるサツマイモ立枯病防除の試み.	四国植防研究 36: 76.(講要)
金磯泰雄・米本謙悟	2003	でんぷん, 米ぬかの土壌(砂土)への施用(混和)による土壌微生物相の変化とサツマイモ立枯病の発生および他の有機質資材の発病抑制効果.	徳島農セ研報 1: 25-32.
金磯泰雄・村井恒治	2007	砂質土壌の異なる土壌水分下でマルチ畦内処理したクロルピクリン剤のサツマイモ立枯病防除効果と畦内における拡散.	徳島農セ研報 4: 23-30.
金磯泰雄	2009	砂地畑におけるサツマイモ立枯病に対する薬剤あるいは資材による発生抑制と防除の現状.	植物防疫 63(7): 456-459.
喜多孝一・工藤和一	1983	サツマイモ立枯症状の病原菌.	九州病虫研報 29: 12-14.
小林有紀・小林 晃・岡田吉弘・吉田政博・境哲文・高田明子・甲斐由美・吉永 優	2013	本邦各地より採集したサツマイモ立枯病菌の塩基配列の同一性.	九州病虫研報 59: 113.(講要)
小林有紀・小林 晃・高田明子・岡田吉弘・小柳敦史	2017	苗を用いたサツマイモ立枯病抵抗性室内検定法の検討.	九州病虫研報 63: 119.(講要)
工藤和一・喜多孝一	1985	サツマイモ立枯症病原菌の選択分離培地.	日植病報 51(1): 60.(講要)
工藤和一・喜多孝一	1985	サツマイモ立枯病原菌の選択分離培地.	九州農業研究 47: 104.
工藤和一	1985	サツマイモ立枯症の発生生態と防除.(特集・最近注目される放射菌 7)	農林水産技術研究ジャーナル 8(7): 35-39.
工藤和一	2004	“立枯病.”, 問題となっている障害, 当面する技術課題, サツマイモ, 「野菜園芸大百科 12 サツマイモ・ジャガイモ 第2版」(農文協編).	農文教, 東京, pp.239-243.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
西村範夫・工藤和一	1986	サツマイモ立枯症病原菌 <i>Streptomyces</i> sp.の孢子発芽.	日植病報 52(1): 109.(講要)
西村範夫・工藤和一	1986	サツマイモ立枯病の病原菌 <i>Streptomyces ipomoeae</i> の寄主体侵入.	日植病報 52(3): 509.(講要)
西村範夫・工藤和一	1986	サツマイモ立枯症の病原菌 <i>Streptomyces</i> sp. の菌糸生育と孢子発芽.	九州農業研究 48: 148.
小川 仁・波多間美貴子・黒島忠司・梯 美仁	1998	各種資材のサツマイモ立枯病に対する発生抑制効果とこれら資材の併用によるクロルピクリン剤施用量の低減化.	徳島農試研報 34: 23-27.
大城 篤・田場 聡・夏目雅裕	2007	<i>Penicillium geastrivorus</i> を利用した3種のサツマイモ病害の生物防除.	熱帯農業 51(3): 109-115.
嶋崎 豊・佐藤光興	1993	サツマイモ立枯病菌による塊根異常肥大症の発生.	埼玉園試研報 20: 1-12.
貞野光弘・広田恵介・河本征臣・土屋建一・鈴木孝仁	1991	徳島県の砂地畑における <i>Streptomyces ipomoeae</i> によるサツマイモ立枯病の発生.	日植病報 57(3): 433-434.(講要)
鈴木孝仁・宮下清貴・工藤和一・鬼木正臣	1986	<i>Streptomyces ipomoeae</i> によるサツマイモ立枯病(新称).	日植病報 52(3): 505.(講要)
鈴木孝仁	1987	サツマイモ立枯病とその病原菌.	植物防疫 41(7): 307-311.
高野幸成・雨宮昭彦・猪野 誠	2006	ウイルスフリー化処理によるサツマイモ立枯病の品種抵抗性の低下.	関東東山病虫研報 53: 29-33.
高野幸成・雨宮昭彦・猪野 誠	2006	ウイルスフリー化によるサツマイモ立枯病の品種抵抗性の低下.	関東東山病虫研報 53: 164.(講要)
高野幸成・雨宮昭彦・猪野 誠	2007	ウイルスフリー化処理によるサツマイモ立枯病の品種抵抗性の低下.	植物防疫 61(9): 485-488.
高野幸成・藤田拓子・引地睦子・猪野 誠	2008	サツマイモ立枯病の現地発病ハウスにおける夏季の太陽熱および土壌還元処理による防除効果.	関東東山病虫研報 55: 186-187.(講要)
高野幸成・猪野 誠	2014	黒ボク土への米ぬか施用によるサツマイモ立枯病の発病抑制効果及びその品種間差異.	千葉農林総研研報 6: 111-116.
高野幸成・猪野 誠	2015	サツマイモ育苗ハウスにおける太陽熱消毒及び土壌還元消毒による立枯病の防除効果.	千葉農林総研研報 7: 33-39.
田中昭人・村井恒治・米本謙悟	2015	徳島県サツマイモ産地の環境に配慮したクロルピクリン剤使用法の推進.	農業誌 40(1): 76-80.
米本謙悟・田中昭人・坂口謙二	2003	サツマイモ立枯病における低透過性フィルムの効果.	四国植防研究 38: 63.(講要)
米本謙悟・田中昭人・坂口謙二	2008	土壌くん蒸剤のマルチ畦内消毒における低透過性フィルムを利用したガス透過抑制とサツマイモ立枯病に対する防除効果の向上.	徳島農研報 5: 45-51.
米本謙悟・田中昭人・三宅 圭・村井恒治・小原裕三	2015	ガスバリアー性フィルムを用いたクロルピクリンの畦内濃度とサツマイモ立枯病に対する防除効果の範囲.	九州病虫研報 61: 83.(講要)
米山一海・渡邊 健・河村 勇	2000	サツマイモ立枯病に対する生分解性マルチ資材を用いたマルチ畦内土壌消毒の防除効果.	関東東山病虫研報 47: 39-41.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
吉田政博・西田智美・ 舩津丸貞信・岡田吉弘	2014	塊根スライス組織の発病を指標とするサツマイモ立枯病抵抗性検定のための接種条件.	九州病虫研報 60: 100.(講要)
吉田政博・西田智美・ 舩津丸貞信・岡田吉弘	2016	塊根スライス組織の発病を指標とするサツマイモ立枯病抵抗性検定のための接種条件.	九州病虫研報 62: 27-33.

630 菌類病			
631 黒斑病 1(一般)			
愛知縣立農事試験場	1942	甘藷黒斑病に對する苗の消毒法試験.	病蟲害雜誌 29(2): 39.
赤井重恭・滝口洋佑・ 瓜谷郁三・兵藤 宏	1969	宿主を異にする黒斑病菌に對するサツマイモ塊根のカルス形成に關する解剖学的觀察.	日植病報 35(2): 94-95.(講要)
青柳寅雄	1951	病害によつて腐さる貯蔵甘藷の見分方とその防除.	農村 29(10): 17-18.
卜藏梅之丞	1942	甘藷の貯蔵と黒斑病の豫防.	病蟲害雜誌 29(11): 13-16.
後藤和夫	1943	甘藷の黒斑, 腐根, 蔓割及線蟲病 .	農業の満洲 15(4): 25-34.
後藤和夫	1950	甘藷黒斑病と氣象條件との關係資料.	日植病報 14(1-2): 49.(講要)
後藤和夫・田上義也	1950	サツマイモ黒斑病の消長と氣象條件との關係.	日植病報 14(3-4): 57-62.
後藤和夫・田上義也	1950	甘藷品種系統の黒斑病罹病度の差異について.	日植病報 14(3-4): 102-103. (講要)
後藤和夫・近藤 茂・宮 島美智雄	1950	サツマイモ黒斑病のネズミによる媒介.	日植病報 14(3-4): 103-104. (講要)
後藤和夫	1951	甘藷黒斑病研究の趨勢.	農及園 26(1): 47-50.
後藤和夫・田上義也	1953	サツマイモ黒斑病抵抗性の品種間差異とその機構(第1報)畑における發病の諸要因と相互の關係.	日植病報 17(1): 15-20.
後藤和夫・田上義也	1953	サツマイモ黒斑病抵抗性の品種間差異とその機構(第1報)畑における發病の諸要因と相互の關係.	日植病報 17(1): 16-20.
後藤和夫・鈴木方正・ 近藤 茂・宮島美智男	1954	甘藷黒斑病の土壤傳染と野鼠による媒介.	東海近畿農試研報 1: 138- 150.
樋浦 誠	1943	甘藷の貯蔵並に腐敗に關する研究(第二報).	岐阜高等農林報告 50: 5-.
堀 正侃	1938	最近問題となつた甘藷の三病害.	日植病報 7(3-4): 249-252.
兵藤 宏・瓜谷郁三	1970	異なつた黒斑病菌のstrainをサツマイモ塊根に接種した際にみられるエチレン生成およびその他宿主の反應の相違について.	日植病報 36(2): 98-105.
鑄方末彦・安尾 俊	1951	甘藷の腐敗熱に關する研究(第1報).	日植病報 15(2): 91.(講要)
池上雍春・森 寛一	1960	甘藷黒斑病抵抗性検定方法に關する研究 第5報 苗の部位について.	日植病報 25(1): 48.(講要)
池上雍春・森 寛一	1961	甘藷黒斑病抵抗性検定法に關する研究 第6報 発根苗による検定法.	日植病報 26(2): 48.(講要)
糸賀繁人	1950	甘藷の貯蔵方法と黒斑病との關係について.	九州農業研究 6: 15-16.
鹿兒島縣立農事試験場	1942	甘藷黒斑病の發病部位に關する調査.	病蟲害雜誌 29(11): 37-38.
鹿兒島縣立農事試験場	1942	甘藷の黒斑病と害蟲の喰害との關係.	病蟲害雜誌 29(11): 38.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
鹿兒島縣立農事試験場	1942	甘藷黒斑病の小動物に依る病原菌の傳播に關する試験.	病蟲害雜誌 29(11): 39.
河合一郎	1950	麥の自溢病と甘藷黒斑病の性質と予防.	農業技術研究 4(3): 34-36.
河合一郎	1950	麥の自溢病と甘藷黒斑病の性質と予防.	農業技術 4(3): (34-36.)
河村貞之助	1942	甘藷黒斑病類似菌の加害に就て.	病蟲害雜誌 29(9): 12-14.
河村貞之助・星野正和	1950	甘藷黒斑病菌及び甘藷健全苗・同羅病苗に及ぼす極超短波照射の影響について.	日植病報 14(3-4): 103.(講要)
河村貞之助・北島克己	1952	甘藷黒斑病菌及び甘藷苗に及ぼす極超短波の影響について(第3報).	日植病報 16(2): 72.(講要)
木村貞夫	1971	サツマイモ黒斑病防除薬剤のスクリーニング法.	九州病虫研報 17: 28-31.
北原覺雄	1948	甘藷の腐敗對策.	研習.(島根農事試) 復刊 7: 12-
木谷清美・井上好之利・重松喜昭	1955	甘藷黒斑病の土壤伝染について.	日植病報 19(3-4): 170.(講要)
木谷清美・井上好之利・夏目孝男	1957	甘藷黒斑病の土壤伝染に關する研究.	四國農試報 3: 139-145..
木谷清美・井上好之利・重松喜昭	1957	甘藷黒斑病の土壤伝染に關する研究 第2報 土壤中における病原菌について.	四國農試報 3: 146-150.
小島峰雄・瓜谷郁三	1974	黒斑病菌 ( <i>Ceratocystis fimbriata</i> ) の宿主特異性発現と宿主植物中の孢子凝集因子との關係.	日植病報 40(3): 180.(講要)
小杉吉彦	1951	甘藷蔓先苗利用による遅植採種法の黒斑病防除試験.	九州農試彙報 1(1): 71-72.
牧野孝宏	1978	かんしょの大敵・黒斑症状とその對策.	農業技術研究 32(10): 51-55.
水上武幸	1950	甘藷及び里芋黒斑病菌の甘藷及び里芋に対する寄生性の比較.	九大農學藝誌 12 (1): 5-9.
森 寛一・池上雍春・山本敏夫	1957	甘藷の黒斑病抵抗性檢定方法に關する研究(第1報) 塊根の大小, 新旧, 温度条件と病斑拡大 との關係.	日植病報 22(1): 41-42.(講要)
森 寛一・山本敏夫	1960	甘藷黒斑病抵抗性の品種間差とその機構 (IV) 傷の治癒能力と発病.	日植病報 25(5): 43.(講要)
森 寛一・沢田 肇・池上雍春	1960	甘藷黒斑病抵抗性の品種間差とその機構 第7報 侵入および進展抵抗 について.	日植病報 25(5): 216.(講要)
森 寛一・竹股知久・池上雍春	1961	サツマイモの黒斑病抵抗性の簡易檢定法に關する研究 第 I 報 苗を用いる檢定法について.	關東東山農試研報 20: 39-52.
野島友雄	1941	甘藷及菊に發生を見たる二, 三の病害に就て.	日植病報 11(1): 38-39.(講要)
小川 奎・渡辺 健	1987	サツマイモの貯藏腐敗に對するキュアリングマットを利用した野天キュアリングの效果.	日植病報 53(1): 67.(講要)
岡本 弘	1940	在圃中の塊根に於ける甘藷黒斑病と塊根喰害害蟲との關係について.	日植病報 10(1): 27-35.
小瀬伊俊・樋浦 誠	1939	甘藷の貯藏並に腐敗に關する研究(第1報).	日植病報 9(2): 123-124.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
大谷義夫	1936	甘藷腐敗に關與する一新細菌に就て(第1報).	醸造學雜誌 14(4): 289-294.
大谷義夫	1936	甘藷腐敗に關與する一新細菌に就て(第2報) <i>Bacillus Batatae</i> の代謝産物.	醸造學雜誌 14(7): 563-564.
大谷義夫・工藤恒太	1936	甘藷腐敗に關與する一新細菌に就て(第3報) <i>Bacillus Batatae</i> の酵素.	醸造學雜誌 14(11): 913-917.
沢田 肇	1957	甘藷の黒斑病抵抗性検定方法に関する研究 第2報 植付様式と発病との関係.	日植病報 22(1): 42. (講要)
田上義也・澤田 肇	1953	サツマイモ黒斑病抵抗性の品種間差異とその機構 第2報 栽培期間の畑土壤中に於ける菌の孢子形成の消長に就いて.	日植病報 17(2): 89. (講要)
田上義也・足城惣一	1953	サツマイモ黒斑病抵抗性の品種間差異とその機構 (III) 貯蔵発病の品種間差異.	日植病報 18(1-2): 68. (講要)
田上義也・沢田 肇	1953	サツマイモ黒斑病抵抗性の品種間差異とその機構 第II報 成育中の茎病斑上における病原菌の孢子形成と菌の土壤中への拡散.	関東東山農試研報 4: 32-37.
高橋良正	1956	MH-30の甘藷黒斑病菌分生孢子の発芽に及ぼす影響.	大阪府立大農業短大 研究と資料 (1), pp.1-
滝口洋佑・赤井重恭	1973	黒斑病罹病サツマイモ塊根の解剖学的観察 - 隣接健全部にみられる高電子密度の物質について -.	日植病報 39(2): 158-159. (講要)
鶴内孝之・木村貞夫	1985	サツマイモ黒斑病の「土壤伝染」.	九州農業研究 47: 54.
瓜谷郁三・小島峰雄・寺島典二	1974	病傷害に伴うリグニン形成におけるサツマイモとウリ類との比較.	日植病報 40(3): 172. (講要)
宇都敏夫・岡本信義	1951	甘藷黒斑病と植付時期との関係.	日植病報 15(3-4): 163-164. (講要)
渡辺竜雄	1959	甘藷黒斑病のワクチン療法に関する研究.	農及園 34(9): ???
安田久美子・小島峯雄	1983	(2Dp-15) 黒斑病菌( <i>Ceratocystis fimbriata</i> ) の宿主及び非宿主植物上での感染初期分泌物の比較.	植物生理学会講要集23: 210.
横田米吉	1958	甘藷塊根の対黒斑病抵抗性の強弱について.	農産加工研誌 5(2): 71-73.
吉野正義・嶋崎 豊	1973	サツマイモ黒斑病の防除薬剤.	日植病報 39(2): 173. (講要)
—	1941	甘藷黒斑病. (口繪)	病蟲害雜誌 28(4): 口繪
—	1950	サツマイモの黒斑病とジャガイモの疫病の防ぎ方.	農村文化 29(3): 48.

### 632 黒斑病2(感染生理・生化学)

赤沢 堯・瓜谷郁三	1954	黒斑病甘藷の病理化学的研究 (第13報) 黒斑病菌の呼吸とTerminal Oxidase.	農化 28(3): 205-212.
赤沢 堯・旭 正・瓜谷郁三	1955	黒斑病菌のリボスクレアーゼ.	日植病報 20(2-3): 107. (講要)
赤沢 堯・瓜谷郁三	1955	黒斑病甘藷の病理化学的研究 (第20報) 罹病甘藷における呼吸増加, 磷酸代謝及び窒素代謝.	農化 29(5): 381-386.
赤沢 堯・瓜谷郁三	1955	(第19報) 罹病甘藷内苦味質の黒斑病菌に対する阻害効果 (その3).	農化 25(9): 377-381.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Akazawa, T. and Uritani, I.	1956	Respiratory increase and phosphorus and nitrogen metabolism in sweet potato infected with <i>Ceratostomella fimbriata</i> .	J. Biochem. 43(5): 579-587.
Akazawa, T.	1956	Nature of protein synthesis in sweet potato tissue infected with <i>Ceratostomella fimbriata</i> .	J. Biochem. 43(5): 597-602.
Akazawa, T., Umemura, Y. and Uritani, I.	1957	Electrophoretic study of protein metabolism in sweet potato infected with <i>Ceratostomella fimbriata</i> .	Bull. Agr. Chem. Soc. Japan 21(3): 192-196.
Akazawa, T. and Uritani, I.	1961	Pattern of the carbohydrate breakdown in sweet potato roots infected by <i>Ceratocystis fimbriata</i> .	Agric. Biol. Chem. 25(11): 873-875.
Akazawa, T. and Uritani, I.	1962	Biosynthesis of ipomeamarone. The incorporation of acetate-2-C <sup>14</sup> into ipomeamarone.	Agric. Biol. Chem. 26(2): 131-133.
Fujita, M., Oba, K. and Uritani, I.	1981	Ipomeamarone 15-hydroxylase from cut-injured and <i>Ceratocystis fimbriata</i> -infected sweet potato root tissues.	Agric. Biol. Chem. 45(8): 1911-1913.
Greksak, M., Asahi, T. and Uritani, I.	1968	Studies on respiratory increase in the cut and diseased tissues of sweet potato roots.	Ann. Phytopathol. Soc. Jpn. 34(3): 181. (abs.)
服部東穂・旭 正	1981	(2B-8) 傷害サツマイモ塊根組織におけるコハク酸デヒドロゲナーゼの活性増加について.	植物生理学会講要集21: 115.
Hirano, T., Uritani, I. and Hyodo, H.	1991	Further investigation on ethylene production in sweet potato root tissue infected by <i>Ceratocystis fimbriata</i> .	Nippon Shokuhin Kogyo Gakkaishi 38(3): 249-259.
Hyodo, H. and Uritani, I.	1965	<i>o</i> -Diphenol oxidases in sweet potato infected by the black rot fungus.	J. Biochem. 57(2): 161-166.
兵藤 宏・瓜谷郁三	1968	宿主を異にする黒斑病菌に対するサツマイモの反応 -特にフランテルペン類生成との関連について-	日植病報 34(3): 181. (講要)
兵藤 宏・瓜谷郁三	1984	(2Ca-9) 黒斑病罹病サツマイモにおけるエチレン生成の特異性.	植物生理学会講要集24: 182.
Hyodo, H. and Uritani, I.	1984	Ethylene production in sweet potato root tissue infected by <i>Ceratocystis fimbriata</i> .	Plant & Cell Physiol. 25(7): 1147-1152.
兵藤 宏・吉岡征次郎・今井佳史・中根紘子・西川芙美恵	2003	黒斑病菌に感染したサツマイモ塊根組織におけるエチレン生合成.	日本植物生理学会講要集 43回: 355. (講要)
Imaseki, H., Takei, S. and Uritani, I.	1964	Ipomeamarone accumulation and lipid metabolism in sweet potato infected by the black rot fungus I. Identification of sterol and changes in lipid metabolism during infection process.	Plant & Cell Physiol. 5(2): 119-132.
Imaseki, H. and Uritani, I.	1964	Ipomeamarone accumulation and lipid metabolism in sweet potato infected by the black rot fungus II. Accumulation mechanism of ipomeamarone in the infected region with special regard to contribution of the non-infected tissue.	Plant & cell physiol. 5(2): 133-143.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Imaseki, H., Akutsu, K. and Uritani, I.	1967	Ion uptake of sweet potato roots infected by the black rot fungus.	Plant & Cell Physio. 8(4): 753-758.
Imaseki, H., Uritani, I. and Stahmann, A.	1968	Production of ethylene by injured sweet potato root tissue.	Plant & Cell Physio. 9(4): 757-768.
Imaseki, H., Teranishi, T. and Uritani, I.	1968	Production of ethylene by sweet potato roots infected by black rot fungus.	Plant & Cell Physiol. 9(4): 769-781.
Inoue, H. and Uritani, I.	1979	Biosynthetic correlation of various phytoalexins in sweet potato root tissue infected by <i>Ceratocystis fimbriata</i> .	Plant & Cell Physiol. 20(7): 1307-1314.
Inoue, H. and Uritani, I.	1980	Conversion of 4-hydroxydehydro-myoporone to other furanoterpenes in <i>Ceratocystis fimbriata</i> -infected sweet potato.	Agric. Biol. Chem. 44(8): 1935-1936.
Inoue, H. and Uritani, I.	1980	Furano-sesquiterpene reductase from fungal-inoculated sweet potato root tissue.	Agric. Biol. Chem. 44(9): 2245-2247.
Inoue, H., Tsuji, H. and Uritani, I.	1984	Characterization and activity change of farnesol dehydrogenase in black rot fungus-infected sweet potato.	Agric. Biol. Chem. 48(3): 733-738.
Kato, C. and Uritani, I.	1976	Changes in carbohydrate content of sweet potato in response to cutting and infection by black rot fungus,	Ann. Phytopathol. Soc. Jpn. 42(2): 181-186.
加藤保博・瓜谷郁三	1972	(1C-7) 罹病甘藷塊根におけるエチレン生成の研究.	植物生理学会講要集13: 43.
Kawakita, K. and Kojima, M.	1984	Studies on agglutination-inhibitory substances on germinated spores of <i>Ceratocystis fimbriata</i> , black rot fungus.	Agric. Biol. Chem. 48(12): 3063-3069.
Kawakita, K. and Kojima, M.	1985	Role of surface substances on germinated spores of <i>Ceratocystis fimbriata</i> , black rot fungus, in host-parasite interaction.	Agric. Biol. Chem. 49(7): 1219-1223.
Kawakita, K. and Kojima, M.	1986	Possible involvement of surface substances on germinated spores of <i>Ceratocystis fimbriata</i> , black rot fungus, in determination of host-parasite specificity.	Agric. Biol. Chem. 50(2): 431-436.
Kawashima, N. and Uritani, I.	1963	Occurrence of peroxidases in sweet potato infected by the black rot fungus.	Agric. Biol. Chem. 27(6): 409-417.
Kawashima, N., Tamaoki, Y. and Uritani, I.	1964	Some observations on protein extraction from sweet potato roots with black rot.	Agric. Biol. Chem. 28(10): 728-733.
Kawashima, M. and Uritani, I.	1965	Some properties of peroxidase produced in sweet potato infected by the black rot fungus.	Plant & Cell Physio. 6(2): 247-266.
Kim, W.K. and Uritani, I.	1974	Induction of phytoalexin in sweet potato by soluble extracts of <i>Ceratocystis fimbriata</i> .	Ann. Phytopathol. Soc. Jpn. 40(3): 178. (abs.)
Kim, W.K. and Uritani, I.	1974	Fungal extracts that induce phytoalexins in sweet potato roots.	Plant & Cell Physiol. 15(6): 1093-1098.
木全 大・田中久仁子・山本幹博	1997	サツマイモ病害進展時におけるエチレン生成.	日植病報 63(6): 509. (講要)



著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Kojima, M. and Uritani, I.	1978	Studies on factor(s) in sweet potato which specifically inhibits germ tube growth of incompatible isolates of <i>Ceratocystis fimbriat</i> .	Plant & Cell Physio. 19(1): 71-81.
Kojima, M. and Uritani, I.	1978	Studies on the factors in sweet potato root which agglutinate the germinated spores of <i>Ceratocystis fimbriata</i> , black rot fungus.	Agric. Biol. Chem. 42(5): 1085-1087.
Kojima, m., Kawakita, K. and Uritani, I.	1981	Properties of the factor in sweet potato which agglutinates spores of <i>Ceratocystis fimbriata</i> , black rot fungus.	Agric. Biol. Chem. 45(12): 2931-2933.
久保田尚志・山口八郎・納谷恵三・松浦輝男	1952	甘藷黒斑病に関する化学的研究(第1報) 黒斑病甘藷の揮発成分について.	日本化学雑誌 73(12): 897-899.
久保田尚志・山口八郎・納谷恵三・松浦輝男	1953	甘藷黒斑病に関する化学的研究(第2報) イポメアマロンの二, 三の性質について.	日本化学雑誌 74(1): 44-47.
久保田尚志・松浦輝男	1953	甘藷黒斑病に関する化学的研究(第3-4報)(第3報) イポメアマロンのオゾン分解について.	日本化学雑誌 74(2): 101-105.
久保田尚志・松浦輝男	1953	甘藷黒斑病に関する化学的研究(第3-4報)(第4報) イポムクトンの構造について.	日本化学雑誌 74(2): 105-109.
久保田尚志・松浦輝男	1953	甘藷黒斑病に関する研究(第5報) イポメアニン酸の構造について.	日本化学雑誌 74(3): 197-199.
久保田尚志・松浦輝男	1953	甘藷黒斑病に関する研究(第6報) イポメアマロンの構造.	日本化学雑誌 74(4): 248-251.
久保田尚志・松浦輝男・市川信孝	1954	甘藷黒斑病に関する化学的研究(第8-9報)(第8報) イポメアマロン及びその関聯化合物の合成(その1) dl-イボムラクトンの合成について.	日本化学雑誌 75(4): 447-450.
久保田尚志・市川信孝	1954	甘藷黒斑病に関する化学的研究(第8-9報)(第9報) イポメアニンの構造について.	日本化学雑誌 75(4): 450-456.
久保田尚志・納谷恵三	1956	甘藷黒斑病に関する化学的研究(第10報) 黒斑病甘藷の揮発酸性成分の検索ならびにバタチン酸の構造について.	日本化学雑誌 77(1): 86-90.
久保田尚志・松浦輝男	1957	甘藷黒斑病に関する研究(14-15報)(第14報) イポメアマロンに対する無水酢酸の作用およびイポメアマロンと ngaione の関係について.	日本化学雑誌 78(3): 385-389.
久保田尚志・松浦輝男	1958	甘藷黒斑病に関する化学的研究(第16報) イポメアマロンの立体構造について.	日本化学雑誌 79(4): 490-493.
黒田佐俊	1960	黒斑病甘藷の病態生理学 第4報 黒斑病甘藷のインピーダンス.	日植病報 25(5): 230.(講要)
松浦輝男	1953	甘藷黒斑病に関する研究(第7報) イポメアマロン及びその関聯化合物の合成(その1) dl-イボムラクトンの合成について.	日本化学雑誌 74(8): 668-670.
松浦輝男・納谷恵三・久保田尚志	1956	甘藷黒斑病に関する化学的研究(第11-12報)(第11報) イポメアマロンおよびその関連物質の合成(その2) イポメアマロンのフェニル類似体の合成.	日本化学雑誌 77(2): 248-251.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
松浦耀男	1957	甘藷黒斑病に関する研究 (第14-15報) (第15報) イポメアマロンおよびその関連物質の合成 (その3) (±)-イポメアマロンの合成.	日本化学雑誌 78(3): 389-395.
Minamikawa, T., Akazawa, T. and Uritani, I.	1964	Two glucosides of coumarin derivatives in sweet potato roots infected by <i>Ceratocystis fimbriata</i> .	Agric. Biol. Chem. 28(4): 230-233.
宮路憲二	1939	<i>Endoconidiophora fimbriata</i> (E. et. H.) DAV. の生化学 (第1報).	農化 15(9): 831-835.
Muto, S. and Uritani, I.	1972	Inhibition of sweet potato glucose 6-phosphate dehydrogenase by NADPH <sub>2</sub> and ATP.	Plant & Cell Physio. 13(2): 377-380.
納谷恵三・久保田尚志	1956	甘藷黒斑病に関する化学的研究 (第11-12報) (第12報) α-メチル-γ-ベンズイル酪酸の合成.	日本化学雑誌 77(2): 252-254.
納谷恵三	1956	甘藷黒斑病に関する化学的研究 (第13報) dl-バタチン酸の合成について.	日本化学雑誌 77(5): 759-761.
O <sup>^</sup> ba, K., Shibata, H. and Uritani, I.	1970	The mechanism supplying acetyl-CoA for terpene biosynthesis in sweet potato with black rot: Incorporation of acetate-2- <sup>14</sup> C, pyruvate-3- <sup>14</sup> C and citrate-2,4- <sup>14</sup> C into ipomeamarone.	Plant & Cell Physio. 11(3): 507-510.
Oguni, I., Oshima, K. Imaseki, H. and Uritani, I.	1969	Biochemical studies on the terpene metabolism in sweet potato root tissue with black rot. Effect of C <sup>10</sup> - and C <sup>15</sup> -terpenols on acetate-2- <sup>14</sup> C Incorporation into ipomeamarone.	Agric. Biol. Chem. 33(1): 50-62.
Oguni, I. and Uritani, I.	1970	The incorporation of farnesol-2- <sup>14</sup> C into ipomeamarone.	Agric. Biol. Chem. 34(1): 156-158.
Oguni, I. and Uritani, I.	1971	Utilization of ethanol-2- <sup>14</sup> C for the biosynthesis of ipomeamarone by sweet potato root tissue infected with <i>Ceratocystis fimbriata</i> .	Agric. Biol. Chem. 35(3): 357-362.
Oguni, I. and Uritani, I.	1974	Effect of (-)-hydroxycitrate on ipomeamarone biosynthesis from pyruvate in sweet potato with black rot.	Plant & Cell Physio. 15(1): 179-182.
Oshima, k. and Uritani, I.	1967	The enzymatic synthesis of a β-hydroxy-β-methylglutaric acid derivative in sweet potato in response to the infection by the black rot fungus.	Agric. Biol. Chem. 31(9): 1105-1107.
Oshima, K. and Uritani, I.	1968	Participation of mevalonate in the biosynthetic pathway of ipomeamarone.	Agric. Biol. Chem. 32(9): 1146-1152.
Oshima, K. and Uritani, I.	1968	Enzymatic synthesis of a β-hydroxy-β-methylglutaric acid-derivative by a cell-free system from sweet potato with black rot.	J. Biochem. 63(5): 617-625.
Oshima-Oba, K., Sugiura, I. and Uritani, I.	1969	The incorporation of leucine-U- <sup>14</sup> C into ipomeamarone.	Agric. Biol. Chem. 33(4): 586-591.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Ohshima-Oba, K. and Uritani, I.	1969	Enzymatic synthesis of isopentenyl pyrophosphate in sweet potato root tissue in response to infection by black rot fungus.	Plant & Cell Physiol. 10(4): 827-843.
Shichi, H. and Uritani, I.	1964	Electron transport system in <i>Ceratocystis fimbriata</i> .	J. Biochem. 55(1): 11-18.
鈴木直治・瓜谷郁三	1952	甘藷褐變組織内及び周邊に現われるエールリヒ氏アルデヒド試薬による反応陽性成分について.	日植病報 16(2): 54-56.
鈴木直治	1952	病甘藷組織内に集積するイポメアマロンとクロロゲン酸の見分け方.	農業技術 7(8): 200-208.
竹内 明・瓜谷郁三	1976	(1B-25) 罹病サツマイモにおけるテルペン合成とアセチルCoA代謝.	植物生理学会講要集17: 60.
Takeuchi, A., Oguni, I., Ôba K., Kojima, M. and Uritani, I.	1978	Interactions between diseased sweet potato terpenoids and <i>Ceratocystis fimbriata</i> .	Agric. Biol. Chem. 42(5): 935-939.
Takeuchi, A., Scott, K.J., Oba, K. and Uritani, I.	1980	Possible role of the cytosol pathway of acetyl-CoA supply in terpene biosynthesis in sweet potato infected with <i>Ceratocystis fimbriata</i> .	Plant & Cell Physiol. 21(5): 917-922.
瓜谷郁三・村松敬一郎	1952	黒斑病罹病甘藷の病理化学的研究(第2報) 被害部變色に關係ある二,三の要因に就て.	農化 26(6): 289-295.
瓜谷郁三・赤澤 堯・舟橋三郎	1953	黒斑病甘藷の呼吸酵素系の活性化に就いて(II).	日植病報 18(1-2): 71.(講要)
瓜谷郁三・村松敬一郎	1953	黒斑病罹病甘藷の病理化学的研究(第3報) 甘藷黒斑病菌の甘藷侵害に関する二,三の知見に就て.	農化 27(1): 24-29.
瓜谷郁三・村松敬一郎	1953	黒斑病罹病甘藷の病理化学的研究(第4報) 罹病甘藷よりのポリフェノールの分離証明(その1).	農化 27(1): 29-33.
瓜谷郁三	1953	黒斑病甘藷の病理化学的研究(第5報) 罹病甘藷中のポリフェノール成分の生理.	農化 27(2): 57-62.
瓜谷郁三・星谷磐夫	1953	黒斑病甘藷の病理化学的研究(第6報) 罹病甘藷よりのクマリン成分の分離とその生理.	農化 27(4): 161-164.
瓜谷郁三	1953	黒斑病甘藷の病理化学的研究(第7報) 罹病甘藷よりのポリフェノール成分の分離証明(その2).	農化 27(4): 165-168.
瓜谷郁三・滝田智久	1953	黒斑病甘藷の病理化学的研究(第8報) 罹病甘藷の呼吸の異状増加に就て.	農化 27(4): 168-174.
瓜谷郁三・家近恵子	1953	黒斑病甘藷の病理化学的研究(第9報) 罹病甘藷中のアスコルビン酸に関する二,三の知見について.	農化 27(10): 688-692.
瓜谷郁三	1953	黒斑病甘藷の病理化学的研究(第10報) 被害部隣接健全層の重曹水浸漬による緑変現象の機構(その1).	農化 27(11): 781-785.
瓜谷郁三・星谷磐夫・滝田智久	1953	黒斑病甘藷の病理化学的研究(第11報) 被害部隣接健全層の重曹水浸漬による緑変現象の機構(その2).	農化 27(11): 785-789.

著者名	年	表題	掲載誌・巻号頁
瓜谷郁三・赤沢 堯	1953	黒斑病甘藷の病理化学的研究 (第12報) 罹病甘藷の呼吸酵素系の活性化.	農化 27(11): 789-795.
瓜谷郁三	1954	甘藷疾病の生化学 黒斑病甘藷の病理化学を中心として.	農産加工研誌 1(4): 205-213.
瓜谷郁三・瓜谷美代子・山田秀子	1955	毒物で処理された甘藷の代謝の変化.	農産加工研誌 2(5): 216.
瓜谷郁三・赤沢 堯・平田優美子・山田秀子	1955	黒斑病菌に侵された植物の代謝と抵抗.	日植病報 20(2-3): 106-107. (講要)
瓜谷郁三・赤沢 堯	1955	黒斑病甘藷の病理化学的研究 (第15報) イポメアマロンの黒斑病菌に対する阻害作用 (その2)	農化 29(2): 148-151.
瓜谷郁三・宮野真光	1955	黒斑病甘藷の病理化学的研究 罹病甘藷中のポリフェノール成分 (その3).	農化 29(2): 151-156.
瓜谷郁三・宮野真光	1955	黒斑病甘藷の病理化学的研究 (第17報) 罹病甘藷中のポリフェノール成分 (その4).	農化 29(2): 156-161.
瓜谷郁三・赤沢 堯・瓜谷美代子	1955	黒斑病甘藷の病理化学的研究 (第18報) 罹病甘藷の呼吸と変色.	農化 29(5): 344-349.
瓜谷郁三	1955	黒斑病甘藷の代謝と抵抗の生化学的内容 (1).	農業技術 10(12): ???
瓜谷郁三	1956	黒斑病甘藷の代謝と抵抗の生化学的内容 (2).	農業技術 11(1): ???
Uritani, I. and Stahmann, M.A.	1961	The relationship between antigenic compounds produced by sweet potato in response to black rot infection and the magnitude of disease resistance.	Agric. Biol. Chem. 25(6): 479-486.
Uritani, I., Nomura, H. and Teramura, T.	1967	Comparative analysis of terpenoids in roots of <i>Ipomoea</i> species induced by inoculation of <i>Ceratocystis fimbriata</i> .	Agric. Biol. Chem. 31(3): 385-388.
渡邊博恭・岩田久敬	1950	黒斑病甘藷の研究 (第1報) 黒斑病甘藷精油成分の驅蟲作用に就て.	農化 23(12): 521-524.
渡邊博恭・岩田久敬	1952	黒斑病甘藷の研究 (第2報) 黒斑病甘藷精油成分の毒作用に就て.	農化 26(4): 180-183.
渡邊博恭・西山定雄	1952	黒斑病甘藷の研究 (第3報) イポメアマロンの化学的性質に就て.	農化 26(4): 200-202.
Yamaki, S. and Uritani, I.	1974	Mechanism of chilling injury in sweet potato Part XII. Temperature dependency of succinoxidase activity and lipid-protein interaction in mitochondria from healthy or chilling-stored tissue.	Plant & Cell Physio. 15(4): 669-680.
Yasuda, K. and Kojima, M.	1986	The role of stress metabolites in establishing host-parasite specificity between sweet potato and <i>Ceratocystis fimbriata</i> , black rot fungus.	Agric. Biol. Chem. 50(7): 1839-1846.

### 633 そのほかの菌類病

荒木隆男・曾我友子・鈴木直治	1953	甘藷紫紋羽病に関する研究 - 発病と土壌条件.	日植病報 18(1-2): 58-59. (講要)
荒木隆男・鈴木直治	1955	甘藷紫紋羽病に関する研究 - 発病と土壌条件 -.	日植病報 20(2-3): 107. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
荒木隆男・山崎保子・鈴木直治	1957	紫紋羽病菌のイタコン酸産生について.	日植病報 22(2): 83-87.
荒木隆男・山崎保子・鈴木直治	1957	甘藷紫紋羽病に関する研究 IV. 病原菌のイタコン酸産生.	農技研報告 C8: 53-60.
明日山秀文・遠藤武雄	1951	サツマイモ根腐病に関する2, 3の實驗.	日植病報 15(2): 91.(講要)
Cabanillas, H.E., de Leon, J.H., Humber, R.A., Murray, K.D. and Jones, W.A.	2013	<i>Isaria poprawskii</i> sp. nov. (Hypocreales: Cordycipitaceae), a new entomopathogenic fungus from Texas affecting sweet potato whitefly.	Mycosci. 54(2): 158-159.
千葉恒夫・下長根鴻・祝迫視志・松田 明	1982	サツマイモ根腐立枯れ及び塊根かいよう症状のクロルピクリン剤による効率的土壤消毒法.	関東東山病虫研報 29: 46-48.
千葉恒夫・下長根鴻・祝迫親志・松田 明	1984	サツマイモ根腐れかいよう症状(仮称)の発生と防除法 -とくにクロルピクリン剤による効率的土壤消毒法について-	茨城農試研報 23: 149-166.
遠藤 茂・高津 覺	1949	甘藷黒星病に関する二三の研究.	日植病報 13(3-4): 60.(講要)
遠藤武雄・明日山秀文	1950	甘藷の蔓割病罹病性の品種間差異.	日植病報 14(3-4): 115-116.(講要)
藤川 隆・小杉吉彦	1951	甘藷の白絹病に関する研究 1. 甘藷の白絹病に対する罹病度の品種間際にて.	九州農試彙報 1(1): 68-69.
福西 務	1976	四国地方で多発しはじめた早掘りサツマイモの潰瘍病と防除.	今月の農薬 20(8): 76-79.
Gai, Y., Ma, H., Chen, X., Zheng, J. Chen, H. and Li, H.	2016	Stem blight, foot rot and storage tuber rot of sweet potato caused by <i>Plenodomus destruens</i> in China.	J. Gen. Plant Pathol. 82(4): 181-185.
権藤道夫・有村光生	1963	紫紋羽病菌の栄養源と土壤環境.	九州病虫研報 9: 90.(講要)
長谷川 浩	1946	甘藷品種の生育に及ぼす高温の影響.	九州農業研究 4: 43-45.
逸見武雄・石橋富美・林 文恵	1949	甘藷のモットル, ネクローシスに就いて.	日植病報 13(1-2): 44-46.
堀田治邦・高濱雅幹	2014	北海道におけるサツマイモつる割病の発生と品種別感受性の差異.	北日本病害虫研究会報 65: 32-36.
鑄方末彦・安尾 俊	1950	甘藷の瘡葉病(新稱)に就て.	日植病報 14(1-2): 35-36.
池野早苗	1943	甘藷小粒白絹病に就て.	病蟲害雑誌 30(4): 9-12.
伊藤一雄	1949	紫紋羽病に関する研究 (II) 病原菌の分離及び培養上の性質(豫報).	日植病報 13(1-2): 62.(講要)
伊藤一雄	1950	紫紋羽病に関する研究 特に病原菌分離及培養に就て. (1) 罹病甘藷塊根からの分離. (2) 擔孢子からの分離.	日植病報 14(1-2): 52.(講要)
伊藤一雄	1950	紫紋羽病に関する研究 特に病原菌の寄主體侵入法に就て.	日植病報 14(3-4): 107.(講要)
井浦 徳・中馬克己	1946	甘藷に於ける相關2題 1) 莖基部の太さと諸重 2) 生藷の硬度と切干歩合.	九州農業研究 4: 22-25.
岩橋哲彦・岡田 大・山口慎一	1979	サツマイモ紫紋羽病の薬剤防除法について.	九州農業研究 41: 65.
笠井久三・山崎保子・鈴木直治	1953	甘藷紫紋羽病に関する研究 -病變組織内のN化合物, 炭水化物の變動.	日植病報 18(1-2): 59.(講要)
笠井久三	1953	甘藷紫紋羽病に関する研究 -病原菌の合成培地培養中の糖の變化.	日植病報 18(1-2): 59.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
笠井久三・荒木隆男	1957	甘藷紫紋羽病に関する研究 II 紫紋羽病菌の生育に及ぼすサイアミン, アスコルビン酸の影響.	農技研報告 C8: 29-36.
笠井久三・山崎保子・鈴木直治	1957	甘藷紫紋羽病に関する研究 V. 感染組織における窒素化合物及び炭水化物の変動.	農技研報告 C8: 61-68.
木村貞夫・小川義雄	1975	サツマイモの種いも消毒法について 第1報 軟腐病菌の胞子のう胞子発芽条件と防除薬剤スクリーニング.	九州病虫研報 21: 81-83.(講要)
喜多孝一・工藤和一	1984	サツマイモ紫紋羽病の発生生態と防除法.	九州農試年報 1983: 27-30.
小林 晃・川田ゆかり・境垣内岳雄・末松恵祐・甲斐由美・小林有紀	2021	サツマイモ茎腐病発生圃場における主要15品種の基腐病抵抗性の評価.	日植病報 87(1): 54-55.(講要)
小林有紀	2019	サツマイモ基腐病(仮称)の発生と対策.	植物防疫 73(8): 501-505.
小林有紀・西 八束・西岡一也・櫛間義幸・臼井真奈美・小林 晃・岡田吉弘	2021	南九州におけるサツマイモ基腐病の分離と病原性比較.	日植病報 87(1): 54.(講要)
小林有紀	2021	サツマイモ基腐病の発生と防除の取り組み.	砂糖類・でん粉情報 2021(10): 61-68.
前田 藍・河村 太・河野伸二・大城 篤・岡田吉弘	2019	我国における <i>Phomopsis destruens</i> によるサツマイモ基腐病(新称)の発生.	九州病虫研報 65: 105.(講要)
丸山紀子・徳田遼祐・岡野夕香里・宮崎彰雄・佐藤 遼・前島健作・難波成任・山次康幸	2020	LAMP法によるサツマイモ基腐病菌の特異的高感度検出技術の開発.	日植病報 86(3): 192.(講要)
松尾卓見・宮下秀子・福西 務	1979	徳島県下に多発したサツマイモかいよう病の病原 <i>Fusarium</i> 菌.	日植病報 45(1): 81.(講要)
簗島綾華・河野伸二・前田 藍・中村美沙・山城麻希・澤岬哲也・Amy Y. Rossman・廣岡博史	2020	サツマイモ茎腐病菌は <i>Plenodomus</i> 属菌か.	日植病報 86(3): 167.(講要)
三澤知央	2018	北海道で発生した園芸作物の新病害(その23) サツマイモ灰色かび病.	北農 85(1): 15-17.
森 寛一・沢田 肇	1959	甘藷紫紋羽病に対する各種防除薬剤の効果について.	日植病報 24(1): 47.(講要)
中村美沙・河野伸二・澤岬哲也・山城麻希	2021	PCRによるサツマイモ基腐病菌( <i>Diaporthe destruens</i> )の特異的検出.	日植病報 87(3): 152.(講要)
中沖美優・月居佳史・上松 寛・平田隆司・松浦貴之	2021	蒸熱処理によるサツマイモ基腐病菌の消毒効果.	日植病報 87(3): 165-166.(講要)
西 八束・西岡一也・根本涼子・兒玉真一朗	2020	サツマイモ圃場におけるサツマイモ基腐病の発病様相.	日植病報 86(3): 174.(講要)
西 八束・西岡一也・藤原和樹	2020	サツマイモ基腐病の罹病種イモおよび茎葉での部位別の菌量と苗伝染について.	九州病虫研報 66: 74.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
西原一孝・河辺愛宏	1986	甘しょ紫紋羽病防除の機械化一貫作業体系.	鹿児島農試研報 14: 59-62.
西門義一・中山隆夫・日浦運治	1947	甘藷の貯蔵腐敗防止に関する研究 第1報 貯蔵甘藷を侵害する病害の種類に就いて(概報)其一.	農学研究 37(1): 18-19.
西門義一・日浦運治・生田 豊	1947	甘藷の黒星病防除に関する研究.	農学研究 37(2): 54-56.
西門義一・日浦運治	1949	病害豫防用薬劑の効果の研究 第6報 稲の胡麻葉枯病, 甘藷黒星病及び大麥の白澁病に対する豫防効果並びに稻熱病に対する効果との比較.	農学研究 38(3): 12-16.
西門義一・日浦運治	1951	貯蔵甘藷を侵害する <i>Macrophoma edulis</i> D'Almeida菌に就いて.	農学研究 39(3): 37-41.
西野新次・広原宗次	1972	サツマイモ黒あざ病に対するPCNB粉剤の防除効果.	茨城県病害虫研究会報 12: 26-27.
西岡一也・西 八束・尾松直志・末川 修・兒玉真一郎	2020	サツマイモ基腐病の発生圃場から採取した罹病程度の異なる塊根の育苗床における発病比較と防除対策.	日植病報 86(3): 174.(講要)
西岡一也・西 八束・尾松直志・末川 修・兒玉真一郎・上之園 茂	2021	サツマイモ基腐病による貯蔵中の種苗用塊根の発病リスクを軽減する塊根管理技術.	日植病報 87(4): 239-250.
西岡一也・西 八束・兒玉真一郎・上之園 茂	2021	(病害03)サツマイモ基腐病による貯蔵中の種イモの腐敗を軽減するための種イモ管理技術の開発.	100回研究発表会講演要旨(病害), p.3.
西澤正洋	1948	甘藷潰瘍病に就て.	九州農業研究 3: 20-22.
西沢正洋	1950	甘藷潰瘍病に関する研究(第2報)病原菌の伝染に就て.	九州農業研究 6: 43-44.
西沢正洋・水田隼人	1950	甘藷潰瘍病に関する研究(第3報)病原菌の各種植物に対する寄生性に就て(1).	九州農業研究 7: 67-68.
西澤正洋	1951	甘藷潰瘍病に関する研究 第1報 病徴, 病原及び発生状況に就て.	日植病報 15(2): 91-92.(講要)
西澤正洋	1951	甘藷潰瘍病菌の温度に對する抵抗力に就て.	日植病報 15(3-4): 141-142.
西沢正洋・水田隼人	1951	甘藷潰瘍病に関する研究 第4報 本病に對する品種の抵抗力検定に就て.	九州農試彙報 1(1): 62.
西沢正洋・水田隼人	1951	甘藷潰瘍病に関する研究 第6報 病原菌の各所植物に對する寄生性に就て(2).	九州農試彙報 1(1): 63-64.
西沢正洋	1952	甘藷潰瘍病に関する研究 第7報 病原菌胞子の発芽及び生存力と空気関係湿度との關係に就て.	九州農業研究 9: 21-22.
西沢正洋	1952	甘藷潰瘍病に関する研究(第8報).	九州農試彙報 1(2): 263-270.
野見山孝司・富岡啓介・中保一浩	2019	(病害14)サツマイモ基腐病菌 <i>Plenodomus destruens</i> Harter の <i>nit</i> 変異株の作製.	98回研究発表会講演要旨
野見山孝司・富岡啓介・中保一浩	2020	サツマイモ基腐病菌 <i>Plenodomus destruens</i> Harter の <i>nit</i> 変異株の作成.	日植病報 86(1): 77.(講要)
野見山孝司・上田重文	2021	サツマイモ基腐病菌 ( <i>Diaporthe destruens</i> ) の <i>nit</i> 変異株を用いた土壤還元消毒の条件検討.	日植病報 87(3): 166.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
野中福次・安井一臣	1965	Ipomeamaroneの各種植物病原菌に対する特異性.	九州病虫研報 11: 116.(講要)
小笠原長道・船津傳次平	1885	蕃薯のモンパ病発生の原因及び防除法質問並答.	大日本農會報告 51: 37-38.
小川 奎	1979	サツマイモつる割病の品種間差異および伝染経路について.	農事試研報 30: 97-120.
小川 奎・駒田 旦	1980	非病原性フザリウム菌の接種によるサツマイモつる割病の交叉防御.	日植病報 46(3): 393.(講要)
小川 奎・駒田 旦	1981	非病原性フザリウム菌の接種によるサツマイモつる割病の交叉防御 (第2報).	日植病報 47(3): 389.(講要)
小川 奎・駒田 旦	1981	サツマイモかいよう病の病原について.	日植病報 47(3): 407-408.(講要)
小川 奎・駒田 旦	1984	非病原性 <i>Fusarium oxysporum</i> によるサツマイモつる割病の生物的防除.	日植病報 50(1): 1-9.
小川 奎・千葉恒夫	1984	非病原性フザリウム菌によるサツマイモつる割病の防除 1. 前接種菌濃度と防除効果.	関東東山病虫研報 31: 29-30.
小川 奎	1984	サツマイモつる割病の生物的防除.	植物防疫 38(12): 221-224.
小川 奎・駒田 旦	1986	非病原性 <i>Fusarium oxysporum</i> によるサツマイモつる割病に対する全身的な抵抗性の誘導.	日植病報 52(1): 15-21.
小川 奎	1988	サツマイモつる割病に関する研究.	農研セ研報 10: 1-127.
小川 奎	1989	サツマイモつる割病の生物的防除に関する研究.	日植病報 55(4): 385-387.
小川 奎	1989	微生物利用によるサツマイモつる割病の防除.	農業技術 44(4): 145-149.
小川 奎・駒田 旦	2018	非病原性 <i>Fusarium oxysporum</i> によるサツマイモつる割病の生物的防除. (学会誌創刊100周年記念企画 Series 8)	日植病報 84(4): 288-296.
尾川宣広・中西善裕・根本涼子・西岡一也・西 八束	2020	前年(2018年)に多発した生産地域におけるサツマイモ基腐病の発生と排水環境.	日植病報 86(3): 174.(講要)
Ojaghian, S., Wang, L. and Xie, G.L.	2020	Enhanced resistance to white rot in <i>Ipomoea batatas</i> expressing a <i>Trichoderma harzianum</i> chitinase gene.	J.Gen.Plant Pathol. 86 (5): 412-418.
岡本 弘	1950	甘藷軟腐病と傷部の状態との関係に就いて.	日植病報 14(3-4): 63-65.
大城 篤・田場 聡・高江洲和子	2000	サツマイモ褐色乾腐病への病原菌追加について.	日植病報 66(3): 258.(講要)
沢田 肇・森 寛一	1956	クロールピクリン処理後の甘藷紫紋羽病の発生経過について.	日植病報 21(1): 39.(講要)
沢田 肇	1960	甘藷黒痣病に対する薬剤防除効果について.	日植病報 25(5): 43-44.(講要)
島袋俊一	1956	甘藷しゅくが(縮芽)病の除去法.	琉大農家便り 7: 5-6.
島田 峻・西宮智美・渡邊 健	2019	サツマイモつる割病に対する有効薬剤の選抜.	日植病報 85(3): 274.(講要)
島田 峻・小畑祐介・西宮智美・有江 力	2020	ベノミル耐性サツマイモつる割病菌のLAMP-FLP法による検出.	日植病報 86(3): 176.(講要)



著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
島田 峻・斉藤大幹・小寺俊丞・有江 力・中島雅己	2021	ベノミル耐性サツマイモつる割病菌のLAMP-FLP法による検出(2).	日植病報 87(3): 152.(講要)
下田代智英・内門佑太・松原光南・渋谷哲平・柿木敬志	2021	サツマイモ基腐病発生圃場における可視画像解析を利用した生育障害の簡易検出の試み.	九州農業研究発表会要旨集(作物部会)84: 16.(講要)
新小田あづさ・濱崎明博・上之 蘭茂	2021	キュアリング処理等がさつまいもの軟腐病を抑制するメカニズムの調査.	日本食品保蔵科学会 70回大会(講要)
孫工弥寿雄・喜多孝一	1979	サツマイモ紫紋羽病に関する研究 1.発病防止効果をもつ各種資材導入と湛水マルチの併用効果.	九州病虫研報 25: 21-24.
鈴木直治	1950	甘藷及びビニンジンの紫紋羽病.	植物防疫 6(5): 212.
鈴木直治・笠井久三・曾我友子	1950	甘藷紫紋羽病菌の発生環境としての土壌に就て.	日植病報 14(3-4): 116.(講要)
鈴木直治・笠井久三・荒木隆男	1951	甘藷紫紋羽病感染部位の組織化学的研究 (I) 顕微化学的観察.	日植病報 15(1): 45.(講要)
鈴木直治・笠井久三・荒木隆男	1951	甘藷紫紋羽病に関する研究 第3報 土壌条件と発病との関係.	日植病報 15(2): 92.(講要)
鈴木直治	1953	甘藷紫紋羽病に関する研究 一病変組織に於けるフェノールの集積とナヂ反応, メチレン青還元反応, 並に褐変と抵抗性について.	日植病報 18(1-2): 71-72.(講要)
鈴木直治・富沢長次郎・豊田 栄	1956	甘藷紫紋羽病感染組織における磷酸化合物の行動と呼吸との関係.	日植病報 21(4): 175-180.
鈴木直治・笠井久三・荒木隆男・高梨友子	1957	甘藷紫紋羽病に関する研究 I 自然条件下における感染過程.	農技研報告 C8: 1-28.
鈴木直治	1957	甘藷紫紋羽病に関する研究 VI. 感染部位の組織化学的研究 一感染組織の化学的变化.	農技研報告 C8: 69-130.
鈴木直治・豊田 栄	1957	甘藷紫紋羽病に関する研究 VII. 感部部位の組織化学的研究 一呼吸増加, エネルギー代謝, 組織褐変と抵抗.	農技研報告 C8: 131-173.
鈴木直治・他	1952	甘藷紫紋羽病の防除法.	農及園 27(3): 360-364.
田淵宏朗・小林 晃・小林有紀	2021	茎腐病によるサツマイモ塊根断片腐敗程度はサツマイモ品種や培養温度により異なる.	日植病報 87(1): 55.(講要)
多田 勳	1942	甘藷の白絹病(小粒白絹病).	日植病報 12(2-4): 205-208.
田上義也	1951	甘藷紫紋羽病発生に対する早掘の影響.	日植病報 15(2): 90.(講要)
高野幸成・猪野 誠	2007	サツマイモつる割病に対する土壌汚染程度の簡易検定法の開発と実用性評価.	関東東山病虫研報 54: 13-17.
高野幸成・猪野 誠	2007	サツマイモつる割病に対する発病土壌の簡易検定法とその利用.	関東東山病虫研報 54: 193.(講要)
高野幸成・猪野 誠	2013	サツマイモ“周皮乾腐症状”(仮称)の発生要因.	千葉農林総研研報 5: 63-74.
瀧元清透	1938	甘藷の褐色乾腐病(甘藷の病害 III).	日植病報 8(3): 247-248.
Tojo, M., Watanabe, K., Kida, K., Li, Y. and Numata, S.	2007	Mottle necrosis of sweet potato caused by <i>Pythium sclerotieichum</i> in Japan and varietal difference in susceptibility to the disease.	J. Gen. Plant Pathol. 73(2): 121-124.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
富永時任・土屋行夫	1959	<i>Pyrenochaeta</i> 属菌によるサツマイモの新病害について.	日植病報 24(1): 38-39. (講要)
Uetake, Y., Nakamura, H., Ikeda, K., Arakawa, M. and Matsumoto, N.	2003	<i>Helicobasidium mompa</i> isolates from sweet potato in continuous monoculture fields.	J. Gen. Plant Pathol. 69(1): 42-44.
臼井真奈美・櫛間義幸	2020	サツマイモ基腐病の地上部発病程度と塊根被害の関係.	日植病報 86(3): 173-174. (講要)
臼井真奈美・櫛間義幸	2020	(病害08) 宮崎県で発生したサツマイモ基腐病菌の発生生態と茎葉散布剤及び伐根による二次伝染の抑制効果.	99回研究発表会講演要旨(病害), p.3.
臼井真奈美・櫛間義幸	2020	宮崎県におけるサツマイモ基腐病の発生状況と第一次伝染源の解明並びに発病抑制を目的とした採苗方法の検討.	九州病虫研報 66: 12-17.
渡辺 健・竹原利明・国安克人	1992	サツマイモつる割病菌と非病原性フザリウム菌のnit変異株の作出およびその病原性と交差防御機能の確認.	日植病報 58(1): 159-160. (講要)
渡辺 健・小川 奎	1993	サツマイモつる割病防除に用いた非病原性 <i>Fusarium oxysporum</i> の植物体内および土壌中におけるモニタリング.	日植病報 59(3): 278-279. (講要)
渡邊 健・竹原利明・国安克人・小川 奎	2005	サツマイモつる割病防除に有効な非病原性フザリウム菌の実用化に関する研究 第1報 土壌中, 植物体内における非病原性フザリウム菌の動態.	茨城農総セ農研研報 8: 1-9.
渡邊龍雄	1935	甘藷蔓割病のワクチン療法に就て.	日植病報 5(1): 82-84. (講要)
渡邊龍雄	1937	Dry vaccineの甘藷蔓割病豫防上の効果.	日植病報 7(1): 83-84. (講要)
渡邊龍雄	1942	甘藷蔓割病のワクチン療法に関する研究.	日植病報 12(1): 66-67. (講要)
渡邊龍雄	1945	甘藷蔓割病菌の生理學的分化に関する研究 第III報 培養濾液の毒性.	宇都宮高等農林報告 37: 263-
渡邊龍雄	1945	甘藷蔓割病菌の生理學的分化に関する研究 第IV報 病原性.	宇都宮高等農林報告 37: 273-
渡邊龍雄	1945	甘藷蔓割病菌の生理學的分化に関する研究 第V報 形態及種の決定.	宇都宮高等農林報告 37: 295-
渡邊龍雄	1945	甘藷蔓割病菌の生理學的分化に関する研究 第VI報 總括.	宇都宮高等農林報告 37: 311-
渡邊龍雄	1949	甘藷蔓割病の發生に及ぼす土壌濕度の影響.	日植病報 13(3-4): 364-365. (講要)
渡邊龍雄・若井田正義・中山仁恵	1950	<i>Fusarium</i> sp.による甘藷葉枯病(假稱)について.	日植病報 14(3-4): 104-105. (講要)
山田 濟・鹽見正保	1950	甘藷蔓割病に對する罹病度の品種間差異に就て.	日植病報 14(1-2): 50-51. (講要)
山崎保子・鈴木直治	1955	甘藷紫紋羽病に関する研究 一塊根のペクターゼ活力の成育期間中変化と品種間差異.	日植病報 20(2-3): 107. (講要)
山崎保子	1957	甘藷紫紋羽病に関する研究 III. 病原菌のペクチン分解力.	農技研報告 C8: 37-52.
柳田良雄. 村永治喜	1979	サツマイモのかいよう病に對する品種間差異について.	九州病虫研報 25: 19-20.

著者名	年	表題	掲載誌・巻号頁
吉井 啓	1951	黒星病に対する甘藷の抵抗性に就いて(第1報).	日植病報 15(2): 90-91.(講要)

640 線虫病			
Abe, N., Matsuzaki, M., Wada, K., Nakano, A., Sato, E., Hattori, G. and Toyota, K.	2015	Influence of nematicide on the damage caused by <i>Meloidogyne incognita</i> (Tylenchida: Meloidogynidae) to sweet potato in sandy fields in northeastern Tokushima Prefecture.	Appl. Ent. Zool. 50(2): 255-261.
荒城雅昭・佐野善一・中園和年	1983	サツマイモの連作障害とサツマイモネコブセンチュウの関連性.	九州病虫研報 29: 129-132.
荒城雅昭・田淵尚一・梅村芳樹・坂本 敏・久木村 久・中園和年	1986	サツマイモネコブセンチュウ5個体群のサツマイモ品種に対する反応とその変異.	九州病虫研報 32: 231.(講要)
荒城雅昭・井上恒久・須藤 允	1991	市販飼料作物の圃場条件での線虫密度抑制効果.	九州病虫研報 37: 130-132.
荒城雅昭	1992	ネコブセンチュウ混合個体群の混合比の判別寄主による推定方法.	九州病虫研報 38: 99-104.
浅水恵理香・白澤健太・平川英樹・岩堀英晶	2017	(P42) サツマイモネコブセンチュウ系統のゲノム多型解析.	植物微生物研究会 第27回研究交流会, (講要)
千吉良敦史・高野幸成・鈴木健司	2012	線虫対抗植物及び抵抗性サツマイモ品種が後作サツマイモに及ぼす影響(第2報) 2作目への影響.	園学雑別冊(H24春): 野049.(講要)
千吉良敦史・高野幸成・鈴木健司	2013	対抗植物及び品種「ベにはるか」導入によるサツマイモの線虫被害低減効果.	千葉農林総研研報 5: 75-83.
家入 章・古山 覚	1964	熊本県における甘藷の線虫被害に関する研究 第1報 線虫被害の関与性について.	九州病虫研報 10: 39-41.
家入 章・古山 覚	1965	熊本県における甘藷の線虫被害に関する研究 第2報 線虫と甘藷つる割病病原菌との混合被害機構について.	九州病虫研報 11: 110-112.
家入 章	1967	甘しよを加害する線虫と甘しよつる割病菌との混合被害について.	九州農業研究 29: 134.
江島千佳・志水法子・西山英孝・澤進一郎	2013	(10) サツマイモ根瘤線虫のシロイヌナズナへの感染過程の解析.	植物微生物研究会 第23回研究交流会, (講要)
福田 健・馬門克明・嶽崎 研・林川修二	2012	サツマイモのネコブセンチュウに対する防除薬剤の検討 1 ネマトリンエース粒剤の処理方法及び畦立マルチャの違いによる防除効果.	九州病虫研報 58: 132.(講要)
福田 健・林川修二	2014	サツマイモのネコブセンチュウに対する4種接触型粒剤の防除効果.	九州病虫研報 60: 119-120.(講要)
福田 健・林川修二	2016	サツマイモのネコブセンチュウに対する4種接触型粒剤の防除効果.	九州病虫研報 62: 89-94.
福田 健・林川修二	2016	サツマイモのネコブセンチュウに対する4種接触型粒剤の作条土壌混和での防除.	九州病虫研報 62: 135.(講要)
福田 健・重水 剛	2018	サツマイモのセンチュウ類に対する新規薬剤「ビーラム粒剤」の防除効果.	九州病虫研報 64: 94.(講要)
福永 求・岩堀英晶	2002	線虫抵抗性原料用サツマイモとの輪作による青果用サツマイモのネコブセンチュウ密度抑制.	九州病虫研報 48: 64-67.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
福永 求・岩堀英晶	2002	線虫抵抗性原料用サツマイモとの輪作による青果用サツマイモのネコブセンチュウ密度抑制.	九州病虫研報 48: 106-107. (講要)
後藤重喜	1964	甘藷根ぐされ線虫病の防除に関する調査研究.	宮崎農試研報 5: 1-121.
後藤 昭・佐野善一	1971	殺線虫剤の室内検定法としての密閉容器内土壌くん蒸法の検討.	九州病虫研報 17: 81-84.
後藤 昭・佐野善一・皆川 望	1973	有効積算温度によるサツマイモネコブセンチュウの侵入時期別発生予察.	九州病虫研報 19: 124-127.
後藤和夫	1942	甘藷線虫病.	日植病報 11(4): 204-207.
後藤重喜	1950	甘藷根腐線虫の寄生植物に就いて.	九州農業研究 7: 71-72.
後藤重喜・蓮子栄吉	1951	甘藷根腐線虫のクロールピクリンによる土壌消毒について (第1報) 発病状況に及ぼす影響.	九州農業研究 8: 95-96.
後藤重喜・蓮子栄吉	1952	甘藷根腐線虫のクロールピクリンによる土壌消毒について 第2報 生育並びに2, 3の生理作用に及ぼす影響.	九州農業研究 10: 149-150.
後藤重喜	1954	甘藷根腐線虫の発病度と諸要因との関係 土壌の温度及び湿度.	九州農業研究 13: 15-16.
後藤重喜	1954	甘藷根腐線虫の発病度と諸要因との関係 品種及び移植の時期.	九州農業研究 14: 220-222.
後藤重喜	1955	甘藷根腐線虫の発病度と諸要因との関係 第3報 肥料要素及び堆厩肥.	九州農業研究 16: 119.
後藤重喜・川越 仁	1959	サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究 (1) 本センチュウと長崎県産ネグサレセンチュウの比較.	九州病虫研報 5: 74-75. (講要)
後藤重喜・川越 仁	1959	サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究 (2) 各種作物における寄生増殖と病斑型.	九州病虫研報 5: 75. (講要)
原 敬一・小芦健良・肥後三郎	1966	甘藷根腐現象 (仮称) について (予報).	九州病虫研報 12: 60-62.
日高 透・三浦猛夫・岡田 大	1988	高濃度D-D剤によるサツマイモ根こぶ線虫病の防除.	九州病虫研報 34: 217. (講要)
一戸 稔	1964	サツマイモネコブセンチュウの学名.	応動昆 8(2): 171-172.
池永和夫・樋口泰三	1968	土壌線虫分離法についての試案 (1).	九州病虫研報 14: 74-76.
猪野 誠・鈴木一男	1999	(19) サツマイモに対する線虫対抗植物の導入効果.	日作関東支報 14: 52-53. (講要)
石橋信義	1967	サツマイモネコブセンチュウ <i>Meloidogyne incognita</i> (KOFOID&WHITE,1919) CHTWOOD,1949の繁殖に関する研究.	農事試研報 11: 177-219.
石橋信義	1970	肥培管理がサツマイモネコブセンチュウの発生消長ならびに殺線虫剤の防除効果におよぼす影響.	応動昆 14(3): 127-133.
岩橋哲彦・後藤重喜	1970	早掘り甘藷に対するD.B.C.P.剤の施用時期について.	九州農業研究 32: 104-105.
岩堀英晶・佐野善一・小川哲治	2000	九州・沖縄地域のサツマイモおよびサトイモ圃場における主要有害線虫 1. 中南部九州(熊本県・宮崎県・鹿児島県)における調査とDNA解析による効率的な線虫種判別法の開発.	九州病虫研報 46: 112-117.
岩堀英晶・佐野善一・小川哲治	2000	九州中南部のサツマイモおよびサトイモ圃場に発生する主要有害線虫.	九州病虫研報 46: 167-168. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
岩堀英晶・佐野善一・鳥越博明	2001	九州・沖縄地域のサツマイモおよびサトイモ圃場における主要有害線虫 2. 九州本土付近の島嶼部および南西諸島における調査.	九州病虫研報 47: 112-117.
岩堀英晶・佐野善一	2002	九州・沖縄地域におけるニセフクロセンチュウ有性生殖個体群および単為生殖個体群の地理的分布.	九州病虫研報 48: 106.(講要)
岩堀英晶・佐野善一	2003	九州・沖縄地域のサツマイモおよびサトイモ圃場における主要有害線虫.	九州病虫研報 49: 83-87.
岩堀英晶・西岡稔彦・福田 健・上杉謙太	2015	安納いものサツマイモネコブセンチュウ加害レース.	九州病虫研報 61: 90.(講要)
Katsura, M. and Tateishi Y.	2013	Effect of fall cropping new oat cultivar "Sniper" which suppresses root-knot nematode on sweetpotato yield.	Sweetpotato Res. Front 29: 5.
川越 仁・後藤重喜	1960	サツマイモのネグサレセンチュウに関する研究(4) 大豆の被害様相と被害査定.	日植病報 25(1): 69.(講要)
川崎修二	2003	サツマイモほ場における線虫の密度調査(1) マルチ栽培ほ場での土壌消毒下における深度別生息密度.	九州病虫研報 49: 156.(講要)
北上 達・大久保憲秀・山本敏夫	1992	クロタリア・スペクタビリスによるサツマイモネコブセンチュウ制御技術.	関西病虫研報 34: 33-34.
古賀成司	1978	土壌線虫の耕種的防除法に関する研究第5報 ネコブセンチュウの生存に及ぼす酸素と温度の影響.	九州病虫研報 24: 148-150.
近藤鶴彦	1951	甘藷線虫類の被害と防除.	農及園 26(1): 181-185.
近藤鶴彦	1953	甘藷の根瘤線虫と防除.	農業技術研究 7(3): 15-17.
近藤鶴彦	1954	根瘤線虫に対する甘藷の耐虫性.	農業技術 9(9): (28-29.)
近藤鶴彦	1957	甘藷畑におけるサツマイモコンリユウセンチュウの季節的消長について.	防虫科学 22(1): 144-149.
近藤鶴彦	1958	線虫に対する甘藷の耐虫性.	植物防疫 12(3): 112-
近藤鶴彦・林 勇男・穴澤 茂・山崎龍男・山本和多留・三枝敏郎	1972	サツマイモにおけるサツマイモネコブセンチュウ寄生度の品種間差異.	日線虫研誌 1: 14-17.
近藤鶴彦	1972	サツマイモの品種がサツマイモネコブセンチュウの増殖に及ぼす影響.	日線虫研誌 2: 16-19.
高坂(舊姓溝上)卓爾	1946	甘藷根腐線虫病の病原線虫について.	九州農業研究 5: 5-6.
高坂卓爾	1950	甘藷ねぐされ線虫病の抵抗性について 1. 解剖学的考察.	九州農業研究 7: 65-66.
藏之内利和・百田洋二	2016	サツマイモネコブセンチュウ抵抗性検定圃場で線虫レース SP2が検定結果へ与える影響.	日線虫誌 46(2): 103-104.(講要)
藏之内利和・百田洋二・高田明子・高田明子・片山健二	2018	サツマイモの線虫抵抗性検定圃場におけるサツマイモネコブセンチュウのレース構成.	Nematol. Res. 48(1): 31-33.
皆川 望	1976	サツマイモネコブセンチュウによるカンショ農林1号の被害.	九州病虫研報 22: 121-123.
皆川 望	1978	サツマイモネコブセンチュウのほ場における発生経過と密度推定法.	植物防疫 32(6): 247-257.
溝上卓爾	1946	甘藷ねぐされ線虫病の品種間差異.	九州農業研究 4: 45-49.
溝上卓爾	1947	甘藷根瘤線虫病の抵抗性に関する解剖学的研究.	九州農業研究 1: 19-20.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
溝上淖爾	1948	甘藷根腐線虫病(假稱)について.	九州農業研究 2: 3.
水久保隆之・清水 啓・相場 聡・伊藤賢治・奈良部孝	2004	サツマイモネコブセンチュウ防除に及ぼす市販線虫対抗植物の持続効果並びに対抗植物と線虫天敵細菌 <i>Pasteuria penetrans</i> との組み合わせ効果の検討.	中央農研セ研報 4: 1-16.
Mochida, H., Tateishi, Y. and Suzuki, T.	2007	Effect of nematode-resistant sweetpotato on root-knot nematode density and succeeding crop yield.	Sweetpotato Res. Front 21: 7.
持田秀之・立石 靖・甲斐由美・佐野善一	2002	線虫抵抗性カンショ品種栽培条件下における線虫密度の推移.	日線虫誌 32(2): 94.(講要)
百田洋二・野津光雄・蔵之内利和	2004	サツマイモの線虫検定圃場におけるネコブセンチュウの動態.	日線虫誌 34(2): 116.(講要)
百田洋二・蔵之内利和・高田明子・熊谷 亨	2006	サツマイモはキタネコブセンチュウの非寄主か?	日線虫誌 36(2): 102.(講要)
百田洋二・蔵之内利和・高田明子・中村善行・熊谷 亨	2007	サツマイモ品種のキタネコブセンチュウ感受性.	日線虫誌 37(2): 112.(講要)
森川 修	1962	サツマイモネコブセンチュウの走化性について.	応動昆 6(1): 34-38.
村田 岳・上杉謙太・高井智之	2017	ネコブセンチュウ抵抗性を有する飼料用 <i>Sorghum</i> 属牧草の栽培による線虫被害抑制効果.	九州病虫研報 63: 114.(講要)
永瀬絢葉・吉賀豊司	2019	オーキシン輸送阻害剤が与えるサツマイモネコブセンチュウの根への誘引と侵入への影響.	九州病虫研報 65: 108.(講要)
中江和紀・吉賀豊司	2016	ニセフクロセンチュウの生殖様式系統間での核 rDNA ITS領域ならびにサツマイモ根への加害の差異.	日線虫誌 46(2): 105.(講要)
中西建夫・佐野善一・瀧田 誠	1992	サツマイモネコブセンチュウ抵抗性植物の検索.	日作四国支紀事 29: 50-51.(講要)
中園和年・佐野善一・荒城雅昭	1986	生育初期サツマイモ畑における主要線虫の深度別密度消長.	日線虫研誌 16: 56-63.
中園和年・古賀成司	1991	黒ボク地帯のサツマイモ圃場におけるサツマイモネコブセンチュウの垂直分布とお燻蒸剤処理効果.	日線虫研誌 21: 49-52.
Nakasono, K., Gaspardo, J.T. and Tateishi, Y.	1993	Effects of soil temperatures on spore increase of <i>Pasteuria penetrans</i> parasitizing <i>Meloidogyne incognita</i> in vinyl house conditions.	Jap. J. Nematol. 23(1): 1-9.
新美 洋・石井孝典・大塚寛治	2005	太陽熱処理—冬野菜—カンショ体系における畝の不耕起連続利用法 第1報 太陽熱処理のネコブセンチュウ防除効果.	九州農業研究 67: 34.
西沢 務	1974	抵抗性サツマイモ品種に寄生増殖するサツマイモネコブセンチュウの一系統と系統識別のための2, 3の試み.	日線虫研誌 4: 37-42.
小芦健良	1982	ガス抜きを省いたサツマイモの線虫防除.	九州病虫研報 28: 187-190.
大畑慎一郎・牛島幸一郎・田淵宏朗・田原誠・門田有希	2019	サツマイモネコブセンチュウ抵抗性に関する遺伝子発現解析.	日線虫誌 49(2): 58.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
大井田 寛・中田菜々子・岩佐博邦・鈴木健司	2019	千葉県の子マイモにおけるミナネグサレセンチュウA型(サツマイモ病原型)の寄生・加害事例.	関東東山病虫研報 69:89-91.
岡本好一・三井 康	1977	サツマイモネコブセンチュウの寄生性に対する温度の影響.	日線虫研誌 7: 10-14.
岡本好一	1979	サツマイモネコブセンチュウの抵抗性打破系統の寄生性と2期幼虫の形態的差異.	日線虫研誌 9: 16-19.
大澤貴紀・岩堀英晶・田中 篤	2016	(D203) 土壌の種類と灌水がサツマイモネコブセンチュウの縦方向移動に及ぼす影響.	昆虫学会大会(76回)・応動昆大会(60回)合同大会講要.
大田守浩・吉村華夏・石川勇人・橋口正嗣・明石 良・石田喬志・澤進一郎	2016	(PL-094) サツマイモネコブセンチュウに対する植物由来誘引物質の探索.	植物生理学会57回年会
三枝敏郎	1956	Ring nematode の一種 ( <i>Criconemoides</i> sp.) と作物の被害について.	日植病報 20(4): 179. (講要)
三枝敏郎・松本安生	1961	サツマイモネコブセンチュウとキタネコブセンチュウの寄生植物.	植物研報 1: 84-88.
佐野善一	1977	サツマイモネコブセンチュウの卵および幼虫に対するDBCPとEDBの効力.	九州病虫研報 23: 150-152.
佐野善一	1978	サツマイモネコブセンチュウ幼虫の活動性に及ぼす低温の影響.	九州病虫研報 24: 144-147.
佐野善一	1978	サツマイモネコブセンチュウの低温に対する耐性と順応.	日線虫研誌 8: 43-47.
佐野善一・皆川 望・大島康臣	1980	1,3-dichloropropene 含有率を異にする2種製剤のサツマイモネコブセンチュウとミナネグサレセンチュウに対する効果.	九州病虫研報 26: 156-158.
佐野善一・中園和年・荒城雅昭	1983	数種対抗植物における線虫密度抑制機構 - サツマイモネコブセンチュウの侵入及び発育反応.	九州病虫研報 29: 132-136.
佐野善一・中園和年・荒城雅昭	1985	夏季高温時の降雨量と甘藷圃場におけるサツマイモネコブセンチュウの存在様式.	九州病虫研報 31: 179-182.
佐野善一	1990	九州中部平地におけるサツマイモネコブセンチュウの越冬経過.	日線虫研誌 20: 8-17.
佐野善一	1996	サツマイモ(コガネセンガン)のポット連作におけるミナネグサレセンチュウとサツマイモネコブセンチュウの相互作用.	九州病虫研報 42: 162. (講要)
佐野善一・水久保隆之	1997	抵抗性の異なるサツマイモ品種におけるサツマイモネコブセンチュウとミナネグサレセンチュウの相互作用.	九州病虫研報 43: 143. (講要)
佐野善一	1999	サツマイモ連作圃場における <i>Pasteuria penetrans</i> の <i>Meloidogyne incognita</i> に対する付着率の土壌深度による違い.	日線虫誌 29(1): 46. (講要)
佐野善一・岩堀英晶・河野栄治	2000	サツマイモ主要品種のサツマイモネコブセンチュウ抵抗性とそのメカニズム.	九州病虫研報 46: 168-169. (講要)
佐野善一・岩堀英晶・立石 靖・甲斐由美	2002	サツマイモ品種・系統のサツマイモネコブセンチュウ個体群に対する抵抗性の違い.	日線虫誌 32(2): 77-86.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
佐野善一・岩堀英晶・甲斐由美	2002	サツマイモの特産品種, 新品種・系統のサツマイモネコブセンチュウ4 レースに対する抵抗性.	日線虫誌 32(2): 94-95.(講要)
Sano, Z. and Iwahori, H.	2002	Host suitability of the sweetpotato, <i>Ipomea batatas</i> to major root-knot nematodes, <i>Meloidogyne</i> species.	Sweetpotato Res. Front 13: 2.
佐野善一・岩堀英晶	2004	中南部九州の林野に自生するサツマイモネコブセンチュウのサツマイモに対する寄生性変異.	九州農業研究 66: 93.
佐野善一	2004	“センチュウ.”, 問題となっている障害, 当面する技術課題, サツマイモ, 「野菜園芸大百科 12 サツマイモ・ジャガイモ 第2版」(農文協編).	農文教, 東京, pp.244-247.
Sano, Z. and Iwahori, H.	2005	Regional variation in pathogenicity of <i>meloidogyne incognita</i> populations on sweetpotato in Kyushu Okinawa, Japan.	Jap. J. Nematol. 35: 1-12.
澤 進一郎・西山英孝・黒田 凌・有田哲矢・中上 知・石田喬志	2014	(11) サツマイモネコブセンチュウの感染機構の解析.	植物微生物研究会 第24回研究交流会, (講要)
Shibuya, M.	1952	Studies on the varietal resistance of sweet potato to the root-knot nematoda injury.	Mem. Fac. Agr. Kagoshima Univ. 1(1): 1-22.
塩谷 格	2009	サツマイモ近縁野生種のネコブセンチュウ抵抗性の遺伝.	いも類振興情報 98: 32-35.
諏訪順子・清水 舞・菅 京子・荒木田尚広・西中未央・片山健二・西宮智美	2019	サツマイモネコブセンチュウ抵抗性サツマイモ新系統の栽培による線虫被害低減効果.	日線虫誌 48(2): 58.(講要)
鈴木崇之・岩堀英晶・安達克樹・小林 透	2013	作型, マルチの種類および前作ダイコンがサツマイモのネコブセンチュウ害に及ぼす影響.	日作紀 82(1): 1-10.
鈴木崇之・佐野善一・小林 透・安達克樹・持田秀之・岩堀英晶・立石 靖	2005	サツマイモ-露地野菜体系下におけるサツマイモネコブセンチュウ密度の推移と作物の収量および品質.	日作九州支報 71: 44-46.
鈴木崇之・小林 透・安達克樹・持田秀之・岩堀英晶・立石 靖・上杉謙太	2006	サツマイモネコブセンチュウが線虫抵抗性サツマイモ品種・系統の収量構成要素および外観に及ぼす影響.	日線虫誌 36(2): 101.(講要)
鈴木崇之・安達克樹・岩堀英晶	2009	挿苗時期がサツマイモの線虫害に及ぼす影響.	作物学会講要集 227: 102-103.(講要)
鈴木崇之・安達克樹・岩堀英晶・大嶺政朗	2009	ネコブセンチュウがサツマイモの収量構成要素に及ぼす影響の品種間差.	作物学会講要集 228: 214-215.(講要)
鈴木崇之・安達克樹・岩堀英晶・小林 透	2011	前作, 作期およびマルチ資材がサツマイモのネコブセンチュウ害に及ぼす影響.	作物学会講要集 231: 96-97.(講要)
Suzuki, T.	2011	Influence of Root-knot Nematode on Damage of Tuberos Roots in Sweetpotato	Sweetpotato Res. Front 25: 4.
Suzuki, T., Niimi, H., Uesugi, K., Iwahori, H. and Adachi, K.	2014	Influences of a radish and sweet potato continuous ridge use system on root-knot nematode damage to sweet potato.	Nematol. Res. 44(1): 1-8.



著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
鈴木崇之	2015	サツマイモネコブセンチュウ害を軽減するための耕種的方法.	いも類振興情報 123: 24-32.
鈴木崇之	2016	線虫の土の中での移動.	いも類振興情報 128: 45-46.
鈴木崇之・岩堀英晶・安達克樹	2017	近年育成されたサツマイモネコブセンチュウ抵抗性サツマイモ品種栽培による線虫密度抑制効果.	日線虫誌 47(1): 9-14.
鈴木崇之	2018	線虫抵抗性サツマイモ品種による線虫密度抑制効果.	いも類振興情報 137: 37-39.
鈴木崇之・島 武男・荒川祐介	2018	南九州のサツマイモ栽培圃場における植物寄生性線虫相と圃場の立地との関係.	日線虫誌 48(2): 81-82.(講要)
田淵宏朗・小林 晃・門田有希・岸本和樹・田原 誠・岡田吉弘・岩堀英晶	2016	サツマイモネコブセンチュウレース SP6 のサブグループ.	日線虫誌 46(2): 95.(講要)
Tabuchi, H., Kuranouchi, T., Kobayashi, A., Monden, Y., Kishimoto, K., Tahara, M., Okada, Y. and Iwahori, H.	2017	Southern root-knot nematode race SP6 is divided into two races.	Nematol. Res. 47(2): 29-33.
田淵尚一・久木村久・吉田智彦・小巻克巳	1985	カンショのミナミネグサレセンチュウ抵抗性程度と線虫密度および収量の関係.	九州病虫研報 31: 233.(講要)
田淵尚一・荒城雅昭・久木村 久・中園和年	1986	抵抗性打破型サツマイモネコブセンチュウに対するカンショ品種・系統の反応.	九州病虫研報 32: 179-181
田淵尚一・久木村 久	1986	サツマイモネコブセンチュウ抵抗性を異にするカンショの連作が後作カンショの初期生育に及ぼす影響.	九州農業研究 48: 68.
高野誠義・川田惣平・木田二郎	1961	サツマイモにおける殺線虫剤の全面処理と植穴処理の持続効果(残効)比較試験.	茨城県病害虫研究会報 1: 12.
高野幸成・横山とも子・鈴木健司	2017	サツマイモ品種「べにはるか」栽培跡土壌におけるキタネコブセンチュウの増加.	関東東山病虫研報 64:154-155.(講要)
竹牟禮 穰・上室 剛	2020	サツマイモ塊根部のネコブセンチュウ被害の品種間差異.	九州農業研究発表会要旨集(作物部会) 83: 15.(講要)
立石 靖・Jerome T. GASPARD	1995	連・輪作および天敵微生物によるカンショのサツマイモネコブセンチュウ被害抑制Ⅲ.天敵微生物施用後2年目の効果.	九州病虫研報 41: 133.(講要)
立石 靖	1996	ネコブセンチュウ抵抗性程度の異なるサツマイモ品種における <i>Pasteuria penetrans</i> の増殖性.	日線虫誌 26(1-2): 38.(講要)
立石 靖	1997	<i>Pasteuria penetrans</i> を活用した栽培体系によるサツマイモネコブセンチュウ害抑制Ⅰ.ネコブセンチュウ抵抗性程度の異なるサツマイモ品種における <i>P. penetrans</i> 施用の効果.	日線虫誌 27(2): 89.(講要)
立石 靖	1997	<i>Pasteuria penetrans</i> によるサツマイモ(ベニアズマ)のサツマイモネコブセンチュウ害抑制効果.	九州病虫研報 43: 138.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
立石 靖	1998	線虫寄生性細菌 <i>Pasteuria penetrans</i> によるネコブセンチュウ感受性の異なるサツマイモ品種のサツマイモネコブセンチュウ害抑制.	九州病虫研報 44: 72-75.
Tateishi Y.	1998	Suppression of <i>Meloidogyne incognita</i> and yield increase of sweet potato by field application of <i>Pasteuria penetrans</i> .	Jap. J. Nematol. 28(1-2): 22-24.
立石 靖	1998	<i>Pasteuria penetrans</i> を活用した栽培体系によるサツマイモネコブセンチュウ害抑制 II. <i>P. penetrans</i> 施用後2作目の効果.	日線虫誌 28(1-2): 27.(講要)
立石 靖・佐野善一	1998	線虫寄生性細菌 <i>Pasteuria penetrans</i> を利用したカンショのサツマイモネコブセンチュウの生物的防除.	九州農試年報 1997: 33-36.
立石 靖・佐野善一	1999	<i>Pasteuria penetrans</i> の線虫防除効果に及ぼす栽培環境の影響 -サツマイモの <i>Meloidogyne incognita</i> 防除を中心に-. 連・輪作および <i>Pasteuria penetrans</i> による	日線虫誌 29(1): 39-40.(講要)
立石 靖	1999	サツマイモのネコブセンチュウ害抑制 VI. <i>P. penetrans</i> 施用後6作目の効果.	日線虫誌 29(1): 47-48.(講要)
立石 靖	2000	連・輪作および <i>Pasteuria penetrans</i> によるサツマイモのネコブセンチュウ害抑制 VII. <i>P. penetrans</i> 施用後7作目の効果.	日線虫誌 30(1-2): 65-66.(講要)
立石 靖・佐野善一	2001	線虫寄生性細菌 <i>Pasteuria penetrans</i> によるネコブセンチュウ感受性の異なるサツマイモ品種のサツマイモネコブセンチュウ害抑制 II. <i>P. penetrans</i> 施用後第7~9作における線虫防除効果.	九州病虫研報 47: 118-122.
立石 靖・佐野善一・岩堀英晶	2001	4種ネコブセンチュウのサツマイモに対する寄生と増殖.	日線虫誌 31(1-2): 37-42.
立石 靖・佐野善一・岩堀英晶	2001	サツマイモ連作圃場試験区における <i>Pasteuria penetrans</i> -線虫間付着親和性の変化.	日線虫誌 31(1-2): 57.(講要)
立石 靖・佐野善一	2002	連・輪作および <i>Pasteuria penetrans</i> によるサツマイモのネコブセンチュウ害抑制 VIII. D-D剤併用処理後の効果.	九州病虫研報 48: 106.(講要)
立石 靖・佐野善一・岩堀英晶	2003	南九州・沖縄県の畑地から検出された <i>Pasteuria</i> 属線虫寄生性細菌の増殖特性.	九州病虫研報 49: 157.(講要)
Tateishi, Y.	2003	Increase of virulent <i>Meloidogyne incognita</i> populations on a resistant sweetpotato cultivar, Beniotome.	Sweetpotato Res. Front 16: 4.
立石 靖・岩堀英晶・佐野善一	2005	サツマイモと矮性クロタラリアの混作によるネコブセンチュウ抑制の試み.	九州病虫研報 51: 116.(講要)
立石 靖・岩堀英晶・佐野善一	2005	サツマイモ品種のレース感受性差を利用したサツマイモネコブセンチュウ害回避の試み.	九州農業研究発表会要旨集 68: 116.(講要)
立石 靖・岩堀英晶・佐野善一	2005	サツマイモ連作圃場試験区における <i>Pasteuria penetrans</i> -線虫間付着親和性の変化(第2報).	日線虫誌 35(2): 101.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
立石 靖・上杉謙太・岩堀英晶	2006	サツマイモ品種におけるアレナリアネコブセンチュウおよびナンヨウネコブセンチュウの増殖性.	日線虫誌 36(2): 101-102. (講要)
立石 靖・佐野善一・岩堀英晶	2007	<i>Pasteuria penetrans</i> を施用したサツマイモ栽培体系におけるネコブセンチュウ害抑制効果の発現.	日線虫誌 37(1): 1-9.
Tateishi, Y., Sano, Z., Iwahori, H., Uesugi, K., Katsura, M. and Gau, M.	2008	Suppression of root-knot nematode damage to succeeding sweet potato by summer-sown cultivation of an oat variety, "Tachiibuki".	Jap. J. Nematol. 38(1): 1-7.
Tateishi, Y.	2009	Suppression of root-knot nematode damage to sweetpotato by preceding fall cropping of oat variety "Tachiibuki".	Sweetpotato Res. Front 22: 4.
立石 靖	2009	サツマイモを加害する線虫.	いも類振興情報 98: 27-31.
照屋林宏	1966	沖縄におけるサツマイモネコブセンチュウ ( <i>Meloidogyne incognita</i> Kofoid et White) の寄主植物の種類.	沖縄農業 5(1): 52-57.
鳥越博明	1996	南九州のサトイモおよびサツマイモ栽培圃場における数種対抗植物の線虫密度復抑制効果の検討.	九州病虫研報 42: 83-88.
上田康郎・渡邊 健	1997	線虫対抗植物等の輪作および生態的手法によるかんしょのネコブセンチュウ対策.	茨城農総セ農研研報 4: 27-38.
上田康郎	1995	サツマイモのネコブセンチュウ防除の現状と展望.	日線虫誌 25(2): 106-112.
上田康郎	2010	“(2) センチュウ害とその防除.”, 3.病害虫・生理障害, III サツマイモの生産と普及, 「サツマイモ事典」(いも類振興会編).	いも類振興会, 東京, pp.191-193.
上田康郎	2014	“2 主なセンチュウ害と防除.”, 3節 病害虫・生理障害, VI章 焼きいも用サツマイモの栽培・管理と産地, 「焼きいも事典」(いも類振興会編).	いも類振興会, 東京, p.121.
上野徳男・宮原義雄	1967	DBCP剤のサツマイモの生育におよぼす影響.	九州病虫研報 13: 71-75.
上杉謙太・岩堀英晶・立石 靖	2008	ミナミネグサレセンチュウのサツマイモ品種における増殖性.	日線虫誌 38(1): 35-40.
Uesugi, K., Iwahori, H. and Tateishi, Y.	2010	Reproduction of <i>Pratylenchus coffeae</i> on sweetpotato cultivars	Sweetpotato Res. Front 24: 3.
脇部秀彦	1990	施設栽培におけるネコブセンチュウの総合制御.	九州病虫研報 36: 204-205. (講要)
山下正隆	2003	サツマイモの根系形成に及ぼすサツマイモネコブセンチュウの影響.	根の研究 12(3): 115-118.
彌富喜三	1952	甘藷の線虫と今後の研究.	農業技術研究 6(2): 42-43.
横尾多美男・阿部恭洋・大坪和昭	1959	サツマイモネコブセンチュウの生態に関する2,3の知見.	九州病虫研報 5: 74. (講要)
吉野 実・北山登喜男・草水 崇・野口純隆・福田幸雄	1965	甘藷の裂かい現象の原因究明に関する理論考察.	九州農業研究 27: 187-188.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
安藤光一・日暮規夫・武田英之・甲田暢男	1984	カンショの生育障害の発生と土壌の化学性.	千葉農試研報 25: 69-77.
藤田英介・東 孝行・上妻道紀	1999	カンショの塊根部異常症(内部黒変症)の原因究明と対策 第2報 症状の品種間差.	九州農業研究 61: 20.
藤田英介・上妻道紀・加治屋伸章・上村幸廣・鳥越博明・東 孝行・矢神純孝・和泉勝	2000	「さつまいも塊根内部黒変症」の発生経過と対策.	鹿児島農試研報 28: 13-21.
藤田時雄	1956	生育中における甘藷の塊根亀裂に関する研究.	三重大農学術報告 12:123-134.
福岡信之・増田大祐・池下洋一・金森友里	2009	サツマイモ‘高系14号’の内部褐変症の発生に関する組織形態的および生化学的要因の検討.	園学研 8(1): 47-53.
市 和人・軽部 稔・宝満正治・飯伏千鶴子	1983	青果用カンショの茎頂培養による塊根部異常症の消長に関する研究.	九州農業研究 45: 224.
猪野 誠・篠原茂幸・深見正信・武田英之・屋敷隆士	1986	カンショの立枯症状, かいよう症状等の異常症に対する白黒ダブルマルチの軽減効果.	千葉農試研報 27: 1-12.
祝迫親志	1955	前報“サツマイモの新しいウイルス病”に対する新知見.	日植病報 20(2-3): 102.(講要)
泉澤 直	2010	“1) 丸いも・皮脈・裂開.”, (4) 生理障害, 3 病虫害, 生理障害, III サツマイモの生産と普及, 「サツマイモ事典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, pp.197-198.
泉澤 直	2014	“(1) 丸いも・皮脈・裂開.”, 4 主な生理障害, 3節 病虫害・生理障害, VI章 焼きいも用サツマイモの栽培・管理と産地, 「焼きいも事典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, pp.124-125.
加治屋伸章・上村幸廣・東 孝行・矢神純孝・和泉勝一・藤田英介	1998	カンショの塊根部異常症(内部黒変症)の原因究明と対策 第1報 症状と発生の実態.	九州農業研究 60: 34.
柏木伸哉・露重美義・藤田英介・上妻道紀	2004	超早掘さつまいも皮目様症の発症要因と軽減対策 第1報 いもの肥大経過と発症時期.	九州農業研究 66: 38.
柏木伸哉・露重美義・藤田英介・上妻道紀	2004	超早掘さつまいも皮目様症の発症要因と軽減対策 第2報 発症要因と軽減対策.	九州農業研究 66: 39.
川城英夫・武田英之	1989	(40) サツマイモ皮目症(仮称)に関する研究 第1報 土壌水分と皮目症発生の関係.	日作関東支報 4: 99-100.(講要)
川城英夫・武田英之	1991	サツマイモ皮目症とその防止対策.	農及園 61(1): 51-55.
加勇田 誠・梶本 明・村社久米夫・江藤博六	1983	食用カンショの根部異常症対策について 第1報 種いも, 苗消毒, 土壌ならびに微量元素と症状の関係.	日作九州支報 50: 62-64.
加勇田 誠・長田龍太郎・村社久米夫・新村善弘・柿本茂満・江藤博六	1983	食用カンショの根部異常症対策について 第2報 茎頂培養苗使用の効果.	日作九州支報 50: 65-66.
黒田康文・岡田俊美・山本英記	1991	(19) 砂地畑におけるサツマイモのホウ素過剰症.	土肥要旨集 37: 337.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
黒田康文・岡田俊美・山本英記	1993	徳島県の砂地畑におけるサツマイモのホウ素過剰による葉縁褐変症.	徳島農試研報 29: 20-27.
美馬克美	1977	徳島県におけるカンショの亜鉛欠乏.	徳島農試研報 15: 15-19.
村井恒治・酒井勇夫・住友昭文	1997	サツマイモやけ症状の発生について.	四国植防研究 32: 60.(講要)
岡本 弘	1941	甘藷の水腐れに就いて.	日植病報 11(1): 15-18.
乙部逸夫・三苦功吉・上原登喜男・中野静思	1982	食用カンショ塊根部の異常症について第1報 横縞症(仮称)の発生要因の解明と防除対策.	九州農業研究 44: 43-44.
大塚恭司	1952	甘藷の生育と葉片に於ける二三の代謝一特に加里欠乏症に就て一.	農耕と園芸 7(11): 1251-1252.
小柳敦史・中谷 誠・渡辺 泰	1987	サツマイモ塊根裂開症の発症要因に関する研究.	日作紀 56(2): 190-197.
小柳敦史・中谷 誠・渡辺 泰	1988	カンショ塊根裂開症に関する研究.	農研セ研報 9: 33-53.
瀬戸口 勇・池田 敬・水谷朱美・村井恒治	2010	(28) 高カロテン症サツマイモ発生に対する水ストレスの関連性について.	日作関東支報 15: 64-65.(講要)
白坂 進・岩田岩保	1964	畑作物に対する除草剤の薬害に関する研究 第1報 甘藷の薬害発生に対する気温の影響.	日作九州支報 23: 56-57.
白坂 進・岩田岩保	1965	畑作物に対する除草剤の薬害に関する研究 第2報 スタム乳剤およびADBAの薬害が甘藷の生育収量に及ぼす影響.	日作九州支報 25: 4-5.
立石 博・矢野文夫・木村貞夫	1969	福江島における甘しょの立性症状について(第1報).	日作九州支報 32: 98-101.
立石 博・池永和夫・矢野文夫・木村貞夫	1971	甘しょの立性症状(仮称)について(第2報).	日作九州支報 35: 114.
鳥越博明	1994	サツマイモに発生した内部黒変症状の次代および接木苗での伝染性の検討.	日植病報 60(6): 739.(講要)
鳥越博明	1995	サツマイモに発生した内部黒変症状の次代及び接木苗での伝染性の検討.	九州農業研究 57: 94.
白坂 道・岩田岩保	1967	畑作物に対する除草剤の薬害に関する研究 第3報 DCPAの薬害に対する甘しょの品種間差異.	日作九州支報 29: 39-42.
渡邊 健	2010	“(2) 内部褐変症.”, (4) 生理障害, 3 病虫害, 生理障害, III サツマイモの生産と普及, 「サツマイモ事典」(いも類振興会編).	いも類振興会, 東京, p.198.
渡邊 健	2014	“(2) 内部褐変症(別名:心腐病).”, 4 主な生理障害, 3節 病虫害・生理障害, VI章 焼きいも用サツマイモの栽培・管理と産地, 「焼きいも事典」(いも類振興会編).	いも類振興会, 東京, p.125.
渡辺 泰	2004	“塊茎異常症.”, 問題となっている障害, 当面する技術課題, サツマイモ, 「野菜園芸大百科 12 サツマイモ・ジャガイモ第2版」(農文協 編),	農文教, 東京, pp.249-253.
山本重雄・岩田唯孝	1962	甘藷萎縮病の病徴発現に及ぼす温度の影響について.	九州病虫研報 8: 81.(講要)
山本重雄	1967	サツマイモ萎縮病が寄主植物に及ぼす影響.	日植病報 33(5): 322.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
吉井 甫	1953	サツマイモの萎縮病 (所謂モザイク病) の伝染性について.	日植病報 18(1-2): 61.(講要)
吉井 甫	1960	サツマイモの萎縮病について. [会長講演]	日植病報 25(2): 71-74.(講要)

#### 660 害虫 (防除を含む)

(いも類振興会)	2009	[特集]サツマイモと虫たち.	いも類振興情報 98: 3.
石川元一	1987	“サツマイモ [害虫]”, 原色野菜病虫害百科 5(農文協編)	農文教, 東京, pp.391-412.
持田 作	2009	サツマイモとそれを巡る虫たち.	いも類振興情報 98: 4-10.

#### 661 ゾウムシ類

青木智佐・新見はるか・松山隆志・金城邦夫・熊野了州	2013	サツマイモの大害虫イモゾウムシの根絶をめざして 根絶防除事業と原虫病.	化学と生物 51(7): 500-506.
荒川賢良・佐々木幹了・池田常稔・永山才朗	2006	奄美大島におけるイモゾウムシの発生消長.	植防研報 42: 39-41.
荒巻弥弘・吉国 隆・田代 好	1987	奄美群島におけるアリモドキゾウムシ及びイモゾウムシの生態調査 -産卵状況について-	植物研報 23: 67-69.
荒巻弥弘	1989	アリモドキゾウムシの生態に関する調査 -放射線利用のための基礎調査-	九州植物防疫 504: 3.
安里清景	1948	沖縄地方に於ける甘藷重要害虫.	沖縄農業 (與儀農事試) 2(6):
安里清景	1950	甘藷の新病害イモゾウムシに就いて.	国頭農報 2(8): 5-11.
馬場興市・米田雅典	2000	イモゾウムシ成虫の後胸腹板上鱗片群の形態的特徴の雌雄間差について.	応動昆 44(1): 54-56.
筑木秀毅・横山 亨・菊川華織・川合崇之・板尾正俊	2009	アリモドキゾウムシ ( <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius)) へのルビジウム (Rb) によるマーキング法の検討.	九州病虫研報 55: 196-197. (講要)
Ekanayakei, H.M.R.K., Abeyasinghei, A.M.C.P. and Toide, Y.	2001	Potential of entomopathogenic nematodes as bio-control agents of sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (FABRICIUS) (Coleoptera: Brentidae).	Jap. J. Nematol. 31(1-2): 19-25.
藤川和博・末永 博	2005	成虫照射と蛹照射によるアリモドキゾウムシ不妊化虫の虫質比較.	九州病虫研報 51: 105. (講要)
藤本健二・平田建彦・松岡拓穂	2000	近年におけるゾウムシ類 の緊急防除(2) 高知県室戸市.	植物防疫 54(11): 453-454.
福田 計	1933	甘藷害蟲に関する調査報告 (一) ありもどきぞうむし.	台湾総督府中央研究所農業部報告 62: 1-35.
具志堅千尋・小濱継雄・城本啓子・熊野了州・栗和田隆	2010	体内マーキングによるアリモドキゾウムシの交尾行動および分散能力への影響.	九州病虫研報 56: 120-121.. (講要)
羽生道則	1994	アリモドキゾウムシ山川町に発生.	九州植物防疫 535: 1-2.
原口 大・小濱継雄・仲本 寛・山岸正明・鈴木優子・上里卓己・村上昭人・祖慶良尚	2003	(B101) 久米島におけるイモゾウムシの発生状況と寄主植物の分布について.	応動昆大会講要 47: 19. (講要)
原口 大・安藤緑樹・宇久田理恵・小濱継雄・永山敦土・山下伸夫・栗和田隆・宮竹貴久	2014	野外における UV-LED を用いたイモゾウムシ光トラップの有効性の検討.	九州病虫研報 60: 106. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
原口 大・鶴井香織・熊野了州・金城邦夫	2017	(A213) 不妊虫放飼法にX線照射は利用可能か ～アリモドキゾウムシ不妊化の検討～.	応動昆大会講要 61(講要)
春田伝一	1951	口永良部島におけるアリモドキゾウムシの防除について.	植物防疫 7(10): 371-
春田伝一	1959	奄美群島におけるアリモドキゾウムシ防除の経過.	植物防疫 13(1): 11-
林 義則・吉田 隆・木場文博・山下文男・伊藤俊介	1994	アリモドキゾウムシ <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) 蛹の低線量 $\gamma$ 線照射による不妊化について II. 最適な照射条件の検討.	植防研報 30: 111-114.
林 義則・米国雅典・徳永太蔵	1997	野外条件下におけるアリモドキゾウムシ不妊化成虫の生存数及び蛍光色素マークの検出率.	植防研報 33: 65-70.
林川修二	2003	(B104) 喜界島のアリモドキゾウムシ根絶事業における不妊虫の生産と放飼 I. アリモドキゾウムシの生産歩留まりが虫質へ及ぼす影響.	応動昆大会講要 47: 20.(講要)
林川修二	2005	奄美群島におけるアリモドキゾウムシの発生と防除.	今月の農業 49(9): 35-39.
日高直哉・菊川華織・川武恵梨子・小橋川嘉一・山本卓司・武石浩紀	2018	沖縄産及び小笠原産アリモドキゾウムシ <i>Cylas formicarius</i> (Coleoptera: Brentidae)の交尾・飛翔能力の比較.	植防研報 54: 55-59.
樋口康一・時村金愛・藤川和博・大藪正史・里島伸司・末永 博	2005	アリモドキゾウムシ根絶事業における喜界島本格防除に向けた事前調査.	九州病虫研報 51: 106.(講要)
日室千尋・池川雄亮・本間 淳	2018	イモゾウムシの雄は射精物を用いて雌の再交尾を抑制する.	九州病虫研報 64: 93.(講要)
Himuro, C., Kumano, N., Honma, A., Ikegawa, Y. and Ohishi, T.	2018	Appropriate number of inoculated eggs for mass-rearing the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Coleoptera: Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 53(1): 157-164.
日室千尋・池川雄亮・本間 淳	2021	(C111) とても奇妙なイモゾウムシ雌の交尾間隔のクセ.	応動昆大会講要 65: 3.(講要)
平松 正・伊藤俊介	1992	成虫寿命, 雌の生殖能力と次世代発育および性比 アリモドキゾウムシの根絶に向けて. (アリモドキゾウムシ萌究会 編)	鹿児島農試大島支場, 名瀬市, pp.43-49.
平松 正	1996	アリモドキゾウムシ高知県室戸市に発生.	神戸植物防疫情報 916: 6.
平田健彦	1999	室戸市における特殊害虫アリモドキゾウムシの根絶対策.	高知県農業改良普及協会「くらしと農業」13(3): 21-23.
Hiroyoshi, S., Moriya, S. and Shimoji, Y.	1996	A method for sexing aged individuals of the West Indian sweetpotato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 31(2): 311-313.
Hiroyoshi, S. and S. Moriya	1999	Effects of aging and temperature on the male's reproductive development of the West Indian sweetpotato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae).	Entomol. Sci. 2(2): 165-171.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Hiroyoshi, S. and Moriya, S.	2001	Effects of adult temperature on male mating success in the West Indian sweetpotato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Coleoptera : Curculionidae) .	Entomol. Sci. 4(3): 265-269.
Hosokawa, T. and Fukatsu, T.	2010	Nardonella endosymbiont in the West Indian sweet potato weevil <i>Euscepes postfasciatus</i> (Coleoptera: Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 45(1): 115-120.
市瀬克也・安田慶次・Gadi, M.V.P. Reddy	2018	イモゾウムシ移動分散における雌雄間差と季節の影響.	九州病虫研報 64: 93. (講要)
市瀬克也・吉田睦浩	2018	アリモドキゾウムシ, イモゾウムシに高病原性の <i>Steinernema</i> および <i>Heterorhabditis</i> 属線虫種.	九州病虫研報 65: 120. (講要)
井上栄明・上門隆洋	1992	昆虫寄生性線虫 <i>Steinernema carpocapsae</i> のアリモドキゾウムシに対する殺虫性.	九州農業研究 54: 116.
井上 亨	1960	アリモドキゾウムシと防除の現況.	植物防疫 14(12): 522-526.
伊禮優子・久場洋之・松山隆志	2003	(F221) アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシのイモ塊根内における交尾.	応動昆大会講要 47: 98. (講要)
伊藤俊介・永山才朗・後藤誠太郎・浜砂武久・東 正裕	1991	アリモドキゾウムシ <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) 成虫の $\gamma$ 線照射による不妊化について -成虫寿命, 交尾能力, 内部生殖器官および次世代数への影響-	植防研報 27: 69-73.
伊藤俊介・東 正裕・吉田 隆・永山才朗・亀田尚司・徳永太蔵・押川幹夫・前田 力	1993	アリモドキゾウムシ <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) 蛹の低線量 $\gamma$ 線照射による不妊化について-妊性, 性的競争力, 生存率, および奇形の発生に与える照射の影響-	植防研報 29: 45-48.
伊藤俊介・末吉澄隆・林 義則・中村伸一・山下文男・宮後 優	1999	鹿児島市におけるアリモドキゾウムシの発生と防除.	植防研報 35: 35-42.
岩元順二・伊藤俊介・真野勝・山崎英明	1990	アリモドキゾウムシ蛹の $\gamma$ 綿照射による不妊化について 成虫の妊性, 寿命および交尾能力に与える照射の影響.	植防研報 26: 69-72.
岩元順二・荒巻弥弘	1990	ガンマ線照射によるアリモドキゾウムシの不妊化.	横物防疫 44(3): 124-126.
岩田雅顕・島袋智志・牧口 寛・石川昭彦・安田慶次	1994	イモゾウムシ成虫の羽化および生理的状态.	植防研報 30: 83-86.
鹿児島県農政部食の安全推進課・農林水産省門司植物防疫所	2004	屋久島におけるゾウムシ2種の緊急防除と根絶.	植物防疫 58(10): 28.
垣花廣幸・小濱継雄・久場洋之・仲本 寛・祖慶良尚・山岸正明	1996	不妊虫放飼法のための放射線によるイモゾウムシの不妊化技術開発.	放射線と産業 71: 42-44.
加来健治・米関雅典・吉村仁志・伊藤 登	1999	アリモドキゾウムシ雌雄成虫の移動行動について.	植防研報 35: 81-82.
上 忠衛	1964	鹿児島県西之表市におけるアリモドキゾウムシの防除について.	植物防疫 18(5): 197-200.



著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
上門隆洋・瀬戸口 脩	1990	アリモドキゾウムシ室内飼育法の検討 II. 成虫寄生菌 <i>Beauveria bassiana</i> の蔓延防止対策.	九州病虫研報 36: 203-204. (講要)
上門隆洋・瀬戸口脩・前田 力	1993	サツマイモによるアリモドキゾウムシの大量飼育法.	鹿児島農試研報 21: 11-22.
上門隆洋・西岡稔彦	1994	アリモドキゾウムシ. 鹿児島県植物防疫のあゆみ - 植物防疫協会 30周年記念誌一.	鹿児島県植物防疫協会, 鹿児島, pp.139-141.
上室 剛・下津文宏・里島伸司・上福元 彰	2009	成虫照射したアリモドキゾウムシ雄とペア飼育した雌の交尾・産卵行動.	九州病虫研報 55: 126-131.
上室 剛・澁川 洋・里島伸司・上福元 彰	2010	アリモドキゾウムシの成虫照射後における性的競争力の経時変化.	九州病虫研報 56: 120. (講要)
上室 剛・下津文宏・里島伸司・上福元 彰	2013	局所施用による薬剤感受性検定におけるアリモドキゾウムシの麻酔方法と fenitrothion に対する感受性.	応動昆 57(2): 95-99.
Kandori, I., Kimura, T., Tsumuki, H. and Sugimoto, T.	2006	Cold tolerance of the sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae), from the Southwestern Islands of Japan.	Appl. Ent. Zool. 41(2): 217-226.
金田昌士・米田雅典・小林貴芳・水野孝彦・正木征樹	2003	ゲンバイヒルガオ群落におけるイモゾウムシの空間分布様式.	植防研報 39: 49-52.
Katsuki, M., Y. Omae, K. Okada, T. Kamura, T. Matsuyama, D. Haraguchi, T. Kohama and T. Miyatake	2012	Ultraviolet lightemitting diode (UV LED) trap the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Coleoptera: Curculionidae). Appl.Entomol. Zool. 47:285-290.	Appl. Ent. Zool. 47(3): 285-290.
川原俊秀・藤本健二・小林達男・高橋尚之・北村 豊・中石一英	1999	高知県室戸市におけるアリモドキゾウムシの根絶.	四国植防研究 34: 106. (講要)
Kawamura, K., Sugimoto, T., Matsuda, Y. and Toyoda, H.	2002	Detection of polymorphic patterns of genomic DNA amplified by RAPD-PCR in sweet potato weevils, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae).	Appl. Ent. Zool. 37(4): 645-648.
川村清久・豊田秀吉・杉本 毅	2003	PAPD-PCR法によるDNA多型をもとにしたアリモドキゾウムシの分類.	近畿大農紀要 36: 13-20.
川村清久・香取郁夫・櫻谷保之・松田克礼・豊田秀吉・杉本 毅	2003	(D301) アリモドキゾウムシの個体群構成における地理的変異の解析 5.	応動昆大会講要 47: 65. (講要)
Kawamura, K., Katori, I., Sakuratani, Y. and Sugimoto, T.	2005	On elytral color dimorphism of sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius), in the Southwest islands, Japan	Mem. Fac. Agr. Kinki Univ. 38: 1-7.
Kawamura, K., Sugimoto, T., Kakutani, K., Matsuda, Y. and Toyoda, H.	2007	Genetic variation of sweet potato weevils, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae), in main infested areas in the world based upon the internal transcribed spacer-1 (ITS-1) region.	Appl. Ent. Zool. 42(1): 89-96.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Kawamura, K., Sugimoto, T., Matsuda, Y. and Toyoda, H.	2007	A convenient estimation of the sources of sweet potato weevils, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae), in recently invaded areas in Japan, by random amplified polymorphic DNA technique.	Appl. Ent. Zool. 42(2): 297-303.
Kawamura, K., Ohno, S., Haraguchi, D., Kawashima, S. and Kohama, T.	2009	Geographic variation of elytral color in the sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae), in Japan.	Appl. Ent. Zool. 44(4): 505-513.
川村清久・大野 豪・原口 大・小濱継雄	2009	PCR-RFLP法によるアリモドキゾウムシの沖縄系統と小笠原系統の識別.	応動昆 53(2): 60-63.
川島俊次・樋口康一・徳永太蔵・上福元 彰	2009	鹿児島県喜界島第1防除地区におけるアリモドキゾウムシの不妊虫放飼による防除.	九州病虫研報 55: 195. (講要)
川添幸治・瀬戸口 脩・中川耕人	1993	性フェロモン剤と薬剤を組み合わせたアリモドキゾウムシの防除効果.	九州病虫研報 39: 85-87.
菊川華織・新垣さつき・宮崎 勲・安達浩之・石毛康博	2019	トラップ内で劣化したアリモドキゾウムシ <i>Cylas formicarius</i> (Coleoptera: Brentidae) 虫体からのDNA検出.	植防研報 55: 67-72.
木村秀徳・官後 優	1991	アリモドキゾウムシ種子島に発生.	九州植物防疫 512: 2.
木村貴志・吉田睦浩	2017	昆虫病原性線虫 <i>Heterorhabditis indica</i> の共生細菌における相変異制御スイッチ領域の塩基配列解析.	九州病虫研報 63: 114. (講要)
Kinjo, K., Ito, Y. and Higa, Y.	1995	Estimation of population density, survival and dispersal rates of the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> Fairmaire (Coleoptera: Curculionidae), with mark and recapture methods.	Appl. Ent. Zool. 30(2): 313-316.
金城美沙・大石 毅・日室千尋・本間 淳	2018	イモゾウムシ人工飼料の保存期間に関する試験.	九州病虫研報 64: 94. (講要)
金城美沙・日室千尋・本間 淳・大石 毅	2018	(A211) イモゾウムシ人工飼料の保存期間に関する試験.	応動昆大会講要 62(講要)
小林宏義	1960	奄美群島におけるアリモドキゾウムシの発生消長.	九州植物防疫 197: 1- 2.
高知県農業改良普及協会	1999	特殊害虫アリモドキゾウムシの根絶作戦.	高知県農業改良普及協会「くらしと農業」13(3) : 20-47.
小濱継雄	1990	沖縄におけるアリモドキゾウムシ及びイモゾウムシの侵入の経過と現状.	植物防疫 44(3): 115-117.
Kohama, T. and Shimoji, Y.	1998	Reproductive maturity of the female West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera : Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 33(1): 1-4.
小濱継雄	1999	アリモドキゾウムシのモニタリングに用いる性フェロモントラップの改良.	沖縄農業 34(1): 30-33.
Kohama, T. and Sugiyama, M.	2000	External characteristics for sexing in the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae).	Entomol. Sci. 3(1): 43-45.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
小濱継雄・山岸正明 ・村上昭人・上里卓巳 ・鈴木優子・原口 大 ・仲本 寛・祖慶良尚	2003	(B103) 不妊虫放飼法による久米島のアリ モドキゾウムシ根絶防除の現状.	応動昆大会講要 47: 19.(講 要)
小濱継雄・久場洋之	2008	“性フェロモンと不妊虫放飼法の組み合 わせによるアリモドキゾウムシの根絶 - 沖縄県久米島における防除の現状と課 題-”. 不妊虫放飼法 侵入害虫根絶の 技術 (伊藤嘉昭 編).	海遊舎, 東京, pp.277-316.
小濱継雄・宮里千尋・ 松山隆志	2009	交信攪乱法によるアリモドキゾウムシの交 尾阻害効果.	九州病虫研報 55: 197.(講要)
小濱継雄	2010	“ウ アリモドキゾウムシ・イモゾウムシ.”, 2) いもの害虫, (3) 害虫とその防除, 3 病 虫害, 生理障害, III サツマイモの生産と 普及, 「サツマイモ事典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, p.196.
小濱継雄・具志堅千 尋・松山隆志	2014	交信攪乱によるアリモドキゾウムシの交尾 阻害.	九州病虫研報 60: 106.(講要)
小濱継雄	2014	“アリモドキゾウムシ・イモゾウムシ.”, (2) いもの害虫, 3 主な害虫と防除, 3節 病 虫害・生理障害, VI章 焼きいも用サツマ イモの栽培・管理と産地, 「焼きいも事 典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, pp.123- 124.
小山重郎	2016	南西諸島における甘藷害虫ゾウムシ類の 防除.	南島文化(沖縄国際大) 38: 76-87.
久場洋之・照屋 匡・榊 原充隆	2000	不妊虫放飼法によるゾウムシ類の根絶 (9) 久米島における根絶実証事業.	植物防疫 54(11): 483-486.
久場洋之・松山隆志・ 浦崎貴美子・伊禮優 子	2003	(B103) 水納島におけるBB剤を用いたア リモドキゾウムシの防除.	応動昆大会講要 47: 19.(講 要)
熊野了州・原口 大・小 濱継雄	2008	(S032) 萎えない萌える不妊オスを目指し て! : 低線量照射によるアリモドキゾウム シ不完全不妊虫放飼の検討(血と汗と涙 の不妊虫放飼法:不妊虫放飼の現状と 展望).	応動昆大会講要 52: 200.(講 要)
Kumano, N., Kuriwada, T., Shiromoto, K. and Haraguchi, D.	2011	Intensive resistance by females before copulation induces insemination failure in the West Indian sweet potato weevil <i>Euscepes postfasciatus</i> .	Population Ecology 53(1) : 111- 117.
Kumano, N., Kuriwada, T., Shiromoto, K. and Haraguchi, D.	2012	Effect of low temperature between fractionated-dose irradiation doses on mating of the West Indian sweetpotato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Coleoptera: Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 47(1): 45-53.
熊野了州	2014	サツマイモ害虫イモゾウムシの不妊虫放 飼法による根絶に向けた近年の研究の 展開.	応動昆 58(3): 217-236.
熊野了州	2016	ゾウムシ類におけるオスの性的能力に注 目した不妊化技術.	植物防疫 69(6): 381-385.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Kumano, N., Haraguchi, D. and Tsurui-Sato, K.	2018	Effects of X-ray irradiation on male sperm transfer ability and fertility in the sweetpotato weevils <i>Euscepes postfasciatus</i> (Coleoptera: Curculionidae) and <i>Cylas formicarius</i> (Coleoptera: Brentidae).	Appl. Ent. Zool. 53(4): 485-492.
栗和田 隆・熊野了州・城本啓子・原口 大	2011	イモゾウムシを人工飼料から簡便に回収する方法.	応動昆 55(1): 22-24.
栗和田 隆・熊野了州・城本啓子・原口 大	2011	成虫用人工飼料がイモゾウムシの蔵卵数と交尾能力に与える影響.	応動昆 55(1): 27-29.
Kuriwada, T., Kumano, N., Shiromoto, K., Haraguchi, D. and Kohama, T.	2012	Suppressing effect of gamma-irradiated weevils on progeny production in the West Indian sweetpotato weevil <i>Euscepes postfasciatus</i> (Coleoptera: Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 47(4): 437-442.
栗和田 隆	2012	異性との出会いが少ないイモゾウムシは近親交配で子孫を残す.	九州病虫研報 60: 132.(講要)
栗和田 隆	2013	サツマイモの特殊害虫アリモドキゾウムシの根絶に関する最近の研究展開.	応動昆 57(1): 1-10.
栗和田 隆	2015	長期累代飼育にともなうアリモドキゾウムシの家畜化の進行.	植物防疫 69(6): 377-380.
桑原浩和・羽生道則・永島田義則・上和田秀美	1995	鹿児島県山川町におけるアリモドキゾウムシの発見と防除経過.	九州病虫研報 41: 132.(講要)
桑原浩和・羽生道則・吉元彰治	1996	鹿児島県山川町に侵入したアリモドキゾウムシの発生と根絶の経緯.	九州病虫研報 42: 161.(講要)
桑原浩和	1996	鹿児島県本土山川町に侵入したアリモドキゾウムシの発生と根絶の経緯.	今月の農業 40(1): 38-44.
桑名伊之吉	1928	甘藷の大害虫アリモドキ象虫に就き.	大日本農會報 571: 10-16.
前原重信	1993	屋久島でイモゾウムシとアリモドキゾウムシが発生 一発見は農家からの通報による.	九州植物防疫 555: 2.
前原重信	1997	アリモドキゾウムシ鹿児島市で発生.	九州植物防疫 553: 2.
正木征樹・桃原 健・小林貴芳・米田雅典・金田昌士	2002	沖縄本島におけるアリモドキゾウムシとイモゾウムシの野生寄主植物上での発生消長.	植防研報 38: 33-38.
正木征樹・水野孝彦・桃原 健・佐々木幹了・小林貴芳・金田昌士	2002	沖縄本島と石垣島の山岳部におけるアリモドキゾウムシとイモゾウムシの標高別発生調査.	植防研報 38: 39-43.
正木征樹・桃原 健・小林貴芳・田 昌士	2002	沖縄本島のノアサガオマント群落内におけるイモゾウムシ及びアリモドキゾウムシの垂直分布調査.	植防研報 38: 91-93.
松山隆志・照屋清仁・佐渡山安常・本間 淳	2016	(C206) アリモドキゾウムシはやっぱり海を越えていた！ー津堅島におけるアリモドキゾウムシ根絶防除事業ー.	昆虫学会大会(76回)・応動昆大会(60回)合同大会講要.
宮路克彦・田中丈雄	1998	奄美群島におけるアリモドキゾウムシおよびイモゾウムシの発生拡大.	九州病虫研報 44: 88-92.
宮路克彦	2000	羽化脱出後の給餌がアリモドキゾウムシ不妊虫の寿命に与える影響.	九州病虫研報 46: 166.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
宮路克彦・西原 悟・原洋一・徳永太蔵・鳩野哲也・上門隆洋・伊藤俊介・岩元順二・荒巻弥弘・金城邦夫・祖慶良尚	2000	不妊虫放飼法によるゾウムシ類の根絶(6) アリモドキゾウムシの大量増殖・不妊化・マーキング・輸送・放飼.	植物防疫 54(11): 472-475.
宮路克彦	2009	アリモドキゾウムシに対する浸透移行性殺虫剤の防除効果.	九州病虫研報 55: 196. (講要)
宮路克彦	2014	奄美群島におけるアリモドキゾウムシおよびイモゾウムシの分布(2010-2011年).	九州病虫研報 60: 68-74.
宮竹貴久・川崎建次郎・守屋成一・小濱継雄・下地幸夫・岸田光史	1997	野外分散試験より得たアリモドキゾウムシ個体群パラメーターと気温の関係.	九州病虫研報 43: 142-143. (講要)
Miyatake, T., Kohama, T., Shimoji, Y., Kawasaki, K., Moriya, S., Kishita, M. and Yamamura, K.	2000	Dispersal of released male sweetpotato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Coleoptera: Brentidae) in different seasons.	Appl. Ent. Zool. 35(4): 441-449.
宮崎 勲・岩田雅顕・正木征樹・金田昌士	2001	アリモドキゾウムシ及びイモゾウムシの寄主植物調査.	植防研報 37: 75-79.
宮里千尋・小濱継雄・松山隆志	2009	アリモドキゾウムシ成虫の体内マーキング法の検討.	九州病虫研報 55: 196. (講要)
桃原 健・金田昌士・島袋智志	1999	サツマイモ害虫3種の野生寄主植物上での発生状況調査.	植防研報 35: 83-86.
森本 桂	1999	サツマイモを加害するゾウムシ類の見分け方.	高知県農業改良普及協会「くらしと農業」13(3): 39-42.
森本 然・立田晴記・辻和希・熊野了州・鶴井香織	2016	(F411) 戦略的究イモゾウムシのメス不妊虫は不妊虫放飼法に貢献するか?	昆虫学会大会(76回)・応動昆虫大会(60回)合同大会講要.
森田千尋・青木智佐・原口 大・小濱継雄・飯山和弘・清水 進	2007	イモゾウムシ <i>Euscepes postfasciatus</i> から分離された <i>Farinocystis</i> 様原虫について.	Entomotech 31: 17-19.
森田千尋・原口 大・飯山和弘・青木智佐・清水 進	2009	PCR を用いたイモゾウムシ病原性 <i>Farinocystis</i> 様原虫の検出.	Entomotech 33: 27-30.
守屋成一	1994	光電スイッチによるアリモドキゾウムシ・イモゾウムシ活動量の計測(予報).	九州病虫研報 40: 111-112.
守屋成一	1995	イモゾウムシ, アリモドキゾウムシの根絶は可能かー根絶防除計画の現状ー.	沖縄農業 30(1): 65-71.
Moriya, S.	1995	A preliminary study on the flight ability of the sweetpotato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Apionidae) using a flight mill.	Appl. Ent. Zool. 30(1): 244-246.
Moriya, S.	1997	Is it possible to eradicate two weevil pests of sweet potato, <i>Cylas formicarius</i> and <i>Euscepes postfasciatus</i> from Japan?	Bull. Okinawa Agric. Exp. Sta. 18: 19-27.
守屋成一・清水 徹	1997	イモゾウムシ・アリモドキゾウムシの歩行量と放射線照射の影響.	九州病虫研報 43: 142. (講要)
守屋成一	1997	イモゾウムシ・アリモドキゾウムシ成虫の歩行・飛翔能力の計測.	今月の農業 9: 60-65.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
守屋成一・宮竹貴久	2000	不妊虫放飼法によるゾウムシ類の根絶 (2) 移動分散.	植物防疫 54(11): 459-462.
Moriya, S. and Miyatake, T.	2001	Eradication programs of two sweetpotato pests, <i>Cylas formicilis</i> and <i>Euscepes postfasciatus</i> , in Japan with special reference to their dispersal ability.	JARQ 35: 227-234.
舞木紀玲・小濱継雄・ 松山隆志・河野伸二	2007	アリモドキゾウムシへのタンパク質マーキ ングの試み.	九州病虫研報 53: 50-55.
村上昭人・小濱継雄・ 祖慶良尚・山岸正明	2002	アリモドキゾウムシのサツマイモ飼育 1. 飼育容器内湿度が生育に及ぼす影響.	九州病虫研報 48: 104. (講要)
永井久雄	1965	アリモドキゾウムシ本土に侵入.	九州植物防疫 260: 1-2.
永山才朗	1993	アリモドキゾウムシの発育に及ぼす温度 の影響.	九州植物防疫 526: 2-3.
中川耕人・原 洋一・田 中丈雄	1996	アリモドキゾウムシ大量増殖における成 虫飼育密度の検討.	九州病虫研報 42: 161-162.. (講要)
仲本 寛・澤岨 淳	2001	イモゾウムシの走光性と野外条件下にお けるケミカルライトの誘引効果.	応動昆 45(4): 212-214.
仲本 寛・澤岨 淳	2002	イモゾウムシ用LEDトラップの開発.	応動昆 46(3): 145-151.
Nakamoto, Y. and Kuba, H.	2004	The effectiveness of a green light emitting diode (LED) trap at capturing the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae) in a sweet potato field.	Appl. Ent. Zool. 39(3): 491-495.
中村隆文・大野 豪・浦 崎貴美子・原口 大・小 濱継雄	2011	採卵用人工飼料に混合する植物粉末の 種類と飼料調製法がイモゾウムシの産卵 に及ぼす影響.	応動昆 55(1): 1-8.
中須和俊	1978	植物防疫法施行規則の一部改正 ー口 永良部島をアリモドキゾウムシの発生地 域から解除ー.	九州植物防疫 417: 1
名和梅吉	1903	蟻形象蟲について.	昆虫世界 7: 327-330.
新見はるか・鶴田幸 成・青木智佐・原口 大・飯山和弘・清水 進	2011	イモゾウムシ病原性原虫の宿主幼虫個 体への接種と増殖.	Entomotech 35: 9-12.
新見はるか・青木智 佐・鶴田幸成・松山隆 志・飯山和弘・清水 進	2013	イモゾウムシ病原性 <i>Farinocystis</i> 原虫の 宿主範囲の調査.	Entomotech 37: 1-6.
西岡一也・西岡稔彦・ 福田 健・森田重則	2010	平成20年に鹿児島県指宿市で発生した イモゾウムシの防除状況について.	九州病虫研報 56: 121. (講要)
西岡一也・坂巻祥孝・ 中村孝久・山口卓宏	2014	鹿児島県指宿市に侵入したイモゾウムシ の定着に関する空間疫学ならびにリスク 要因分析.	応動昆 58(3): 237-247.
西岡稔彦・羽生道則	1996	鹿児島県中種子町におけるアリモドキ ゾウムシの発生と防除.	九州病虫研報 42: 168-169. (講要)
西岡稔彦・川崎修二・ 平岡俊三・上福元彰・ 桑原浩和・井手敏和・ 住吉澄隆・伊藤俊介	2000	近年におけるゾウムシ類の緊急防除 (1) 鹿児島県各地.	植物防疫 54(11): 448-452.
野島秀伸・嶽崎 研・楠 畑勇祐	2020	(虫害28)アリモドキコール粒剤を用いた アリモドキゾウムシに対する密度抑圧防 除効果.	99回研究発表会講演要旨(虫 害), p.10.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
農林水産省門司植物防疫所	2012	鹿児島県指宿市におけるイモゾウムシおよびアリモドキゾウムシの緊急防除と根絶.	植物防疫 66(6): 350-351.
大形 浩・横山秀樹	2002	アリモドキゾウムシ根絶 — 高知県室戸市 — .	神戸植物防疫情報 951: 2.
大原謙二・三島重治・坂本利貞・加来健治	2000	奄美大島におけるアリモドキゾウムシ及びイモゾウムシの分布.	植防研報 36: 67-70.
大石 毅・鶴井香織・照屋清仁	2016	人工飼料を用いたイモゾウムシ(コウチュウ目:ゾウムシ科)の大量増殖における原虫の発生状況.	応動昆 60(3): 131-137.
大石 毅・本間 淳・松山隆志	2017	(A214) 大量増殖中のアリモドキゾウムシの鞘翅の色は?	応動昆大会講要 61(講要)
大石 毅・本間 淳・日室千尋・照屋清仁	2018	人工飼料に添加するサツマイモ粉末がイモゾウムシ(コウチュウ目:ゾウムシ科)の生産と虫質に及ぼす影響.	応動昆 62(2): 123-126.
大石 毅・本間 淳・日室千尋・松山隆志・照屋清仁	2018	3種の寄主植物から採取されるイモゾウムシ野生オスの体サイズ.	九州病虫研報 64: 93.(講要)
岡田吉弘・吉田睦浩・境 哲文・市瀬克也	2016	(E409) イモゾウムシ誘引・忌避効果を有するサツマイモ系統と昆虫病原性線虫利用によるイモゾウムシ被害低減効果.	昆虫学会大会(76回)・応動昆大会(60回)合同大会講要.
大村克己	2000	ゾウムシ類の根絶の意義, 事業の展開.	植物防疫 54(11): 443.
大野 豪・佐々木智基・浦崎貴美子・小濱継雄	2004	エタノールによる卵表面処理がイモゾウムシの孵化後の生存・発育に及ぼす影響.	九州病虫研報 50: 40-43.
大野 豪・佐々木智基・小濱継雄	2005	イモゾウムシ卵のエタノール浸漬による人工飼料のバクテリア汚染抑制:卵をファーセララン水溶液とともに飼料に接種した場合.	九州病虫研報 51: 41-44.
大野 豪・佐々木智基・小濱継雄	2005	イモゾウムシ卵の保管中の明暗条件および保管後のファーセララン水溶液への浸漬が孵化に及ぼす影響.	九州病虫研報 51: 45-48.
大野 豪・佐々木智基・小濱継雄	2005	食塩水浮遊法によるイモゾウムシの死亡卵の除去.	応動昆 49(4): 255-258.
大野 豪・佐々木智基・中村隆文・原口 大・浦崎貴美子・小濱継雄	2006	メスピペットとメスシリンダーを用いたイモゾウムシ卵の簡易計数法.	応動昆 50(1): 51-56.
大野 豪・佐々木智基・小濱継雄	2006	卵を薄く広げる保管方法がイモゾウムシ卵の孵化に及びぼす影響.	九州病虫研報 52: 41-43.
大野 豪・原口 大・浦崎貴美子・小濱継雄	2006	サツマイモの大害虫イモゾウムシ — 久米島における発生生態と防除の現状.	昆虫と自然 41: 25-30.
大野 豪・小濱継雄	2007	食塩水に沈む卵の除去によるイモゾウムシ人工飼料の細菌汚染の低減.	九州病虫研報 53: 56-58.
大野 豪・佐々木智基・佐藤幸恵・浦崎貴美子・原口 大・小濱継雄	2008	イモゾウムシ卵のエタノールまたはホルマリンへの浸漬および2種消毒液の組み合わせ処理による人工飼料のバクテリア汚染抑制.	昆蟲(ニューシリーズ)11(4): 169-178.
大野 豪・浦崎貴美子・小濱継雄	2009	2段階の保管温度の組み合わせによるイモゾウムシの卵期間の調節.	九州病虫研報 55: 115-117.
大野 豪・浦崎貴美子・佐藤幸恵・原口 大・小濱継雄	2009	卵接種前の人工飼料の表面加工および卵接種後に飼料に置く吸収紙の種類がイモゾウムシの生存に及ぼす影響.	九州病虫研報 55: 118-125.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
大野 豪・浦崎貴美子・小濱継雄	2009	イモゾウムシ人工飼料への塩酸添加による飼料のバクテリア汚染抑制.	応動昆 53(3): 77-83.
大野 豪・佐々木智基・浦崎貴美子・小濱継雄	2009	卵接種前の人工飼料の粉碎加工によるイモゾウムシの生存率向上の試み.	応動昆 53(3): 105-107.
Ohno, S., Sasaki, T., Urasaki, K. and Kohama, T.	2009	Improvement of survival of the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Coleoptera: Curculionidae), by placing absorbent paper on the artificial diet after egg seeding and ensuring air permeability of the rearing tray.	Appl. Ent. Zool. 44(1): 13-22.
大藪正史・藤川和博	2005	アリモドキゾウムシ密度抑圧防除に用いた誘引殺虫剤の残効期間の検証.	九州病虫研報 51: 105-106. (講要)
栄 政文・嶋田治一・松田鋤男	1966	奄美群島における特殊害虫の発生と分布.	九州病虫研報 12: 52-54.
栄 政文	1968	奄美群島に発生する特殊病害虫: アリモドキゾウムシ.	鹿児島県農業試験場大島支場 65 周年記念誌. pp.27-48.
榊原充隆	2003	イモゾウムシの寿命及び産卵に及ぼす成虫用人工飼料の交換間隔の影響.	九州病虫研報 49: 106-110.
榊原充隆	2003	イモゾウムシ成虫用人工飼料の開発.	応動昆 47(2): 67-72.
榊原充隆	2004	未交尾のイモゾウムシ雌成虫の産卵.	九州病虫研報 50: 44-48.
坂之内踐行・伊藤俊介・末吉澄隆・山下文男・牛牧 昭・大原謙二	2002	鹿児島市におけるアリモドキゾウムシの突発発生場所の温度記録.	植防研報 38: 45-47.
櫻井宏紀・渡辺博幸・杉本 毅・櫻谷保之・瀬戸口 脩・川添幸治	1994	アリモドキゾウムシの配偶子形成に及ぼすガンマ線照射の影響.	岐阜大農研報 59: 11-20.
櫻井宏紀・土山康彦・和泉勝一・山口卓宏	1998	ガンマ線照射によるアリモドキゾウムシ雄の放射線不妊化機構の超微形態学的観察.	岐阜大農研報 63: 31-36.
櫻井宏紀・村上善紀・内村晴子・小濱継男・照屋 匡	2000	イモゾウムシの精子形成過程とガンマ線照射による不妊化機構に関する研究.	岐阜大農研報 65: 5-12.
櫻井宏紀・村上善紀・小濱継男・照屋 匡	2000	ガンマ線照射によるイモゾウムシ雌の不妊化機構に関する研究.	岐阜大農研報 65: 13-20.
櫻井宏紀	2000	不妊虫放飼法によるゾウムシ類の根絶(4) 不妊虫の生殖生理.	植物防疫 54(11): 466-468.
桜井宏紀・村上善紀・小濱継男・照屋 匡	2000	(A116) イモゾウムシの放射線不妊化機構と照射最適条件の組織学的検討(防除法・害虫管理・IPM).	応動昆大会講要 44: 6. (講要)
Sakuratani, Y., Sugimoto, T., Setokuchi, O., Kamikado, T., Kiritani, K. and Okada, T.	1994	Diurnal changes in micro-habitat usage and behavior of <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Curculionidae) adults.	Appl. Ent. Zool. 29(3): 307-315.
桜谷保之・杉本 毅・小濱継雄	2000	不妊虫放飼法によるゾウムシ類の根絶(1) 生活システム.	植物防疫 54(11): 455-458.
Sakuratani, Y., Nakao, K., Aoki, N. and Sugimoto, T.	2001	Effect of population density of <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae) on the progeny populations.	Appl. Ent. Zool. 36(1): 19-23.



著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
佐々木幹了・安達浩之・我謝徳光	2002	石垣島及び宮古島におけるアリモドキゾウムシとイモゾウムシの野生寄主上の発生生態.	植防研報 38: 81-85.
Satô, K., Uritani, I., Saito, T. and Honda, H.	1977	Isolation of the sweet potato weevil factor causing terpene induction in sweet potato roots.	Agric. Biol. Chem. 41(8): 1419-1423.
Sato, K., Uritani, I., Saito, T. and Honda, H.	1978	Factor causing terpene induction in sweet potato roots extracted from the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> Fairmaire (Coleoptera : Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 13(3): 227-228.
Satô, K., Uritani, I. and Saito, T.	1981	Characterization of the terpene-inducing factor isolated from the larvae of the sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> Fabricius (Coleoptera : Brentidae).	Appl. Ent. Zool. 16(2): 103-112.
Satô, K., Uritani, I. and Saito, T.	1982	Properties of terpene-inducing factor extracted from adults of the sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> Fabricius (Coleoptera : Brentidae).	Appl. Ent. Zool. 17(3): 368-374.
Sato, Y. and Kohama, T.	2007	Post-copulatory mounting behavior of the West Indian sweetpotato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae) .	Ethology 113(2): 183-189.
沢 四郎・水流照男	1959	アリモドキゾウムシ九州本土へ侵入の危険たかまる.	九州植物防疫 184: 1-2.
沢 四郎	1960	アリモドキゾウムシ種子島及び馬毛島に侵入.	九州植物防疫 193: 3-4.
瀬戸口 脩	1990	奄美群島におけるアリモドキゾウムシの発生生態と防除対策.	植物防疫 44(3): 111-114.
瀬戸口 脩・安出慶次	2000	不妊虫放飼法によるゾウムシ類の根絶(3) 個体群のモニタリング.	植物防疫 54(11): 463-465.
Setokuchi, O., Sugimoto, T., Yamaguchi, T., Izumi, S., Tokunaga, T., Kawasoe, K., Tanaka, T., Makino, N. and Sakuratani, Y.	2001	Efficiency of the sterile insect release method as an eradication measure for the sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae) in the field.	Appl. Ent. Zool. 36(1): 161-167.
瀬戸口 脩	2005	鹿児島県の特有害虫アリモドキゾウムシの防除技術確立 - 第60回農業技術功労者表彰受賞記 - .	農業技術 60(3): 99-102.
島袋智志・石川昭彦・岩田雅顕・坂口忠史・牧口 覚・勝又 肇	1997	さつまいもの蒸熱処理 アリモドキゾウムシ, イモゾウムシ, サツマイモノメイガの殺虫及びさつまいもの熱障害.	植防研報 33: 35-41.
嶋崎浩二・上室 剛・川島俊次・下津文宏・上福元 彰	2009	鹿児島県喜界島第2防除地区におけるアリモドキゾウムシ密度抑圧防除の効果.	九州病虫研報 55: 196. (講要)
Shimizu, T. and Moriya, S.	1996	Tracking the adult locomotion in the West Indian Sweetpotato Weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (FAIRMAIRE) (Coleoptera: Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 31(1): 181-184.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Shimizu, T. and Moriya, S.	1996	Flight time and flight age in the sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae).	Appl. Ent. Zool. 31(4): 575-580.
Shimizu, T. and Moriya, S.	1996	Daily locomotor activity in the Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae) and sweet potato weevil, <i>Cylasformicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae) monitored by an actograph system.	Appl. Ent. Zool. 31(4): 626-628.
Shimizu, Y., Haruno, N. and Yamagishi, M.	2007	Rearing the sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae) on an artificial diet developed for the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae)	Appl. Ent. Zool. 42(4): 525-531.
下地幸夫・小濱継雄	1994	イモゾウムシの産卵行動.	応動昆 38(1): 43-46.
Shimojo, Y. and Kohama, T.	1996	A simple method for collecting eggs of the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fabricius) (Coleoptera: Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 31(1): 37-42.
Shimoji, Y. and Kohama, T.	1996	An artificial larval diet for the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 31(1): 152-154.
Shimoji, Y., Sugiyama, M. and Kohama, T.	1999	Marking of the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera : Curculionidae) with Calco Oil Red dye I. Effect of dye added to the artificial larval diet on development of the weevils, yield of adults and long lasting internal coloration	Appl. Ent. Zool. 34(2): 231-234.
Shimoji, Y. and Yamagishi, M.	2002	Improvement of egg collection method in West Indian sweetpotato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae) by feeding on a smaller cubic piece of sweet potato root.	Appl. Ent. Zool. 37(2): 313-318.
下地幸夫	2003	イモゾウムシの卵接種が起因となる人工幼虫飼料汚染の防止.	沖縄農業 37(1): 57-60.
下地幸夫	2003	頭幅によって推定できる人工幼虫飼料で発育したイモゾウムシの幼虫齢期.	沖縄農業 37(1): 61-63.
Shimoji, Y. and Yamagishi, M.	2004	Reducing rearing cost and increasing survival rate of West Indian sweetpotato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae) on artificial larval diet.	Appl. Ent. Zool. 39(1): 41-47.
下地幸夫	2004	サツマイモの害虫イモゾウムシの人工飼育法.	沖縄県特殊病害虫特別防除事業特別研究報告 3: 1-73.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Shimoji, Y.	2011	Effect of temperature on the development of the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae) on an artificial diet.	Appl. Ent. Zool. 46: 51-54.
下津文宏・木崎優子・時村金愛・川島俊次・上室 剛・里島伸司・上福元 彰	2009	アリモドキゾウムシの大量増殖法の改良に向けた最適飼育密度および次世代成虫回収時期の検討.	九州病虫研報 55: 132-135.
下津文宏・木崎優子・里島伸司・上福元 彰	2009	大量増殖施設で累代飼育されたアリモドキゾウムシの活動性の低下.	九州病虫研報 55: 195. (講要)
下津文宏・川島俊次・上室 剛・上福元彰	2010	鹿児島県喜界島第1防除地区におけるアリモドキゾウムシ不妊虫放飼による防除効果.	九州病虫研報 56: 120. (講要)
塩川富三郎	1949	アリモドキ象虫の被害.	沖縄農業 (與儀農事試) 3(2):
城本啓子・川村清久・原口 大・松山 隆	2012	アリモドキゾウムシの色彩多型を用いたマーキング法: 不妊虫放飼法への利用.	植物防疫 66(6): 316-320.
末永 等・藤川和博	2003	不妊虫放飼によるアリモドキゾウムシの根絶.	放射線と産業 98: 4-9.
末永利夫・瀬戸口 脩・柴 清一	1987	奄美群島におけるアリモドキゾウムシおよびイモゾウムシの発生分布.	九州病虫研報 33: 116-118.
末吉澄隆	1998	鹿児島市のアリモドキゾウムシ根絶.	九州植物防疫 558: 1.
末吉澄隆	1998	下甕島 (鹿児島県) にアリモドキゾウムシ発生.	九州植物防疫 559: 5.
末吉澄隆	1999	種子島からアリモドキゾウムシ根絶さる一植物防疫法施行規則の一部改正一.	九州植物防疫 561: 1.
楢本孝行・松田耕平・田中道典	2015	オオバハマアサガオ <i>Stictocardia tiliifolia</i> がアリモドキゾウムシ <i>Cylas formicarius</i> の野生条件下における寄主植物であることについて.	植防研報 51: 23-25.
杉本 毅	1990	アリモドキゾウムシの生物学.	植物防疫 44(3): 107-110.
杉本 毅・桜谷保之	1992	不妊虫の性的競争力 アリモドキゾウムシの根絶に向けて. (アリモドキゾウムシ研究会編).	鹿児島農試大島支場, pp.181-184.
Sugimoto, T., Sakuratani, Y., Setokuchi O., Kamikado, T., Kiritani, K. and Okada, T.	1994	Using the mark-and-release method in the estimation of adult population of sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) in a sweet potato field.	Appl. Ent. Zool. 29(1): 11-19.
Sugimoto, T., Sakuratani, Y., Setokuchi, O., Kamikado, T., Kiritani, K. and Okada, T.	1994	Estimations of attractive area of pheromone traps and dispersal distance, of male adults of sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera, Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 29(3): 349-358.
Sugimoto, T., Sakuratani, Y., Setokuchi, O., Kawazoe, K., Kiritani, K. and Okada, T.	1994	Estimation of male adult population of sweet potato weevils, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera, Curculionidae) on Kikai Island in Japan.	Appl. Ent. Zool. 29(3): 359-367.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Sugimoto, T., Sakuratani, Y., Fukui, H., Kiritani, K., Okada, T.	1996	Estimating the reproductive properties of the sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera, Brentidae).	Appl. Ent. Zool. 31(3): 357-367.
杉本 毅	2000	2種のゾウムシ類の起源, 分散, 我が国への侵入.	植物防疫 54(11): 444-447.
杉本 毅・川村清久・香取郁夫	2007	アリモドキゾウムシの世界的拡散と我が国における定着可能地域の推定.	植物防疫 61(10): 565-570.
Sugiyama, M., Kohama, T. and Shimoji, Y.	1996	A method for sex discrimination in the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera: Curculionidae) at the pupal stage.	Appl. Ent. Zool. 31(1): 166-167.
Sugiyama, M., Shimoji, Y. and Kohama, T.	1996	Effectiveness of a newly designed sex pheromone trap for the sweetpotato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae).	Appl. Ent. Zool. 31(4): 547-550.
Sugiyama, M., Shimoji, Y. and Kohama, T.	1998	Marking of the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera : Curculionidae) with Calco Oil Red dye II. Effects of the dye on fecundity, longevity and sexual maturity.	Appl. Ent. Zool. 33(3): 375-378.
杉山巳次	1999	体色変化に基づくイモゾウムシの蛹の齢の識別法.	沖縄農業 34(1): 34-37.
祐成 忍・宮崎 勲・山本卓司・箕浦和重	2009	PCR-RFLPによるアリモドキゾウムシ <i>Cylas formicarius</i> (Coleoptera: Brentidae) のミトコンドリアDNAにおける遺伝的変異.	植防研報 45: 53-58.
春原正信	2007	喜界島におけるアリモドキゾウムシ根絶防除事業の進捗状況.	九州植物防疫 609: 1.
鈴木芳人・宮井俊一	2000	不妊虫放飼法によるゾウムシ類の根絶(5) 不完全不妊虫の利用 - 理論的アプローチ.	植物防疫 54(11): 469-471.
高良鉄雄	1961	琉球におけるサツマイモメイガ並びにイモゾウムシの伝播と防除.	植物防疫 8(10): 436-
高良鉄夫	1954	輸出農産物を脅かす害虫: イモゾウムシ.	普及叢書(琉球大学校外普及部) 4: 1-14.
高曽根 勉	1999	室戸市における特殊害虫アリモドキゾウムシの根絶対策.	高知県農業改良普及協会「くらしと農業」13(3): 31-34.
嶽崎 研・山口卓宏・吉松孝宏・小堀陽一・大澤剛士・内藤尚之	2017	(A215) 餌資源競合種イモゾウムシの繁殖干渉によるアリモドキゾウムシの防除.	応動昆大会講要 61(講要)
立田晴記	2012	イモゾウムシの発音変異と防除に向けた展望.	植物防疫 66(6): 310-315.
立田晴記・熊野了州・高梨琢磨	2016	(G415) イモゾウムシの発音器官特定と時間に見られる地理的変異.	昆虫学会大会(76回)・応動昆大会(60回)合同大会講要.
照屋清仁・熊野了州	2015	長期累代飼育がイモゾウムシの交尾能力に及ぼす影響.	応動昆 59(1): 17-22.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
照屋清仁・大石 毅・鶴井香織	2017	イモゾウムシ(コウチュウ目:ゾウムシ科)人工大量増殖系統の成虫回収方法の改良による原虫感染の軽減.	応動昆 61(1): 32-35.
鳥越博明・和泉勝一・山口卓宏	2000	天敵糸状菌 <i>Metarhizium anisopliae</i> のアリモドキゾウムシに対する殺虫活性とサツマイモほ場における防除効果.	九州病虫研報 46: 101-106.
鳥越博明・和泉勝一・山口卓宏	2000	天敵糸状菌 <i>Metarhizium anisopliae</i> のアリモドキゾウムシに対する殺虫活性とサツマイモほ場における防除効果.	九州病虫研報 46: 165-166. (講要)
豊里哲也・照屋清仁・原口 大・本間 淳	2016	(H204) イモゾウムシライトトラップの改良.	昆虫学会大会(76回)・応動昆大会(60回)合同大会講要.
Tsurui, K., Ohishi, T., Kumano, N., Teruya, K., Toyosato, T. and Shiromoto, K.	2015	Symptoms shown by late-stage larvae of the West Indian sweet potato weevil <i>Euscepes postfasciatus</i> (Coleoptera: Curculionidae) infected with <i>Farinocystis</i> sp. (Neogregarinida: Lipotrophidae).	Appl. Ent. Zool. 50(2): 245-254.
Tsurui-Sato, K., Kumano, N., Honma, A., Matsuyama, T., Haraguchi, D., Teruya, K., Toyosato, T. and Tatsuta, H.	2018	Host plants influence female oviposition and larval performance in West Indian sweet potato weevils <i>Euscepes postfasciatus</i> (Coleoptera: Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 53(1): 107-115.
上里卓己・小濱継雄・原口 大・下地幸夫	2003	(D109) 人工大量増殖におけるイモゾウムシの卵接種法.	応動昆大会講要 47: 57. (講要)
上里卓己・小濱継雄	2008	イモゾウムシ幼虫用人工飼料の簡易な作製法.	九州病虫研報 54: 60-63.
浦崎貴美子・大野 豪・原口 大・小濱継雄	2009	幼虫用人工飼料作製法の簡易化がイモゾウムシの生存と発育に及ぼす影響.	応動昆 53(1): 1-6.
Uritani, I., Saito, T., Honda, H. and Kim, W.K.	1975	Induction of furano-terpenoids in sweet potato roots by the <i>Larval Components</i> of the sweet potato weevils.	Agric. Biol. Chem. 39(9): 1857-1862.
山岸正明・下地幸夫	2000	不妊虫放飼法によるゾウムシ類の根絶(7) イモゾウムシの大量増殖・不妊化・マーキング・輸送・放餌.	植物防疫 54(11): 476-478.
山口卓宏・鈴木 芳	1999	蛹期に $\gamma$ 線を50Gy照射されたアリモドキゾウムシの性的競争力.	九州病虫研報 45: 76-79.
Yamaguchi, T., Setokuchi, O. and Miyaji, K.	2000	Development and adult survival of the sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae), during winter on Amami-Oshima Island, Japan.	Appl. Ent. Zool. 35(4): 451-458.
山口卓宏・宮路克彦・瀬戸口 脩	2005	奄美大島, 喜界島における冬季のアリモドキゾウムシの交尾と産卵.	応動昆 49(4): 205-213.
山口卓宏・時村金愛・原 洋一・當 直樹	2006	安価な原料用サツマイモを用いたアリモドキゾウムシの大量増殖.	応動昆 50(2): 157-165.
山口卓宏・川添幸治・和泉勝一	2006	アリモドキゾウムシに対する <i>Steinernema</i> 属線虫の殺虫活性と防除効果.	応動昆 50(3): 217-224.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
山口卓宏・宮路克彦・和田朋彦・湯田達也・鳩野哲也・西原 悟・木村浩司・當 直樹・田中文雄・中村孝久・里島伸司	2007	喜界島におけるアリモドキゾウムシの分布と発生消長.	九州病虫研報 53: 45-49.
山口卓宏・鳩野哲也・和泉勝一・西原 悟・木村浩司・鳥越博明・田中文雄・宮路克彦・原洋一・上田秋則・重井郁宣	2008	喜界島における低密度時期のアリモドキゾウムシ雄成虫の個体数推定.	九州病虫研報 54: 56-59.
山口卓宏	2008	奄美群島におけるアリモドキゾウムシの根絶事業.	農業技術 63(4): 170-175.
山口卓宏	2009	奄美群島におけるアリモドキゾウムシの生態と根絶防除に関する研究.	鹿児島農総セ研報(耕種) 3: 73-146.
山口卓宏	2010	奄美群島におけるアリモドキゾウムシの生態と根絶防除に関する研究.【特別講演】	九州病虫研報 56: 101-102. (講要)
山崎 昭	1972	種子島地域のアリモドキゾウムシ完全撲滅.	九州植物防疫 340: 1.
山下伸夫・市瀬克也・原口 大	2014	UV-LED ライトトラップによるイモゾウムシのモニタリング.	九州病虫研報 60: 106. (講要)
山下伸夫	2015	かんしょ圃場へのサトウキビトラッシュ散布がイモゾウムシや畑環境に及ぼす効果.	九州病虫研報 61: 94. (講要)
山下伸夫	2016	かんしょ圃場へのサトウキビトラッシュ散布がイモゾウムシの発生や畑環境に及ぼす効果.	九州病虫研報 62: 142. (講要)
安田 慶次	1989	イモゾウムシとアリモドキゾウムシのほ場における発生原因 I. 苗による侵入.	九州病虫研報 35: 120-122.
安田慶次・小濱継雄	1990	沖縄県におけるイモゾウムシとアリモドキゾウムシの分布. 沖縄県におけるイモゾウムシとアリモドキゾウムシの分布.	九州病虫研報 36: 123-125.
安田慶次	1990	イモゾウムシの発生生態.	植物防疫 44(3): 118-120.
安田慶次・杉江 元	1990	アリモドキゾウムシの合成性フェロモンの野外での誘引性.	植物防疫 44(3): 121-123.
安田慶次	1991	イモゾウムシとアリモドキゾウムシに対する薬剤防除効果.	九州病虫研報 37: 107-110.
Yasuda, K. and Naito, T.	1991	External characters for discriminating sex in the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> Fairmaire (Coleoptera: Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 26(3): 422-424.
安田慶次・杉江 元・R.R. HEATH	1992	アリモドキゾウムシの合成性フェロモンの野外条件下における誘引性.	応動昆 36(2): 81-87.
安田慶次・宮良安正	1992	イモゾウムシ成虫の発音について.	九州病虫研報 38: 89-91.
安田慶次	1993	沖縄県におけるアリモドキゾウムシ, イモゾウムシのサツマイモ畑での発生消長.	九州病虫研報 39: 88-90.
安田慶次	1994	イモゾウムシ・アリモドキゾウムシの発生生態と防除法.	農薬 41(3): 11-14.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
安田慶次	1995	カルボスルファン3%粒剤のイモゾウムシ, アリモドキゾウムシの成虫に対する忌避効果と幼虫に対する殺虫効果.	九州病虫研報 41: 78-80.
Yasuda, K.	1995	Mass trapping of the sweet potato weevil <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera: Brentidae) with a synthetic	Appl. Ent. Zool. 30(1): 31-36.
安田慶次	1995	株元処理によるイモゾウムシとアリモドキゾウムシ防除技術.	九州農業の新技术 8: 163-165.
安田慶次	1996	イモゾウムシ.	武田植物防疫叢書 近年話題の新害虫 9: 148-153.
安田慶次・Richard K.JANSSON	1996	アリモドキゾウムの合成性フェロモンが雄成虫の交尾行動に及ぼす効果.	九州病虫研報 42: 161.(講要)
安田慶次	1996	イモゾウムシ成虫捕獲用のピットホールトラップの作製とその誘引特性.	応動昆 40(2): 97-102.
安田慶次	1996	風洞内におけるサツマイモの異なる器官と被害塊根のイモゾウムシ成虫に対する誘引性.	応動昆 40(2): 160-161.
安田慶次	1996	飢餓条件下におけるイモゾウムシ成虫の寿命, 脂質含量, 乾燥重および交尾・卵巣発育.	応動昆 40(4): 273-278.
安田慶次	1997	サツマイモ圃場内のイモゾウムシによる被害茎の広がり成虫の移出.	九州病虫研報 43: 86-90.
安田慶次・高江洲和子・上原勝江	1997	天敵糸状菌 <i>Beauveria bassiana</i> のアリモドキゾウムシ成虫に対する感染性に及ぼす温度, 湿度, 分生子密度の影響.	応動昆 41(1): 55-58.
安田慶次	1997	サツマイモ畑におけるイモゾウムシ個体数の変化と被害.	応動昆 41(2): 83-88.
安田慶次	1997	イモゾウムシの加害に対するサツマイモの要防除被害水準.	応動昆 41(4): 201-207.
安田慶次	1997	カンショを加害するイモゾウムシの要防除水準.	九州農業の新技术 10: 182-185.
安田慶次	1998	イモゾウムシ・アリモドキゾウムシの総合的管理に関する研究.	沖縄農試研報 21: 1-80.
Yasuda, K. and Tokuzato, M.	1999	Sound production during mating and disturbance in the West Indian sweet potato weevil, <i>Euscepes postfasciatus</i> (Fairmaire) (Coleoptera : Curculionidae).	Appl. Ent. Zool. 34(4): 443-447.
Yasuda, K.	1999	Auto-infection system for the sweet potato weevil, <i>Cylas formicarius</i> (Fabricius) (Coleoptera : Curculionidae) with entomopathogenic fungi, <i>Beauveria bassiana</i> using a modified sex pheromone trap in the field.	Appl. Ent. Zool. 34(4): 501-505.
安田慶次・豊里哲也・高江洲 和子	2000	アリモドキゾウムシ成虫に対する天敵糸状菌 <i>Beauveria bassiana</i> のオイル混入による殺虫率の増大.	応動昆 44(4): 241-243.
安田慶次・本郷智明・江藤奈穂子	2004	視覚刺激を付加した新しいタイプのアリモドキゾウムシ防除用フェロモン剤.	応動昆 48(2): 87-93.
安田慶次	2009	アリモドキゾウムシとイモゾウムシ.	いも類振興情報 98: 11-15.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
吉田睦浩・市瀬克也・岡田吉弘・境 哲文	2013	カンショ圃場に施用した <i>Heterorhabditis indica</i> のイモゾウムシに対する野外感染形態.	日線虫誌 43(2): 57-58. (講要)
吉村仁志・米田雅典・加来健治・伊藤 登	1999	アリモドキゾウムシの野生寄主植物, ノアサガオ及びグンバイヒルガオにおける野外の寄生実態調査.	植防研報 35: 27-33.
吉武 啓	2019	アリモドキゾウムシの個体群レベルでの識別技術の開発に向けて. [特別講演]	九州病虫研報 65: 97. (講要)
Yoshitake, H., Arimoto, M., Hinomoto, N., Lee, C.F., Lu, S.S., Yap, S.A. and Cabras, A.A.	2021	Genetic variation of two weevil pests of sweet potato, <i>Cylas formicarius</i> (Coleoptera: Brentidae) and <i>Euscepes postfasciatus</i> (Coleoptera: Curculionidae), in Japan based on	Appl. Ent. Zool. 56(4): 483-496.
湯田達也・中村孝久・和田朋彦・田中文雄・木村浩司・牧野伸洋・山口卓宏・和泉勝一・川添幸治	2000	不妊虫放飼法によるゾウムシ類の根絶 (8) 喜界島における根絶実証事業.	植物防疫 54(11): 479-482.
—	1915	甘藷の象鼻蟲. (口繪)	病蟲害雑誌 2(9): 口繪
—	1933	アリモドキザウムシの被害. (口繪)	病蟲害雑誌 20(11): 口繪.
—	1940	アリモドキゾウムシの媒介に因て發病せる甘藷黒斑病. (口繪)	病蟲害雑誌 27(7): 口繪
—	2002	“虫を放して虫を滅ぼす” 植防最前線.	化学と生物 40(3): 168-171.

662 そのほかの害虫・害獣			
安藤延夫・阿部善三郎・田村光一郎	1969	サツマイモに發生するアカビロウドコガネ.	植物防疫 23(6): 241-244.
安藤幸夫	1995	施用2年後のクシダネマの圃場密度とサツマイモのコガネムシ類による被害防止効果.	九州病虫研報 41: 85-87.
東 清二	1967	サツマイモメイガの学名について.	沖縄農業 6(2): 55.
深沢永光	1977	サツマイモを加害するドウガネブイブイの發生と防除.	農薬研究 92: 12-17.
林川修二・嶽崎 研	2010	サツマイモ栽培における畦内のコガネムシ類幼虫の分布と被害.	九州病虫研報 56: 121. (講要)
林川修二・嶽崎 研・福田 健・水島真一・山下進	2013	サツマイモトビハムシ ( <i>Chaetocnema confinis</i> Crotch) の生態と防除.	九州病虫研報 59: 72-76.
林川修二・嶽崎 研・福田 健	2013	サツマイモ栽培畦内のコガネムシ類の分布と被害の發生	鹿児島農総セ研報 7: 39-46.
林川修二・福田 健・山下進	2014	サツマイモトビハムシ ( <i>Chaetocnema confinis</i> Crotch) の生態と防除 2. 種子島のサツマイモほ場におけるサツマイモトビハムシ幼虫の加害時期.	九州病虫研報 60: 64-67.
林川修二・福田 健・山下進	2014	種子島のサツマイモ栽培におけるサツマイモトビハムシの發生と被害の推移.	九州病虫研報 60: 96-97. (講要)
林川修二・福田 健	2014	サツマイモ栽培でのアオドウガネに対する有効薬剤の簡易検定法の検討.	九州病虫研報 60: 118. (講要)



著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
林川修二・福田 健・山下 進	2015	サツマイモトビハムシ( <i>Chaetocnema confinis</i> Crotch) の生態と防除 3. サツマイモの栽培条件がサツマイモトビハムシ幼虫の被害へ及ぼす影響.	九州病虫研報 61: 43-48.
林川修二・福田 健	2016	サツマイモトビハムシ( <i>Chaetocnema confinis</i> Crotch) の生態と防除4. 成虫に対する各種散布剤の殺虫効果, ならびに圃場での粒剤処理による塊根被害軽減に関する予備試験.	九州病虫研報 62: 95-99.
林川修二	2017	サツマイモトビハムシ( <i>Chaetocnema confinis</i> Crotch) の生態と防除.	植物防疫 71(12): 788-793.
平野千里・野口 浩	1963	ヨトウガ幼虫の食物利用性, 特に窒素の利用について.	応動昆 7(4): 311-315.
Hirano, T. and Muramoto, H.	1976	Effect of age on mating activity of the sweet potato leaf folder, <i>Brachmia macroscopa</i> : Lepidoptera : Gelechiidae.	Appl. Ent. Zool. 11(3): 154-159.
堀切正俊・原 次男	1956	イモヒナガの生態について 第1報.	九州病虫研報 2: 7-8.
堀切正俊・岡本信義	1957	(43) ヒルガオハムグリガ(仮称イモヒナガ)の生態について (II) .	九州病虫研報 3: 69-70.(講要)
堀切正俊・岡本信義	1958	(9) ヒルガオハムグリガ(イモヒナガ)の生態と防除について 第3報.	九州病虫研報 4: 14-15.(講要)
今坂正一・石関 博	2012	サツマイモヒサゴトビハムシのエンサイへの加害, および国内における分布と単為生殖個体群の存在について.	さやばねニューシリーズ 5: 18-21.
陣内宏亮	1997	佐賀県上場地域においてサツマイモを加害するコメツキムシ類.	九州病虫研報 43: 91-93.(講要)
上門隆洋	1989	サツマイモノメイガ生態と防除 II 奄美大島における越冬幼虫の齡構成.	九州病虫研報 35: 117-119.
上門隆洋	1991	サツマイモノメイガの生態と防除 IV 越冬世代の羽化時期と産卵.	九州病虫研報 37: 111-113.
神野賢浩・今村三男・上 忠衛・深町三朗・脇慶三・押川幹夫	1971	甘藷害虫に対する薬剤防除試験.	九州病虫研報 17: 145.(講要)
上和田秀美・中川耕人・小林正弘	1987	サツマイモにおけるナカジロシタバ幼虫発生の品種間差異.	九州病虫研報 33: 113-115.
上和田秀美・山方 誠・大矢慎吾	1988	人工飼料によるナカジロシタバの飼育.	九州病虫研報 34: 221.(講要)
上和田秀美・大矢慎吾	1991	ナカジロシタバの休眠誘起に及ぼす日長の影響.	九州病虫研報 37: 114-116.
笠原安夫	1955	TCAによる甘藷畑雑草防除試験 (1).	農及園 30(7): 985-986.
川原幸夫・宮原義雄	1967	野外網室におけるナカジロシタバ最終世代の生存曲線.	九州病虫研報 13: 143.(講要)
川崎修二・牧野 晋	1996	青果用サツマイモを加害するハイロサビヒョウタンゾウムシの生態と防除 1. 成虫の発生消長.	九州病虫研報 42: 164.(講要)
木口憲爾	2009	実験昆虫としてのエビガラスズメ.	いも類振興情報 98: 16-21.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
貴島圭介・上田重文・大野 豪・喜久村智子・上宮健吉・大石 毅・太郎良和彦・谷口昌弘・坂神たかね・安藤緑樹・二神和靖・上里卓己・兒玉博聖	2011	琉球諸島におけるタバココナジラミバイオタイプの地理的分布と寄主作物.	応動昆 55(1): 9-17.
小濱継雄	2010	沖縄県におけるサツマイモの食葉性害虫.	沖縄農研セ研報 4: 27-31.
小濱継雄・安藤緑樹	2018	沖縄県におけるサツマイモトビハムシの分布状況とその寄主植物.	沖縄農研セ研報 12: 43-47.
小濱継雄	2019	沖縄県におけるサツマイモトビハムシの分布状況とその寄主植物.	植物防疫 73(3): 175-178.
久保田篤男・石川元一	1981	サツマイモに対する青刈り麦施用とコガネムシ類の防除.	農業技術 36(3): 123-124.
Kushida, T., Katagiri, K. and Aoki, J.	1975	Infetion of <i>Aedia leucomelas</i> L. (Lepidoptera : Noctuidae) by <i>Entomophthora</i> species of the "Grylli" type in Japan.	Appl. Ent. Zool. 10(3): 226-230.
牧野 晋・深町三朗	1979	コガネムシの発生と土壌pH,有機物の関係について(予報).	九州病虫研報 25: 101-102.
牧野 晋	1988	サツマイモを加害するコガネムシの薬剤防除.	九州病虫研報 34: 221.(講要)
丸峯正吉	1978	アブラムシによるさつまいもの被害.	農及園 53(10): 1288.
榎本雅身・岡島秀治	2004	南西諸島から新たに発見された <i>Frankliniella cephalica</i> (Crawford) (アザミウマ目, アザミウマ科).	応動昆 48(3): 225-226.
宮原義雄・西久保稲男・上野徳男	1968	サツマイモほ場における食葉性害虫の消長.	鹿児島農試鹿屋支研報 5: 17-26.
宮原義雄・脇門敏治・田中 章	1971	ハスモンヨトウの産卵数,卵塊サイズの季節的消長.	応動昆 15(3): 139-143.
美山周一郎・永井清文	1968	甘藷食葉性害虫の省力防除.	九州病虫研報 14: 121.(講要)
燃脇 諒・津田勝男・坂巻祥孝	2014	サツマイモ圃場のナカジロシタバに対する2種BT剤の防除効果.	九州病虫研報 60: 121.(講要)
森 常也	1947	甘藷一新害虫 <i>Bemisia tabaci</i> GENNADIUS について.	九州農業研究 1: 14-15.
村本寛樹・早田栄一郎・平野千里	1976	イモキバガ性フェロモンの生物検定法.	応動昆 20(2): 77-80.
中川耕人・瀬戸口 脩・小林正弘・小芦健良	1986	サツマイモ食葉性害虫の生態 II. 主要害虫の成虫の発生活消長.	九州病虫研報 32: 136-139.
中川耕人・瀬戸口 脩・小林正弘・上和田秀美	1987	鹿児島県におけるサツマイモ食葉性害虫イモキバガの発生活消長.	九州病虫研報 33: 242.(講要)
中野昭雄・貞野光弘	1994	徳島県のサツマイモ栽培地帯におけるタバココナジラミの多発生について.	徳島農試研報 30: 32-40.
中野昭雄・喜田直康	1995	サツマイモ畑に発生するハスモンヨトウに対する昆虫寄生性線虫 <i>Steinernema carpocapsae</i> (str. All) の利用の可能性.	四国植防研究 30: 123-130.
西岡一也・木村浩司・西岡稔彦	2009	鹿児島県におけるサツマイモのヒルガオハモグリガの多発生.	九州病虫研報 55: 195.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
西岡稔彦・田中 章・末永 博	2001	鹿児島県鹿屋市におけるヒルガオハモグリガの局地的多発事例.	九州病虫研報 47: 94-98.
大村幸次・吉元 誠	2007	サツマイモでん粉廃液蛋白質のナカジロシタバ幼虫に対する防除効果.	九州農業研究発表会要旨集 70: 31.(講要)
Ohno, S., Haraguchi, D. and Kohama, T.	2010	Determination of major host plants and seasonal changes in infestation frequency of the sweetpotato vine borer, <i>Omphisa anastomosalis</i> (Lepidoptera: Crambidae), on Kume Island, Okinawa.	Appl. Ent. Zool. 45(4): 587-592.
大内義久	1973	イモコガの産卵を支配する条件.	九州病虫研報 19: 130.(講要)
大内義久	1976	半合成飼料によるイモコガの飼育実験.	九州病虫研報 22: 148-152
大内義久	1976	イモコガの発育に及ぼす環境条件の影響.	鹿児島農試研報 4: 63-68.
大矢慎吾・上和田秀美	1990	クシダネマによるサツマイモコガネムシ類防除の試み.	九州病虫研報 36: 126-128.
大矢慎吾・上和田秀美	1991	コガネムシ類によるサツマイモの被害発生実態.	九州病虫研報 37: 224-225.(講要)
大矢慎吾・上和田秀美	1992	クシダネマの株元注入によるサツマイモコガネムシ類の被害防止効果.	九州病虫研報 38: 92-95.
大矢慎吾・上和田秀美	1993	土壌中におけるクシダネマの移動.	九州病虫研報 39: 160-161.(講要)
瀬戸口 脩・中川耕人・小林正弘	1985	サツマイモ食葉性害虫の生態 I. 主要害虫の幼虫の発育経過.	九州病虫研報 31: 143-147.
瀬戸口 脩	1985	コガネムシ類幼虫によるサツマイモ被害の品種間差異.	九州病虫研報 31: 232.(講要)
瀬戸口 脩・末永利夫	1987	サツマイモノメイガの生態と防除 I. 奄美群島における発生分布.	九州病虫研報 33: 241.(講要)
瀬戸口 脩・中川耕人・小林正弘	1986	サツマイモの主要食葉性害虫3種の摂食量.	応動昆 30(2): 93-98.
Shimoda, M. and Kiuchi, M.	1997	Effect of chilling of diapause pupa on adult emergence in the sweet potato hornworm, <i>Agrius convolvuli</i> (Linne) (Lepidoptera; Sphingidae).	Appl. Ent. Zool. 32(4): 617-624.
Shimoda, M. and Kiuchi, M.	1998	Oviposition behavior of the sweet potato hornworm, <i>Agrius convolvuli</i> (Lepidoptera ; Sphingidae), as analysed using an artificial leaf.	Appl. Ent. Zool. 33(4): 525-534.
Suenaga, H.	2017	Ants (Hymenoptera: Formicidae) as potential egg predators of lepidopteran pests of sweet potato, <i>Ipomoea batatas</i> (Solanales: Convolvulaceae), in Japan	Appl. Ent. Zool. 52(2): 197-207.
高木三郎	1920	“甘藷ノ害虫「イモハムシ」ニ關スル研究.”, 甘藷ノ害虫「イモハムシ」及梨姫心喰蟲ニ關スル研究。(農商務省農務局編)	病菌害虫彙報 7: 1-7.
田村市太郎	1970	甘藷に対するマメコガネ幼虫の食害防除法 (実用農業問答).	農及園 45(7): 1113.
田村礼二	1970	早ぼり甘藷に加害するネズミ駆除について.	農薬研究 17(2): 56-61.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
田村礼二・谷 幸泰	1972	早掘甘藷を加害するケラの防除について.	農薬研究 71: 31-37.
田辺博司・山中 聡・武内克義・森 克彦	1996	<i>Steinernema glaseri</i> の畑土壌における生存性と移動性.	日線虫誌 26(1-2): 48-49. (講要)
谷 幸泰	1964	鳴門地方におけるサツマイモ害虫の発生予察および防除てんまつ.	植物防疫 18(9): 369-371.
津田勝男・東中祐枝・坂巻祥孝・井上栄明・上和田秀美・櫛下町鉦敏	2006	人工飼料によるナカジロシタバの飼育.	鹿児島大農学術報告 56: 39-44.
上田弘則	2014	“5 獣害の防止対策.”, 3節 病害虫・生理障害. VI章 焼きいも用サツマイモの栽培・管理と産地., 焼きいも事典 (いも類振興会 編)	いも類振興会, 東京, pp.125-127.
上田康郎	2014	“コガネムシ類. ハリガネムシ.”, (2) いもの害虫, 3 主な害虫と防除, 3節 病害虫・生理障害, VI章 焼きいも用サツマイモの栽培・管理と産地, 「焼きいも事典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, p.123.
Wakamura, S., Ohno, S., Arakaki, N., Kohama, T., Haraguchi, D. and Yasui, H.	2010	Identification and field activity of the sex pheromone component of the sweetpotato vine borer moth <i>Omphisa anastomosalis</i> (Lepidoptera: Crambidae).	Appl. Ent. Zool. 45(4): 635-640.
山下琢也・瀬戸口 脩・上和田秀美・櫛下町鉦敏	1996	鹿児島県における合成性フェロモンによるコガネムシ類の誘殺消長.	九州病虫研報 42: 75-78.
山下琢也・瀬戸口 脩・上和田秀美・櫛下町鉦敏	1998	南九州におけるアオドウガネの発生経過.	九州病虫研報 44: 67-71.
横井進二・辻 英明	1975	ヨトウガ, ハスモンヨトウ終令幼虫の食草間の移動に関する実験.	応動昆 19(3): 157-161.
横須賀知之・西宮智美・青木一美・黒羽美穂子・遠山宏和・仲田道生	2009	サツマイモにおけるタバココナジラミの発生と被害.	関東東山病虫研報 56: 142-143. (講要)
横須賀知之	2010	“(3) 害虫とその防除. ([2]のウ)を除く”, 3 病虫害, 生理障害, III サツマイモの生産と普及, 「サツマイモ事典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, pp.193-195.
横須賀知之	2014	“(1) 茎葉の害虫.”, 3 主な害虫と防除, 3節 病害虫・生理障害, VI章 焼きいも用サツマイモの栽培・管理と産地, 「焼きいも事典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, p.122.
Yokoyama, T., Hasegawa, M., Fujiie, A., Sawada, M. and Noguchi, K.	1998	Microbial control of scarab beetle larvae by a formulation of <i>Metarhizium anisopliae</i> (Deuteromycotina : Hyphomycetes) in a sweet potato field.	Appl. Ent. Zool. 33(2): 215-218.
横山とも子・伊東靖之・猪野 誠・高野幸成・松本健一・栗竹結花・大崎憲生	2008	製剤化した乳化病菌によるサツマイモ圃場のコガネムシ類幼虫に対する防除効果.	関東東山病虫研報 55: 195. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
行成正昭	2003	サツマイモ畑とそれに隣接した果樹園における予察灯でのコガネムシ類の誘殺消長の特徴.	四国植防研究 38: 51-58.
—	1920	甘藷葉喰蟲. (口繪)	病蟲害雑誌 7(2): 口繪
—	1923	甘藷の害蟲キマダラコヤガ. (口繪)	病蟲害雑誌 10(1):
—	1941	甘藷の葉潜蛾. (口繪)	病蟲害雑誌 28(3): 口繪

## 670 検疫・防除

### 671 植物検疫

源河正明・吉武 啓	2018	成田国際空港における輸入植物検疫で発見されたゾウムシ類(コウチュウ目ゾウムシ上科)の分類群構成の変遷.	植防研報54: 1-47.
濱上昭人・小坂真也・安達浩之・會澤雅夫	2002	那覇空港において移動阻止したさつまいも生塊根に寄生するゾウムシ類に関する調査.	植防研報 38: 115-119.
河村 太	2011	津堅島におけるアリモドキゾウムシ根絶事業について.	植物防疫所病虫害情報 125: 1-2.
桑原晴夫	1951	警戒を要する琉球の甘藷新病害.	農業技術研究 5(11): 34-35.
小野 仁	2011	さつまいも、ばれいしょの輸入植物検疫.	でん粉情報 50: 1-4.
杉本 毅	2009	アリモドキゾウムシの世界的拡散とわが国における定着可能地域の推定.	植物防疫所病虫害情報 87: 3-5.
松山隆志	2013	久米島におけるアリモドキゾウムシの根絶防除. (第 100 号記念特集)	植物防疫所病虫害情報 100: 7-8.
—	1988	主な未侵入病虫害の解説.	植物防疫所病虫害情報 27: 6-7.
—	1991	アリモドキゾウムシ種子島に発生 — 緊急防除を実施 —.	植物防疫所病虫害情報 34: 1-3.
—	1992	種子島におけるアリモドキゾウムシの緊急防除状況.	植物防疫所病虫害情報 37: 8.
—	1994	アリモドキゾウムシ・イモゾウムシ等の根絶実証事業.	植物防疫所病虫害情報 44: 1-2.
—	1995	さつまいもの生塊根を蒸熱処理で移動解禁.	植物防疫所病虫害情報 47: 3.
—	1996	アリモドキゾウムシの緊急防除実施状況 — 一部地域の根絶を確認 —.	植物防疫所病虫害情報 49: 8.
—	1998	アリモドキゾウムシの緊急防除実施状況 — 鹿児島県西之表市(種子島), 高知県室戸市 —.	植物防疫所病虫害情報 54: 1-2.
—	2004	国内における植物等の移動の制限・禁止.	植物防疫所病虫害情報 72: 1-4.
—	2004	屋久島における緊急防除を終了 — ゾウムシ2種を根絶 —.	植物防疫所病虫害情報 73: 1-2.
—	2008	鹿児島県指宿市山川岡見ヶ水で発生したアリモドキゾウムシの根絶について.	植物防疫所病虫害情報 84: 1-2.
—	2012	鹿児島県におけるカンキツグリーンング病菌(喜界島)並びにアリモドキゾウムシ及びイモゾウムシ(指宿市)の根絶.	植物防疫所病虫害情報 97: 3-4.
—	2012	特集: 国内植物検疫の実施状況(移動規制・緊急防除).	植物防疫情報 4: 1-2.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
—	2012	鹿児島県指宿市のイモゾウムシ・アリモドキゾウムシ根絶.	植物防疫情報 5: 6.
—	2013	侵入警戒調査事業の歴史. (第100号記念特集)	植物防疫所病害虫情報 100: 3.
—	2013	特集 久米島のアリモドキゾウムシの根絶	植物防疫情報 9: 1-2.
—	2015	那覇植物防疫事務所における国内検疫の取り組み.	植物防疫情報 17: 5.
—	2021	沖縄県の津堅島におけるアリモドキゾウムシ駆除確認調査.	植物防疫情報41: 4-5.
—	2021	沖縄などからのサツマイモの持ち出しについて.	植物防疫情報 43: 6.
—	2021	名瀬支所のサツマイモ生塊根の蒸熱処理施設を移設しました.	植物防疫情報 43: 7.

672 防除・農薬			
荒木田尚広・島田 峻・氏家勇佑・吉田喜一・田中研一・西宮智美・渡邊 健	2020	(利020) 海外輸出向けサツマイモ腐敗抑制技術の開発(第2報).	園学雑別冊(R2春): 利020.(講要)
淵脇郁夫・堀切正俊	1964	甘藷害虫に対する空中散布試験.	九州農業研究 26: 145-147.
福田 健・重水 剛	2018	サツマイモのセンチュウ類に対する新規薬剤「ビーラム粒剤」の防除効果.	九州病虫研報 64: 94.(講要)
福西 務	1977	土壌燻蒸剤のマルチ畦内消毒による土壌病害防除.	徳島農試研報 15: 33-42.
鹿児島県立農事試験場	1942	甘藷種藪の消毒試験.	病虫害雑誌 29(11): 39-41.
金磯泰雄	2012	Ⅱ. サツマイモ・ダイコンで問題となる連作障害と対策. (現地シンポジウム)	日本砂丘学会 59(2): 77-82.(講要)
小池久義・富沢長次郎	1954	有機燐剤の甘藷に及ぼす生理化学的影響.	防虫科学 19(4): 121-127.
九州農業試験場	1967	甘しょ作に対する除草剤DCPAの使い方.	九州農試年報(昭和39年度), pp.35-
森 寛一・沢田 肇・池上雍春	1960	甘藷の薬剤消毒について 第2報 水銀の化合形態と防除効果.	日植病報 25(5): 214.(講要)
川元玲奈・津田勝男・坂巻祥孝	2015	サツマイモ圃場における選択的殺虫剤の天敵への影響.	九州病虫研報 61: 94.(講要)
鮫島徳造・湯池好堅	1951	D-D及びクロールピクリンの土壌消毒後の日数と甘藷苗の薬害に関する試験(豫報).	日植病報 15(3-4): 168.(講要)
白浜賢一	1950	甘藷の新らしい粉衣貯蔵法 —新しい経営と技術—.	農業世界 45(12): 110-111.
田中昭人・村井恒治・米本謙悟	2015	徳島県サツマイモ産地の環境に配慮したクロールピクリン剤使用法の推進.	農薬誌 40(1): 76-80.
田中昭人・大黒香奈美・谷 博・米本謙悟・村井恒治・小原裕三	2020	サツマイモ栽培におけるガスバリアー性フィルムを用いたクロールピクリンの放出抑制について.	日植病報 86(3): 206.(講要)
有働和文・高岡留吉・江藤慶一	1964	甘しょ除草剤の使用法について.	日作九州支報 23: 55-54.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
米本謙悟・田中昭人・坂口謙二	2008	土壌くん蒸剤のマルチ畦内消毒における低透過性フィルムを利用したガス透過抑制とサツマイモ立枯病に対する防除効果の向上.	徳島農セ研報 5: 45-51.
<b>680 その他</b>			
金山 巖	1924	甘藷の痘瘡病.	病蟲害雑誌 11(9): 32-34.
金山 巖	1925	甘藷痘瘡病と土壤の湿度との關係.	病蟲害雑誌 12(11): 28-30.
高橋美帆・堀元栄枝・秋野順治	2016	(G102) サツマイモの花外蜜腺はアリ依存型間接的防衛戦術として機能するか.	昆虫学会大会(76回)・応動昆大会(60回)合同大会講要.
上田弘則	2014	“5 獣害の防止対策.”, 3節 病害虫・生理障害, VI章 焼きいも用サツマイモの栽培・管理と産地, 「焼きいも事典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, pp.125-127.